

ラオス人民民主共和国
ラオス日本人材開発センタープロジェクト
(フェーズ2)
中間評価調査報告書

平成20年7月
(2008年)

独立行政法人国際協力機構
公共政策部

公 共
J R
09-021

ラオス人民民主共和国
ラオス日本人材開発センタープロジェクト
(フェーズ2)
中間評価調査報告書

平成20年7月
(2008年)

独立行政法人国際協力機構
公共政策部

序 文

ラオス人民民主共和国（以下「ラ」国）は、1986年に採択された新経済メカニズム（New Economic Mechanism: NEM）の下、市場経済移行のための経済改革が進行中であり、第4次5カ年計画（1996-2000年社会・経済開発計画）の中で、経済改革を推進する担い手の育成が重要な課題と位置づけられている。また、2001年3月の第7回ラオス人民革命党大会政治報告の中で、2020年までに貧困を撲滅し、開発途上国から脱却することを中心とした長期目標を発表し、第5年次国家社会経済開発計画では、持続的な経済成長の確保や貧困層の半減と並んで、全分野における人材開発の促進、近代的産業開発の支援体制の確立等を目標としている。

一方、我が国においては、市場経済移行国に対する人材育成支援の一環として「日本人材開発センター」の設立が1998年に構想された。「ラ」国政府より同国内における同構想実現に向けた強力な要請が示されたことを受け、NUOLを協力相手方機関として、ラオス国立大学経済経営学部支援及び日本人材開発センター設立への協力を一つのプロジェクト方式協力である「ラオス国立大学経済経営学部支援及びラオス日本人材開発センター」プロジェクトを2000年9月に開始した。

2005年1月に実施した終了時評価調査では、プロジェクトの協力実績及び成果について「ラ」国政府と検証を行い、ラオス日本人材開発センタープロジェクトが高い成果を上げたことが確認された。このため、「ラ」国政府は、ラオス日本人材開発センタープロジェクト（フェーズ2）の実施を我が国に要請し、「ラ」国政府と日本側との協議の結果、2005年9月より5年間の計画でフェーズ2を実施することが合意され、現在、フェーズ2として技術協力プロジェクトが実施されている。

今般、プロジェクト開始から2年半が経過したため、2008年5月26日から6月12日の日程で、中間評価調査団を現地に派遣し、ラオス側と合同で、プロジェクトの中間評価を実施した。本報告書は、同調査団の調査・協議結果をとりまとめたものであり、プロジェクトの成果達成のために、広く活用されることを願うものである。

終わりに、この調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成20年7月

独立行政法人国際協力機構
公共政策部長 黒柳 俊之

目 次

序文

目次

略語一覧

評価調査結果要約表

第1章 中間評価調査の概要	1
1-1 本評価調査の目的	1
1-2 調査団の構成・期間・日程	1
1-3 案件の背景・経緯・概要	2
第2章 中間評価の方法	4
第3章 プロジェクトの実績	5
3-1 投入実績	1
3-2 アウトプットの実績	7
3-3 プロジェクト目標及び上位目標の達成状況	23
3-4 その他の特記事項	25
第4章 評価結果	27
4-1 評価5項目ごとの評価	27
4-2 結論	33
第5章 提言と教訓	37
5-1 提言	37
5-2 教訓	39
第6章 団長所感	40

別添資料

1 ミニッツ

2 面談議事録

略語一覧

略語	正式名称	日本語訳
LJC	Lao-Japan Human Resource Cooperation Center	ラオス日本人材開発センター
NUOL	National University of Laos	ラオス国立大学
FEBM	Faculty of Economics Business and Management	経済経営学部
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
C/P	Counterpart	カウンターパート
MBA	Master of Business Administration	経営学修士号
PDCA	Plan, Do, Check, Action	計画・実行・検証活動
PDM	Project Design Matrix	プロジェクトデザインマトリックス
PhD	Doctor of Philosophy	博士号
TOR	Terms of Reference	業務指示書
TQM	Total Quality Management	総合的品質管理
UIB	University of International Business	UIB
USAID	United States Agency for International Development	米国国際開発庁
WTO	World Trade Organization	世界貿易機関
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations	東南アジア諸国連合
LDC	Less Developed Countries	後発開発途上国
EU	European Union	欧州連合
HR	Human Resource	人的資源
IT	Information Technology	情報技術
OJT	On-the-Job Training	オンザジョブ・トレーニング
5S		整理・整頓・清潔・清掃・習慣化 (躰)

評価調査結果要約表

1. 案件の概要			
国名：ラオス人民民主共和国	案件名：ラオス日本人材開発センタープロジェクト（フェーズ2）		
分野：その他	援助形態：技術協力プロジェクト		
所轄部署：公共政策部 日本センター課	協力金額（評価時点）：560,577千円（08年度実施計画ベース）		
協力期間	(R/D): 2005/09/01~2010/08/31		
	先方関係機関：教育省、ラオス国立大学		
	日本側協力機関：独立行政法人国際交流基金		
	(E/N)（無償）2000年1月12日		
	他の関連協力：		
1-1 協力の背景と概要			
<p>ラオス国では、1986年以降、市場経済移行のための経済改革が行われており、そのための人材育成が重要な課題とされている。1995年には人材育成の一環として、アジア開発銀行の支援を受けてラオス国立大学が設立され、その際に経済経営学部も新設された。しかし、アジア開発銀行の支援プロジェクトが2001年9月で終了するため、それ以降の技術協力を日本に求めてきた。</p> <p>一方、わが国においては、市場経済移行国に対する人材育成支援の一環として、「日本人材開発センター」を設立することが構想され、1998年7月にラオス日本人材開発センター設立構想をラオス側へ提示した。その結果、ラオス国立大学経済経営学部支援及び日本人材開発センター設立への協力を一つの技術協力プロジェクトとして実施することが合意された。2000年7月6日に討議議事録(R/D)に署名し、2000年9月1日から5年間の技術協力プロジェクトを開始した。当初4年間は、ラオス日本人材開発センター（以下、「LJC」という。）プロジェクトとラオス国立大学経済経営学部支援を、1つのプロジェクトとして運営していたが、それぞれの活動が拡大したため、2004年からそれぞれを分離して実施することとした。</p> <p>カウンターパート機関であるラオス国立大学は、LJCプロジェクトの協力を高く評価し、JICAからの協力の継続を要請した。JICAは2005年9月から5年間の予定で「ラオス日本人材開発センター（フェーズ2）」を開始した。</p>			
1-2 協力内容			
(1) 上位目標			
ア LJCがビジネス分野においてラオスの市場経済化に資する人材開発のための中核的な役割を果たす。			
イ LJCがラオス・日本両国の人々の間に相互理解を促進する拠点として活用される。			
(2) プロジェクト目標			
ア ラオスの市場経済化に対応する人材育成を推進する為のサービスがLJCによって提供される			
イ 相互理解を促進する活動に参加するための情報と機会がLJCによってラオス・日本両国の国民に提供される。			
(3) 成果			
ア LJC事業実施体制が強化される。			
イ ラオスの民間人材を対象とした実践的ビジネスコース並びにビジネス分野サービス（工場診断、起業家育成（インキュベーション機能）、ビジネスマッチング）が提供される。			
ウ LJCがラオスにおける日本語教育の拠点となる（リソースのネットワーク化を推進）			
エ 両国民間の相互交流システムが構築され、活動が活発化される。			
(4) 投入（評価時点）			
ア 日本側：			
長期専門家派遣	4名(延べ7名)	短期専門家派遣	17名
本邦研修	25名	第三国研修	5名（タイ）
機材供与	0.13億円	在外事業強化費	0.45億円
イ 相手国側：			
カウンターパート配置	15名	LJC雇用スタッフ	35名
土地・施設提供	(LJC敷地と駐車場)	運営費	(光熱費や通信費)
2. 評価調査団の概要			
調査者	団長・総括： 梅本 真司 JICA 公共政策部日本センター課 課長 評価分析： 竹井 誠 (株) パンテル・インターナショナル 協力企画： 末田 和也 JICA 公共政策部日本センター課		
調査期間	2008年5月26日～2008年6月12日	評価種類：中間評価	

3. 評価結果の概要

3-1 投入の確認

ラオス側の C/P（公務員として LJC に勤務するラオス側教職員。なお、LJC で雇用されている職員は「スタッフ」、双方を総称する場合は「LJC スタッフ」と記す。）は本フェーズ開始当初 10 名だったが、調査時点では 15 名に増加しているなど、ラオス側の強いオーナーシップとコミットメントにより、プロジェクトの投入は適時適切に行われている。C/P の配置に空白期間が生じた例もあったが、プロジェクトの進捗には大きな支障は生じていない。日本側の投入についてもほぼ計画通りに進捗している。

これらをはじめ、双方の適切な投入がプロジェクトの円滑な進捗に貢献していると判断できる。

3-2 成果の達成状況

LJC の事業実施体制強化のための方策が当初計画されていた活動に沿って行なわれており、組織として LJC が成長・強化されていることが確認された。特に、人材育成の面では、個々人の能力の現状把握と到達目標、及びそのために必要な措置について個人と組織（マネジメントレベル）が情報を共有しており、個々人の能力強化が組織の強化につながりつつある事例といえる。

今後のより一層の体制強化のためには、総務部門を中心とする総合調整機能の強化が必要であると判断される。これについても、組織改編や人事異動、特別手当の支給基準の変更など、積極的に問題を把握し、改善しようとしていることが確認できた。

また、運営管理のより一層の効率化のために昨年度から行われている業務分析に基づき、業務フローや意思決定過程の効率化が期待できる。

LJC の実施体制強化の一環として、LJC スタッフに占める C/P の割合をさらに増やすことも検討されている。現在、ラオス人所員 50 名のうち、15 名が C/P（公務員スタッフ）であるが、ラオス側としては、班長クラス以上の 21 名を全て公務員スタッフとしたいとの意向がある。ただし、現在 LJC は大学の附属機関という位置づけであり、NUOL では通常、附属機関は 10 名程度の公務員しか配置されない。このため、これ以上の定員拡大のためには、学内の設置ステータスの見直し（例えば現在の Center から学部と同等の Institute へ格上げする）といった抜本的な対策が必要であるという意見があった。

ビジネス部門は、基本的にラオス側人材によって運営管理されている。これは、フェーズ 1 からの知見の蓄積により、事業の企画・立案・実施・評価の一連のサイクルが基本的にラオス側のみで自立的に行われていることによる。これに対して日本側の投入は「実践的な経営スキル・手法」に絞って行ってきた結果、理論と実践のバランスの取れたカリキュラムを提供できるという比較優位性を確立しつつある。当初想定された省庁等との連携についても、セミナーやコンピュータコースの提供により、一定の評価と地位を確立することに成功している。

他方、事業マネジメントに対して必ずしも十分な投入を行なってこなかったことに起因すると思われるマイナスの要因も確認された。具体的には、2007 年度に入ってラオス側による座学コースの受講生が減少した、ということである。これに対し、2008 年 2 月には日ラで協働して問題解析を行い、コースカリキュラムを改訂した。更に、ラオス側のイニシアティブにより 2008 年 9 月からは MBA コースが経済経営学部と LJC によって開講予定となっており、より高度なビジネス人材の育成が行なわれることが期待される。

一方、市中に類似機関が増加しつつあり、より一層の競争力強化が必要であるので、より効果の高いサービス提供のための実施体制（日本側を含む）の構築が必要である。

ラオスにおける日本語教育は、援助再開以降まだ歴史が浅く、現地講師の人材育成が急務であるが、そのためには少なくとも今後 5～10 年は人材育成による日本語学習者の数と質の向上が必要と推測される。NUOL 日本語学科とのより一層の連携により、より幅広くかつ高度な人材育成によって、拠点としての機能は強化されていくことが期待される。

これまでの活動により、ラオス国内及び国外とのネットワーク作りは盛んに行われている。また、LJC が「日本語教育研究会」の事務局となっていること、LJC が日本語能力試験の実施機関となっていること、ラオス国内にあるほぼ全ての日本語教育機関（評価調査時点で 11）でも利用されているラオス語教材の作成も行っていること等から LJC はすでにラオスにおける日本語教育の拠点として機能していると判断される。

相互交流部門については、各種活動結果や本調査のインタビュー調査から判断するに、両国民間の相互交流システムが構築され、活動が活発化されているといえる。相互理解促進の活動についても日本語部門と同様、すでに日ラの交流の拠点としての地位を確立している。これは、追従する他の類似機関が存在しないことも理由のひとつではあるが、それ以上に着実な活動実績により、交流拠点としての LJC の認知度が市民だけでなく政府にも浸透しつつあることから判断される。さらに、マスメディアを通じた広報活動により、LJC の認知度も向上していると判断される。

現在、日本の大学との連携強化やラオス人に対する日本への留学情報の提供など、さらに高度な機能付加が行われつつある。相互理解促進の拠点として LJC の役割は増大していくことが想定される。

3-3 評価結果の要約

(1) 妥当性

ラオス政府の国家開発計画との整合性、受益者ニーズとの整合性、日本側の政策との整合性の全てについて妥当性はあると判断され、全体としても妥当性は十分にあると判断される。また、関係者への質問票の回答などからも大部分の人が妥当性はあると判断している。

(2) 有効性

LJC は、ビジネスコース、コンピュータコース、日本語コースの実施を通じて人材開発面で重要な役割を担っており、ラオス国立大学幹部も LJC ビジネスコースの重要性を認識し、またビジネスコースだけでなく、日本語コース、コンピュータコース、相互理解促進事業についても高く評価している。

インターネットや AV 機器等の情報設備の希少性から、メディアルームや図書室等を利用して情報を得るために LJC を利用する学生・一般利用者は多く、情報発信の拠点としても重要な役割を果たしている。また、一般民間企業の経営者や従業員を対象とした日本の経験を活かしたビジネスコースや広く一般に開かれた日本語コースの実施も、相互理解の促進につながっていると捉えることができる。

本プロジェクトが掲げる 2 つのプロジェクト目標との関係では、上述の「目標ア」については、現時点では成り行きを観察しなければ有効性を判断できない点が存在するが、「目標イ」については、技術移転や人材育成などについて一層の努力をする必要があるものの、目標は一定程度達成されていると判断される。

(3) 効率性

ラオス側からも人材を中心に積極的に投入がなされ、これらを含めた投入によって成果はあがっている。またプロジェクトの実施プロセスにおいても、おおむね問題はなく、効率性については高いと判断される。

(4) インパクト

すでにいくつかの注目すべき事例を確認することができるなど、本案件の活動が一定の波及効果を発現させつつあると判断できる。また、上位目標の達成の可能性については、既に上述の「上位目標イ」がほぼ達成されているといえる。

(5) 自立発展性

本フェーズの事前評価調査においては、以下の 2 点によって自立発展性の可能性が評価されており、今次中間評価調査では、その可能性を評価した。

①LJC の実施体制はおおむね確立されており、ラオス側のオーナーシップも高いが、給与水準が民間と比較して高くはないため、福利厚生や諸手当によるインセンティブシステムの構築が必要であり、計画されていること。

②各コースが受講料を徴収していることから、長期的には自己収入による支出負担比率の増大が期待できること。

第 1 点目に関しては、手当支給体系の見直しや語学手当の導入などによる改善が行われており、今後の効果発現が期待される。他方、現地調査での LJC スタッフに対するインタビューにおいては、依然として各種インセンティブに対する要求（国外での留学や研修機会の提供、給与水準など）が聞かれた。これらの要望を踏まえつつ、限りある予算規模の中で各個人の能力を最大限引き出すための仕組みづくりが今後も継続的に行われる必要があることが確認された。また、既述のとおり、今回の調査で総務機能のより一層の強化が組織・個人双方で必要であることが確認された。すでに、組織改編やマネジメントクラスの人事異動などの措置は取られているが、これらに対して日本側としての協力の可能性について検討することが必要である。

上記との関連で、LJC で育成したスタッフが大学の正職員への格上げ見込みが薄いということや給与などの待遇面で折り合いがつかず離職してしまうケースがある。これは知見・ノウハウの蓄積による技術面での自立発展性に対する負の要因となりうる。ラオス人の職業観によるところも否定できないが、ラオス政府及び NUOL による LJC への公務員配置人数の拡大などの対応策について、然るべきレベルへの働きかけも重要と思われる。

以上より、福利厚生や諸手当によるインセンティブシステムの構築は計画されているが、その効果の発現を確認することは時期尚早といえる。

第 2 点目に関しては、JICA の負担とラオス側負担及び自己収入充当の比率がほぼ 1:1 である。短期的な変動要因としては、JDS 研修の受託収入が減少要因となり、MBA による収入が増収要因となる。次項に示す簡易なシミュレーションによれば、これらの要因を踏まえた短期的な財務状況の傾向は自己収入による支出負担比率の増大が期待でき、プロジェクト終了時までさらなる増大も期待できる。したがって、「長期的には自己収入による支出負担比率の増大が期待できる」といえる。しかしながら、自己収入による全額の支出負担

は困難と思われ、残りの部分については、引き続き日本側による何らかの財政負担が必要である。

3-4 効果発現の阻害・貢献要因

貢献要因

(1) ラオス側のオーナーシップの強さ

LJC は NUOL の附属機関として位置づけられ、法的措置に問題はない。市場経済化の動向や、政府の支援も特に大きな変化はみあたらない。さらに、プロジェクトは多くの関係者の理解を得ており、既述のようにラオス側のオーナーシップは強く、大きな貢献要因となっている。

(2) コスト負担の割合

ラオス側の予算措置とセンター収入によるコスト負担の合計が年々増加傾向にあり、昨年度はセンター支出全体の 50% に達するなど、より健全なコストシェアへ向けての努力が見られる。

(3) ラオス国立大学経済経営学部との連携体制

プロジェクト設計当初から、経済経営学部の教員をビジネスコースの現地講師として活用することが計画され、その計画どおり LJC ビジネスコースの現地講師の大部分は、経済経営学部の教員が担っている。このような相互連携の枠組みは、安定的な現地講師の確保を容易にし、ビジネスコースの自立発展性の向上に貢献している。また同時に、受講者は現役の経営者並びに従業員であることから、現地講師はそれらの受講者との意見交換を通じて実践面における課題を吸収し、教員にとっては実践的な知識が身に付き、それがさらに、講義内容の改善につながっている。

(4) ラオス国立大学文学部との連携体制

日本語コース運営では、文学部との間にビジネスコースにおける講師派遣のような連携体制はないものの、LJC と文学部日本語学科が車の両輪となって、ラオスにおける日本語教育の中心的役割を果たしていることが目標達成を促進している。

国際交流基金の日本語教育に関するノウハウをもとに、体系的なクラス体系を採用して実施しており、さらに教材の作成等の面でも LJC がラオスにおける日本語教育の中心的役割を果たしている。しかしながら、外部からはさらなる教材の作成や辞書の作成、さらにはより上のクラスの設立を望む声も上がっている。これらのニーズに応えられる意味でも、今後技術移転により、C/P 及びスタッフのレベル向上が求められる。

(5) 定期的なコース評価の実施

LJC では、各活動（ビジネスコース、コンピュータコース、日本語コース、相互理解促進事業）の参加者に対して終了時にアンケート調査などを行っている。同調査結果は、コース内容の改善のために活用されている。例えば、ビジネスコースにおいては、アンケート結果に基づくテキスト内容の修正・見直しはもちろんのこと、人気のない科目については、新しい科目と入れ替えられている。最近では受講者ニーズの大きな変化が見られ、これに対して、新しいカリキュラムの検討がなされ、FEBM との MBA プログラムの設立が準備されており、対応が図られている。さらに、ビジネス実践コースの運営では、2006 年以降、業務委託方式によってコンサルタントが継続的なニーズ調査、コース企画・運営、事後評価と次期企画への反映を終始一貫して行っており、これも目標達成を促進していると考えられる。このように、コース内容を定期的にモニタリング・評価し、改善を図ることが通常活動の中に組み込まれていることは、ニーズに応じたカリキュラムの提供につながり、プロジェクトの成果を高める上で効果的である。

(6) ラオスに進出する日系企業の数

最近ラオスに進出する日系企業の数が増加しており、日系企業を対象とした日本語の特別コースが実施されるなど、本プロジェクトに対してプラスの変化をもたらしている。一方、中国やベトナム、タイなどによるビジネススクール設立など積極的な進出により、日本のプレゼンスが相対的に低下していく恐れもある。これらの変化に対応するため、センターの活動強化や広報活動の一層の努力が望まれる。

阻害要因

(1) コミュニケーション力

実施プロセスにおける特記事項で述べたように、いくつかのレベルごとの定期的な会合をもつなど、プロジェクト内のコミュニケーションはよいと言えるが、特に総務部門を中心に、英語によるコミュニケーション力の不足がみられ、これが阻害要因になっているという指摘があった。これに対してはすでいくつかの対策がとられているものの、今後も一層の努力が必要である。

(2) ラオス人ビジネスコース講師の質

ビジネスコースのラオス人講師に関しては、C/P 機関である NUOL の FEBM の人材が確保されていることは目標達成を促進している一方、これら講師の実務知識の不足や、講義内容の質の低さが目標達成の阻害要因となりうるおそれがある。特に MBA コースが開始された場合、受講生からの講師の質に対する期待はさらに高まると思われ、教授方法も含め、講師の質の向上に向けた努力が肝要である。

(3) スタッフの離職

LJC は内部昇進制度が確立しており、スタッフの定着率は比較的高いが、班長以下に、給与等の待遇あるいは昇進の可能性のより高い組織へ離職するスタッフが散見される。これも阻害要因となる恐れがあり、公務員枠の増大も含めた、インセンティブの確保に努力をしていく必要がある。

(4) 教室の数の不足

建物は日本の無償資金協力を通して建設されたものであるが、その後日本語教育用の教室用建物が増設された(5 教室)。施設の多くはフェーズ 1 で整えられ基本的に問題はない。しかし活動の発展、活発化により、教室の数の不足の問題が発生しつつあり、これが阻害要因となる可能性がある。

3-5 結論

日ラ双方の各レベルにおける努力によって、本プロジェクトは当初計画した投入により活動を行ない、一定の成果を発現しつつある。プロジェクト終了時点でプロジェクト目標を達成する可能性は高いと判断される。さらに、本プロジェクトはまさに日ラの「拠点」としての地位を確立しつつあり、その観点で本案件はすでに上位目標の一部を達成していると判断される。

総務を中心とする実施体制のより一層の強化や、日本側からの投入に依存している活動費のより一層の現地化など、終了時に向けて改善が必要な課題はいくつかあるが、現時点においてはそれらがプロジェクト目標の達成を阻害する大きな障害ではないと判断される。

3-6 提言(当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言)

本フェーズ後半、さらには将来に向け、より効率的かつ効果的な運営を図るため、調査団はプロジェクトに対して以下の提言を行なった。

(1) 実施体制をさらに強化する。

(ア) LJC C/P 及びスタッフ(特に総務部門)の業務実施能力強化のため、およそ以下の方策を通じて特に他部門との調整能力、コミュニケーション能力等を強化するべく、LJC 所長・副所長並びに JICA 専門家間で検討し、実施する。

① C/P 及びスタッフ(特に総務部門)の事務処理能力の向上を図るための各種指導(経理処理の迅速化、他部門との調整力強化、カスタマーサービスの向上など)を日本人専門家(ビジネスコース専門家等)によるセミナー開催や OJT を通じて行う。また、他の類似機関(JICA 事務所含む)の総務部門での研修実施の可能性について検討する。

② 英語、日本語能力の更なる向上のため、英語については現行の外部専門家による OJT に加え、会話能力の向上を目指すとともに日本語についても同様に会話能力の向上を目指す。

③ LJC で外部向けに実施する活動を LJC 自身が実践することで、他機関のモデルとなるよう努力する。
(例: ビジネスコースで提供する 5S やカイゼン等の実践例を LJC 自らが行う、また LJC 自身の企業診断をビジネスコース専門家が行うなど)

(イ) 各部門がコア・コンピタンスを持つことによる他機関との比較優位性を向上させ、自立発展性をより強化する。調査団が想定する各セクションのコア・コンピタンスは以下のとおりであるが、LJC 内でより一層議論が深まることを期待する。

① 総務部門

公的機関としての質の高いカスタマーサービスが提供できる。

② ビジネス部門

日本的経営の実践例やラオス国内の実践例に基づいた、実践的なビジネスノウハウやスキルを提供することができる。

③日本語部門

初級および初中級の日本語能力向上のための質の高い講義を提供できるのみならず、初級および初中級レベルまでの教材開発、語彙集などを開発することができる。

④相互理解部門

日本・ラオスの文化交流イベントを実施する国内唯一の機関としてのコア・コンピタンスをすでに有するが、広報活動の更なる強化を図り、イベント等を通じ LJC の認知度を向上させる。また、日本への留学情報発信ならびに大学間交流の拠点さらにラオス青年の派遣前研修、JOCV 語学訓練など両国青年の研修の拠点となる。

(2) LJC が実施する各事業の一層の効率的かつ効果的運営のための方策を検討する。必要に応じ、プロジェクトとして必要な予算措置・投入を検討する。

(ア) ビジネスコース

①今年度の LJC ビジネスコースについては、ラオス側提案のカリキュラムを実施するが、引き続き受講生のニーズに柔軟に対応できる体制を維持し、必要に応じて改編する。

②今年度派遣予定のビジネスコース専門家については、ビジネスコース部門の責任者を C/P とし、企画立案も含む運営指導について技術移転を行うこととする。

③9月開設の MBA プログラムの円滑な運営およびコース内容の質を確保するため、以下の方策を講じる。

- ・MBA プログラム運営プロセス（募集、選考、登録、出欠管理、受講料徴収管理等）における透明性、公平性の確保に十分な配慮を行い、質の高い運営に努める。
- ・MBA プログラムの円滑な運営を図るため、ビジネスコース事務局の能力強化を図る。
- ・MBA 運営管理委員会（Management Committee of MBA；仮称）メンバーに LJC 日本側所長を加えると同時に、講師陣の質を継続的に確保するための評価委員会的な機能を付与する。
- ・ビジネスコース運営管理専門家は C/P を通じ、MBA の効果的な運営に関する必要な助言が行えることとする。
- ・講義内容の質を確保するため、教授法の継続的な改善が図られるよう適切なモニタリングシステムを確立する。

④現在主にラオスの主要な産業である縫製業や木材加工（家具等）等製造業を中心とした現場指導を実施しているが、サービス産業（販売、流通業など）を対象とした現場指導を可能な範囲で行う。

⑤現場指導で得た教訓を座学（講義）に取り入れ、ラオスの現状に即したより実践的な講義内容とする。そのための仕組み（メカニズム）を日ラ協働で構築する。

(イ) 日本語コース

①ラオス国立大学文学部日本語学科との連携を強化し、大学全体としての初級レベルおよび初中級レベルの受講者に対する日本語教育能力を一層高める。具体的には、日本語学科は教室が不足しているため、今後も継続して LJC 教室の昼間の貸与を行う。また同学科の一部科目を LJC で実施する。LJC の行う日本語関連情報を同学科学生と等しく共有を図り、また日本語祭りなどへの参加を奨励し、両機関の受講生の能力強化を協同して行う。

②初級および初中級レベルまでを教授できる現地講師育成を一層強化する。

③初級および初中級レベルを対象とした教材開発能力を一層強化する。

(ウ) 相互理解促進事業

①情報文化省他関連するラオス側政府機関との連携を通じ、ラオス事情全般にかかる情報収集機能を強化し、日本の大学関係者や訪問者に対する情報提供機関としての機能を強化する。

②自立的なイベント等運営管理能力の一層の強化を図るべく、C/P への技術移転を促進させる。

③日系企業等との協力体制をさらに強化し、文化イベント等開催時の企業からの協賛を得るなど運営基盤を強化する。

④日本への留学情報支援、日ラ大学間交流のための支援、両国を訪問する青年らへの研修機関としての機能を強化する。

(3) LJC の更なる発展（自立発展性の強化）のための取り組みを日ラ双方で検討する。

①フェーズ2後の LJC のあり方について、現在までの成果を踏まえた現実的な将来像の検討を開始する。JCC の sub-committee を設立するなど定期的に将来像を日ラオス双方で検討するメカニズムを確立し、年度内には日ラ双方で一定の合意形成を目指す。

②財政基盤の一層の強化を図るため、現地での事業実施にかかる必要経費にかかる日本側の経費負担

と事業収入を含むラオス側負担との比率については、フェーズ2終了に向けてより自立発展性の高い財務体質を指向する。このため、業務の効率化を図りコスト削減に努める一方、事業の質を損なわない範囲で受講料等各種収入増を図る。

- ③より詳細な財務分析を可能とするため、日ラ双方で共通の収支比較ができるよう必要な準備（財務会計科目の標準化など）に着手する。

3-7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

本評価調査を通じ、調査団は、本案件の経験から導き出され、主に他の日本センタープロジェクトで参考となるべき教訓として、以下の2点を抽出した。

(1) オーナーシップの高いC/Pとの関係構築について（C/P側の人員配置、リーダーシップ）

ラオス側は共同所長を始め各セクションの管理職（チーフ、サブチーフレベル）に多くのC/P（公務員）を配置している。これら定着率の比較的高い人員を配置することはプロジェクトの組織運営上の基盤強化につながり、自立発展性を高めるものといえる。また、共同所長のリーダーシップによる広報活動の強化、日ラ双方の広範なプロジェクト関係者に対するセンター活動の理解促進を不断に行っている。したがって、他の日本センターにおいても組織人員の定着率に着目した運営を行い、かつ所長の適切なリーダーシップ発揮による国内における知名度向上や関係者の理解促進を図ることがプロジェクトの成果を高める上で有効と思われる。ただし一方で、共同所長体制をとることから、両者の円滑なコミュニケーションならびに信頼関係が損なわれるとプロジェクトの運営に重大な影響を及ぼすことが懸念される。

(2) 組織内の体制強化の方策について

LJCではスタッフ人材育成を強化するために、個々の能力に合わせた個別研修計画を適度なインセンティブ（語学手当等）と組み合わせて実施しており、個々の目標設定が明確となっている点で、組織のあらゆるレベルでの体制強化につながるものと判断される。他の日本センターでの現地スタッフ育成の上で参考となる方策であり、同様の育成計画の導入を検討することが望まれる。ただし、いかなる人材育成計画も自らの自発的な意思により継続した取り組みがなされなければ中長期的な効果発現に至らないと思われ、スタッフのモチベーションを保つ工夫（能力強化キャンペーンを半期に一度程度実施するなど）も必要である。

第1章 中間評価調査の概要

1-1 本評価調査の目的

本中間評価調査は、2005年9月から2010年8月までの期間で実施中の「ラオス日本人材開発センタープロジェクト（フェーズ2）」を対象として、これまでのプロジェクト活動実績・実施プロセスを確認し、プロジェクトの成果を評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から検証し、プロジェクトの目標達成状況を確認した。さらに、残りのプロジェクト期間の事業実施方針について提言を行うとともに、事業実施に係る課題に対する関係者の共通認識の形成を図り、対応策を検討することを目的とした。

1-2 調査団の構成・期間・日程

(1) 調査団構成

団長・総括	JICA 公共政策部日本センター課 課長	梅本 真司
評価分析	株式会社パンテル・インターナショナル	竹井 誠
協力企画	JICA 公共政策部日本センター課	末田 和也

(2) 調査実施時期・期間：2008年5月26日～6月12日

(3) 調査日程：下表のとおり。

日付		竹井（評価分析）	梅本（団長・総括）	末田（協力企画）
5/26	月	11:00 成田発(TG641) 21:10 ビエンチャン着		
5/27	火	事前調査（インタビュー調査）		
5/28	水	〃		
5/29	木	〃		
5/30	金	〃		
5/31	土	資料整理		
6/1	日	資料整理	11:00 成田発(TG641) 21:10 ビエンチャン着	
6/2	月	団内打合せ 資料整理	団内打合せ ソムコット教育大臣	
6/3	火	インタビュー調査	JICAラオス事務所打合せ JICA専門家（鈴木投資促進アドバイザー） スッコセンNUOL学長 サイコンNUOL副学長 カムルーサNUOL/FEBM学部長 宮下在ラオス大使	
6/4	水	インタビュー調査	ソムチット投資計画省国際協力局長（援助窓口） 竹井団員のインタビューに合流（NUOL日本語学科ほか）	
6/5	木	調査結果中間報告（専門家） インタビュー調査	調査結果中間報告（JICA専門家） 総務スタッフとの面談 情報管理システム調査団報告会	

6/6	金	調査結果中間報告（ラオス側C/P） 現場診断企業訪問 ヴィエニヨム社（家具製造） キャンヴィレイ社（縫製）		
6/7	土	団内打ち合わせ／資料整理	「日本語祭り」出席 団内打合せ／資料整理	
6/8	日	団内打ち合わせ／資料整理 ビジネス部門打合せ		
6/9	月	M/M案説明（専門家） 補足調査	M/M案説明（専門家） JICA事務所打合せ	
6/10	火	M/M案説明（ラオス側C/P） 補足調査	M/M案説明（ラオス側C/P） サイコンNUOL副学長面談・M/M案説明	
6/11	水	13:50 ビエンチャン発	M/M署名 大使館報告 16:30 ビエンチャン発	M/M署名 大使館報告 事務所報告
6/12	木			10:10 ビエンチャン発

1-3 案件の背景・経緯・概要

(1) 案件の背景と経緯

ラオス国は、1986年「新経済メカニズム」導入・経済改革に伴った計画経済から市場経済への路線転換を開始し、1990年代以降平均6%程度の成長率を達成している。また、2008年からのASEAN域内での関税撤廃を開始すべく（完了は2015年）国内での制度整備を含めた準備を進めるなど、地域の経済統合・協力にも積極的である。

一方で同国は、経済規模が小さくかつ内陸国であることなど、必ずしも順調な経済発展の条件が整っているとは言い難い。さらに、今後、若年層の急速な増加が続き、労働力人口の増加が見込まれるなか、市場経済化に対応するための専門知識を兼ね備えた人材は今後約2万人不足するとされており、これを担うビジネス人材の育成が急務となっている。

これらの背景を受け、我が国は2000年9月～2005年8月の期間で「ラオス国立大学経済経営学部支援及びラオス日本人材開発センター」プロジェクトを実施すると同時に、経済経営学部及び日本人材開発センターの施設を無償資金協力で建設した。その後、プロジェクトの活動が拡大したため、「ラオス国立大学経済経営学部支援及びラオス日本人材開発センター」プロジェクトは「ラオス国立大学経済経営学部支援」、「ラオス日本人材開発センター」（以下、「LJC」）の2つのプロジェクトに分割することとし、2004年12月に同分割に関するラオス国側との会議議事録（ミニッツ）の署名・交換を了した。

カウンターパート（C/P）機関であるラオス国立大学（以下、「NUOL」）は、「ラオス日本人材開発センター」の協力の成果を高く評価し、LJCに対するJICAからの協力の継続を要請した。JICAは2005年9月から5年間の予定で「ラオス日本人材開発センター（フェーズ2）」を開始した。

(2) 案件の概要

本プロジェクトにおいては、①ビジネスコース、②日本語教育、③相互理解促進事業の3つの活動とこれらの活動を通じたLJCの事業実施体制強化を行っている。ビジネスコースについては、LJCスタッフの能力向上を通じた活動主体の「現地化」を強化しつつ、JICAは座学形式のビジネスマネジメント講義の提供から、工場診断を含む現場実践型へ活動の中心をシフトしてきたが、今年度は既存カリキュラムの大幅な見直しとともに、経済経営学部と連携した新たなプログラムの立ち上げが予定されている。日本語教育分野においては、テキスト教材や現地教師といったリソースをネットワーク化し、より実用的な日本語教育の提供を含めた拠点化を図りつつある。相互理解促進事業においては、HP等での広報・情報発信機能を強化するとともに、ラオス国と交流を希望する日本国内の諸機関と、我が国との交流を希望するラオス国の諸機関との相互交流をマッチングさせる仕組みを構築しつつある。

現在、4名の日本人長期専門家（チーフアドバイザー、業務調整、日本語教育、相互理解促進）を派遣中である。

第2章 中間評価の方法

今回の中間評価では、プロジェクト・サイクル・マネージメント（Project Cycle Management、以下 PCM）手法で用いられるプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix、以下 PDM）を活用し、以下の手順で評価を実施した。その際には、評価グリッドを作成し、評価のデザインを行った（別添資料 参照）。本評価結果は、ミニッツとして日本側（調査団）及びラオス側プロジェクト関係者間で合意された。

(1) 実績の確認

PDM に記載されている上位目標、プロジェクト目標、成果の指標がどの程度達成されたか、どのような投入がなされたかを確認した。

(2) 実施プロセスの確認

プロジェクトの活動状況、モニタリング活動、日本人専門家とカウンターパートの協力関係、カウンターパートや現地スタッフのプロジェクトへのオーナーシップなどを確認した。

(3) 評価分析（5項目評価に基づく）

上記2点に基づき、事業評価ガイドラインに沿って、以下の5項目の視点で評価分析を行なった。

(ア) 妥当性

評価時点において、プロジェクトの計画内容が受益者のニーズと合致しており必要性が高いか、相手国の開発政策および日本の援助政策と整合性があり高い優先度が認められるか、また、対象分野・セクターの問題や課題の解決策として適切かを検証する。

(イ) 有効性

プロジェクト目標は達成されているか、また、それはプロジェクトの活動の結果もたらされたものかを検証する。

(ウ) 効率性

アウトプット、もしくはプロジェクト目標について、より低いコストで達成する代替手段はなかったか、あるいは同じコストでより高い達成度を実現することはできなかったか、また、投入はタイミングよく実施されたかを検証する。

(エ) インパクト

プロジェクトで計画した長期的・間接的な効果（上位目標）は達成されているか、予期していなかった社会経済的な正・負のインパクト（波及効果）はあるかを検証する。

(オ) 自立発展性

評価時点において、プロジェクトが目指している効果（プロジェクト目標、上位目標）は協力終了後も持続するかについて、技術・組織・財務などの視点から予見する。

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入実績

3-1-1 概要

日本側の投入についてはほぼ当初計画通りに進捗しており、プロジェクトの進捗への負の影響はない。

ラオス側の投入のうち、C/P¹の配置については、本フェーズ開始当初10名だったが、調査時点では15名に増加しているなど、ラオス側の強いオーナーシップとコミットメントにより、プロジェクトへの投入は増加している。C/Pの配置に空白期間が生じた例もあったが、プロジェクトの進捗には大きな支障は生じていない。

これらから、双方の適切な投入がプロジェクトの円滑な進捗に貢献していると判断できる。

以下に個々の投入の実績をしめす。

3-1-2 日本側投入

(1) 専門家派遣

長期専門家は現在4名（フェーズ1から通した延べ人数は7名）派遣されている。指導科目は、チーフアドバイザー、業務調整、相互交流運営、日本語コース運営である。派遣人数と期間は、ほぼ計画とおりである。このほか、フェーズ2におけるビジネスコース実施のため、業務実施契約により日本人短期専門家が延べ17名派遣された。（詳細はミニッツのAnnex 4.1参照）。

(2) 本邦研修（カウンターパート研修）

LJCで教えるNUOLの講師を含め、フェーズ2においてこれまで25名が日本での研修を受けた。研修内容は、ビジネス・経済経営関係に16名、日本センター運営関係（広報・図書などを含む）に9名である。（詳細はミニッツのAnnex 4.2参照）。

(3) 機材

日本側は、ハードソフトを含め各種の機器類を調達した。フェーズ2における資機材調達の総額は、1,296万円である。

¹ 公務員としてLJCに勤務するラオス側教職員を指す。公務員となるためにはNUOLの承認が必要。なお、本報告書では、公務員としてLJCに勤務するラオス側教職員を「カウンターパート」あるいは「C/P」、LJCで雇用されている職員（秘書、メディアルームアシスタント、警備員、清掃員等を含む）を「スタッフ」、双方を総称して呼ぶ場合は「LJCスタッフ」と記す。

携行機材費で調達された主な機材

2005年度		2006年度		2007年度	
デジタルカメラ、日本語学習用書籍、電子辞書等		日本語学習及び相互理解用書籍・CD・DVD、パソコン及びプリンター等		日本語学習及び相互理解用書籍・CD・DVD、デジタルカメラ、図書不正持ち出し防止システム等	
合計	¥438,014	合計	¥6,539,889	合計	¥5,978,159

(4) 在外事業強化費

日本側は、備人費（法人：警備会社年間契約料・パソコン及び施設メンテナンス維持管理費）、人材養成確保費（残業・語学などの手当）、謝金・報酬（個人：現地講師への講義謝金）、消耗品費などの費用を負担した。2005年度からの累積は495千ドルである。（詳細はミニッツのAnnex 4.4参照）。

3-1-3 ラオス側投入

(1) カウンターパートの配置

ラオス国立大学よりC/Pとして公務員（大学職員）15名が配置されている。（詳細はミニッツのAnnex 3参照）。なお、これら15名のC/Pのほか、35名のスタッフ（秘書、メディアルームアシスタント、警備員、清掃員等を含む）がLJCで雇用されている。職位ごとの配置・雇用状況は以下の通りであり、課長代理以上は全てC/Pであり、所員以下はスタッフとなっている。班長クラスにC/Pとスタッフが混在している。

職位	所長／副所長	課長	課長代理	班長	所員	運転手・清掃員など	合計
C/P	3	4	4	4	0	0	15
スタッフ	0	0	0	6	19	10	35
合計	3	4	4	10	19	10	50

(2) 土地の提供

ラオス側は、プロジェクト用の建物の敷地（6,491 m²）と駐車場スペース（1,664 m²）を提供している。

(3) 運営費

ラオス側は、光熱費や通信費を負担している（詳細はミニッツのAnnex 4.4参照）。

3-1-4 主要な人件費・役務費の支出元

プロジェクトにおける主要な人件費・役務費は、事業強化費、センター収入、NUOLのいずれかから支出されており、その区分けは以下のとおりである。

主要な人件費役務費の支出元

科目	C/P		スタッフ	FEBM 講師	その他の講師	役務提供者
	課長代理以上	班長 (以下)				
基本給など	NUOL	NUOL	センター収入	NUOL	—	—
残業・語学・役職手当	センター収入	事業強化費	事業強化費	—	—	—
コース/イベント講師等への謝金・報酬など	—		—	センター収入	事業強化費	事業強化費

3-2 アウトプットの実績

3-2-1 アウトプット 1 : LJC 事業実施体制が強化される。

<概要>

LJC の事業実施体制強化のための方策が当初計画されていた活動に沿って行なわれており、組織として LJC が成長・強化されていることが確認された。特に、人材育成の面では、個々人の能力の現状把握と到達目標、及びそのために必要な措置について個人と組織（マネジメントレベル）が情報を共有しており、個々人の能力強化が組織の強化につながりつつある事例といえる。

今後のより一層の体制強化のためには、総務部門を中心とする総合調整機能の強化が必要であると判断される。これについても、組織改編や人事異動、特別手当の支給基準の変更など、積極的に問題を把握し、改善しようとしていることが確認できた。

また、運営管理のより一層の効率化のために昨年度から行われている業務分析に基づき、業務フローや意思決定過程の効率化が期待できる。

LJC の実施体制強化の一環として、LJC スタッフに占める C/P の割合をさらに増やすことも検討されている。現在、ラオス人所員 50 名のうち、15 名が C/P（公務員スタッフ）であるが、ラオス側としては、班長クラス以上の 21 名を全て公務員スタッフとしたいとの意向がある。ただし、現在 LJC は大学の附属機関という位置づけである。NUOL では通常、附属機関は 10 名程度の公務員しか配置されないところを定員拡大してきたという経緯がある。このため、これ以上の定員拡大のためには、学内の設置ステータスの見直し（例えば現在の Center から学部と同等の Institute へ格上げする）といった抜本的な対策が必要であるという意見があった。

なお、ラオス側スタッフには公務員として LJC に勤務したいという希望が多い。これは、安定した雇用関係の確保という点のほかに、FRINGE BENEFIT（公務員として海外留学や研修の機会が JICA スキーム以外にも提供されるなど）が期待できることによる。ただし、一方で公務員ステータスを得た個人のモチベーションや生産性が低下するといった点も懸念される。

以下に対処方針会議で定められた 2 つの指標、ならびに関連する活動の実績について述べる。

<指標>

- a 長期的な LJC 人材開発計画に基づき実行された人材研修の数
- b 自己目標を達成した LJC スタッフの割合

フェーズ1の時から、LJC スタッフを対象に英語、日本語、コンピュータに関する独自の研修が実施されていた。また日本やタイでの Off-JT 研修やオンザジョブトレーニング (OJT) を通じて、能力強化が図られていた。フェーズ2においては、さらに2007年度及び2008年度にほぼ全員を対象とした長期的な人材育成計画が作成されている。これは人材育成が計画的に行われていることの証左である。この長期的な人材育成計画は以下のような構成になっている。

人材育成計画の基本個人データの例

Personal Information						
No	Category	Name	Post/Division	Remarks	Academic Background	Language Proficiency
E1	Managerial Position		Head, XXX Division	Civil Servant	Master, Business Management	1B, 3B, 5C
E2	Head of Unit		Head, XXX Unit		B/A, English	1C, 5C

Excellent: A (PhD Degree Level) English: 1
 Good: B (Master Degree Level) French: 2
 Fair: C (Bachelor Degree Level) Japanese: 3
 Poor: D (Diploma Degree Level) Russian: 4
 Thai: 5
 Vietnamese: 6

人材育成計画の短中期計画（語学）の例

Short Term Plan (1-2 Years)		
Intended Study Area	Target Year	Remarks
English Composition (Report Writing) Skill	2008-2009	LJC
English Composition (Academic Writing) Skill	2008-2009	LJC

人材育成計画の短中期計画（専門）の例

Short Term Plan (1-2 Years)		
Intended Study Area	Target Year	Remarks
PCM, training	2008	JICA
Library Management	2008	Thailand, NUOL

人材育成計画の長期計画（上位学歴の取得など）

Long Term Plan (3-5Years)			
Intended Study Area	Target Year	Method of Study	Remarks
PhD, Business Management			
Master, Education Management	2008-2009	NUOL	Studying

2007年6月に作成された長期的な人材育成計画によって、在外事業強化費による英語研修の実施（約20名、業務時間外やOJT形式、詳細は活動1-3参照）ウドンタニでの日本語教師養成セミナー参加（1名）、NUOL及びLJC負担によるNUOL・Education Managementコース（教育学、学校の運営管理手法や教育法規等を学ぶ）修士課程への入学（1名、Mr. Somixay TEXO、日本語コース課長）が実現した。しかしながら、全員の研修を実施するには、JICA、LJC、NUOLからの予算措置だけでは困難である。また、他国奨学金制度等の利用も検討されたが、多くの場合それらに応募するだけの英語力が不足している。

現地調査において総務機能の強化が必要との意見がLJC内の各部署・マネジメント層などから聞かれたが、これについても個人別の人材育成計画に基づいて総務の機能強化が検討されている。具体的には、（総務を中心とする）一部のC/P及びスタッフについては、英語によるコミュニケーション能力が十分ではないことが確認されたが、これに対しては、前述の英語研修機会の提供といった、自己研鑽の仕組みによる対応が行なわれている。

その結果、英語については、総務班においては業務上必要最小限のコミュニケーション力が向上したという意見が聞かれた。また英語研修機会の提供によって、相互理解班においては、外国人向けイベントのインストラクション（口頭指示・レジュメ作成）力が向上した。また、日本語教師養成研修によって、日本語班のスタッフの教授力及び日本語運用能力の向上がみられた。なお、もう一つの人材育成計画の成果である、Education Managementコース修士課程へ入学者については、現在初年度のため、まだその結果を測定することは困難である。

<活動>

活動1-1 ベースライン調査を実施する。

2007年12月に行われた日本センター事務局業務の一環としての「運営管理システム導入のための調査」において、業務フロー解析がなされた。この調査の提言に基づき、業務フローの見直しやオンライン処理化、情報管理インフラの整備等もなされつつある。

活動1-2 経理システムを含む運営管理体制を確立し、機能させる。

案件開始当初は、必ずしも適切に行なわれていなかった領収書等の書類管理を徹底し、領収書に基づいた出金管理など、紙による処理は大幅に改善された。

また、上記1-1に述べた日本センター事務局から派遣された調査団による提案に基づき、パソコンを利用したより効率的な運営管理体制を構築するため、ネットワーク及びIT機器等情報管理インフラに係るメンテナンス契約を地元業者と締結した（2008年5月）。この契約には、専属シ

システムエンジニアのLJCへの派遣及びセンタースタッフへのOJT研修等が含まれており、パソコン運用能力の向上、業務フローの実践・改善ならびに事務の効率化・簡素化等も成果として期待される。

さらに、総務・経理部門の強化を図るため、新たな人材を1年間の期間限定で採用した(2008年5月)。同人は日本で5年間インターネットを中心とするITを学んだ経験があり日本語もできるので、今後同人を中心に据え、適宜本邦(日本センター事務局システムエンジニア)からの指導・助言を仰ぎつつ、総務・経理及びセンター全体の運営と情報管理体制を構築していくこととなっている。

これまで班長以下、一般スタッフの入れ替わりが少なからずある中で、多くの場合、業務遂行に係るノウハウや情報が個人にのみ蓄積され、総務部全体として蓄積されてこなかった面がある。これを改めるため、スタッフの業務分掌を明文化した。これによって責任の所在を明確にでき、スタッフの自分の仕事に対する意識の向上と責任感を持たせることができた。さらに将来は「業務マニュアル」を作成していくことを、部門内打ち合わせなどで確認している。

また、ラオス側の努力により組織改革に係る様々な活動(課・班の統廃合、業務分掌見直しなど)がなされている。たとえば、総務部門内を会計、IT機器、渉外の三つの課に改訂した。また、最近では総務部門の強化を図るために、総務部門担当をソムチャイ副所長からマニソット所長に移し、ソムチャイ副所長が相互交流、広報、図書を総括するように変更した。

活動1-3 スタッフ研修を実施する。

LJCスタッフの人材育成計画(2007年6月に作成された長期的な人材育成計画を含む)に基づき、JICA本邦研修(投入実績25名のうちLJCスタッフ13名)、国際交流基金の日本語研修(4名)、タイでの大学における日本語教師研修(1名)、またセンター内や外部機関での英語(約20名)及び実務研修等(経理、PCM、図書、英語の4種類8回)を実施した。これらの研修の成果については、前項の指標に述べたように、効果が発言しているという意見は日本人専門家やC/Pなどから多数確認された。

また、IT及び施設の電気・電子関連の保守管理については、それぞれ専門業者に外部委託しているが、定期的な保守点検等の作業を通じて、LJC担当スタッフに対してOJT形式での技術移転を行うこととしている。

LJCスタッフへの英語研修については、2007年12月に研修内容・形態・対象者・期間等の見直しを行った。この研修は、総務班を対象としたOJTによる初級実務英語研修、相互理解班を対象とした(事業担当者別)中級実務研修、班長レベル対象の英作文研修の3つに分かれているが、今後は予算的制約も考慮し、センターの自己収入を活用し、LJCスタッフへ語学手当(日本語と英語)の導入(2008年6月1日から実施)を含む、より高いインセンティブを与えることとした。併せて班長以上のC/P及びスタッフに対しては、超勤手当をやめ、役職手当を導入することとなった。これにより、一定の所得水準確保のために超過勤務を行う必要がなくなったため、自己研鑽のために業務時間外を有効に利用できることが期待されている。(注:ラオスでは勤務先の基本給のみでは生活維持が困難で、通常勤務の後にアルバイトで生活費を補填するケースが多い。LJCでは、センター外でアルバイトをするのではなく、超過勤務手当で生活費を補うことが通

常化していた。)

活動 1-4 定期的に運営管理体制をモニタリング評価する。

ラオス側及び日本側別々に毎週一度の割合で諸々の活動の進捗状況の確認とその問題点を正確に把握する機会を設けている（毎週月曜開催の「連絡会」）。また、プロジェクト全般の進捗状況については毎月 1 回のラオス側との定例会議（Joint Meeting）及びラオス JICA 事務所担当所員を含めた LJC Top Management Meeting の場においてモニタリングしている。なお、ラオス側も月 1 回の“Lao Staff Meeting”を行っている。このような仕組みにより、活動の進捗把握、問題点の抽出、業務改善に役立っている。

さらに、上記の協議結果等は半年（6 月、12 月）に一度、ラオス国立大学副学長（プロジェクトスーパーバイザー）、教育省国際協力計画局長、LJC 関係者、日本大使館担当書記官、JICA ラオス事務所長・担当所員及び JICA 専門家等の関係者が一同に会する合同調整会議（JCC）で審議され、プロジェクト進捗の全体的なレビュー/計画変更・修正/評価に反映されることになっている。

以上のような体制により、各々のレベルごとの協議・意思決定メカニズムが構築されている。

3-2-2 アウトプット 2：ラオスの民間人材を対象とした実践的ビジネスコース並びにビジネス分野サービス（工場診断、起業家育成（インキュベーション機能）、ビジネスマッチング）が提供される。

<概要>

ビジネス部門は、基本的にラオス側人材によって運営管理されている。これは、フェーズ 1 からの知見の蓄積により、事業の企画・立案・実施・評価の一連のサイクルが基本的にラオス側のみで自立的に行われていることによる。これに対して日本側の投入は「実践的な経営スキル・手法」に絞って行ってきた結果、理論と実践のバランスの取れたカリキュラムを提供できるという比較優位性を確立しつつある。当初想定された省庁等との連携についても、セミナーやコンピュータコースの提供により、一定の評価と地位を確立することに成功している。

他方、事業マネジメントに対して必ずしも十分な投入を行なってこなかったことに起因すると思われるマイナスの要因も確認された。具体的には、2007 年度に入ってラオス側による座学コースの受講生が減少した、ということである。これに対し、2008 年 2 月には日ラで協働して問題解析を行い、コースカリキュラムを改訂した。更に、ラオス側のイニシアティブにより 2008 年 9 月からは MBA コースが経済経営学部と LJC によって開講予定となっており、より高度なビジネス人材の育成が行なわれることが期待される。

一方、市中に類似機関が増加しつつあり、より一層の競争力強化が必要であるので、より効果の高いサービス提供のための実施体制（日本側を含む）の構築が必要である。

以下に対処方針会議で定められた 2 つの指標、ならびに関連する活動の実績について述べる。

<指標>

- a ビジネス分野の活動の数と種類
- b 省庁・商工会議所などと連携し提供された活動の有無

これまでに実施されたビジネス分野の活動の数と種類は次の各表に示すとおりである。

ラオス側による座学コースの参加者数

年度	基礎コース		上級コース		その他コース		人数計
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	
2005	2	302	2	528	6	205	1035
2006	2	112	2	143	15	471	726
2007 前半	1	31	1	32	4	60	145
2007 後半	2	22	-	-			
合計	7	467	5	703	25	736	1906

上の表に示されるように、ラオス側による座学コースは、2007年度前半(2007年6月)までは、基礎コースと上級コースで構成されていた。これらのコースは、期間は4ヶ月間で、それぞれ8科目が設定されていた。コース参加者を対象としたニーズ調査や人気度調査の結果に基づいて、いくつかの科目については、入れ替えが行われている。下の表は最新版をしめす。2007年度後半(2007年9月)からは、それまでの4ヶ月間の基礎コースに相当するものとして、2-4週間の集中講座が行なわれるようになり、4ヶ月間の上級コースに相当するものは廃止し、現在MBAへの変更を計画している。

ラオス側による座学コースの内容

	基礎コース	上級コース
1	コンピュータ	管理会計
2	一般財務	人事管理
3	一般会計	経営戦略
4	組織行動	起業家精神
5	ビジネス法律	ビジネス英語2
6	マーケティング基礎	企業財務
7	ビジネス英語1	マーケティング管理
8	プロジェクトマネジメント	マネジメント情報システム

日本側による実践的コースの参加者数など

年度	生産管理コース		実務スキルコース		その他コース		現場指導 社数
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	
2005					2	22	
2006	1	26	1	10	1	50	2
2007	2	51	2	55	0	0	8
合計	3	77	3	65	3	72	10

ラオス側によるコンピュータコースの参加者数など

年度		2007	2006	2005	合計
学生向け基礎コース	回数	7	3	5	15
	人数	108	67	107	282
学生向け中級コース	回数	2	1	2	5
	人数	33	17	46	96
学生向け上級コース	回数	9			9
	人数	120			120
政府機関向け基礎コース	回数		2	4	6
	人数		38	73	111
政府機関向け基礎コース	回数		2	4	6
	人数		39	77	116
その他	回数	6	4	1	11
	人数	94	63	26	183
人数計		355	224	329	908

コンピュータコースにおける主な内容

コース	内容
基礎コース	Basic Usage of MS Word and Excel
中級コース	Usage of PowerPoint and Internet-Email-Search Engine
上級コース	Hardware/Software installation, Maintenance & Troubleshooting, MS office PowerPoint & Using of Internet Developing and designing of program by Microsoft Access 2003

これまでに実施された省庁・商工会議所などと連携し提供された活動については、一般ビジネスコース（表中のその他コース）とコンピュータコースの双方で行なわれてきている。一般ビジネスコースとしては、省庁や民間企業を対象とした市場経済を紹介するセミナーは28回実施された。ラオス側による座学コースとしては、一般ビジネス講座、ラオスにおける中小企業の現状と課題、人的資源管理とリーダーシップなど、日本人講師によるものとしては、起業支援教育(AOTS)、商法セミナーなどがある。また、保健省をはじめ、商工省、労働省福祉省、内務省、国家建設戦線などの幹部ならびに職員を対象とした HR Management, Access to International Market などのセミナー(各1回)や、JICA 専門家が実施した特別セミナー3回が含まれる。一方、コンピュータコースについては、上の表に示されたように行なわれてきた。しかし、省庁に対応した講座は授業料が無料あるいは格安となるケースが多く、収支改善のため、2007年度は実施しなかった。

<活動>

活動 2-1 ビジネス分野の活動の年間実施計画を策定する。

フェーズ 2 開始以前に実施したニーズ調査に基づき、LJC のスタッフが計画案を作り、FEBM の

講師のアベイラビリティなどを勘案して、最終案が策定されている。また、実施計画策定に当たっては、受講生からの評価に基づいたカリキュラムの改編等が行われている。たとえば、基礎コースならびに上級コースにおける「ビジネス英語」は受講生からのアンケートにより新たに設置された。

活動 2-2 年間実施計画に基づきビジネス分野の活動を実施する。

上に述べたビジネスコースの実績は、年間計画に沿って実施されている。但し、前述のように、本フェーズ中にラオス側による座学コースの受講生が減少するという事態が生じた。これについては、日ラで協働して問題解析を行い、抜本的なコース変更によって対応することとなり、現在そのための準備と移行活動を行なっている。具体的な課目や回数などは<指標>の項で説明済。

活動 2-3 関係機関（ラオス商工会議所や経済関係省庁等）と連携し、市場経済に関連する特別コースを提供する。

<指標>の項で説明済。

活動 2-4 ラオス国立大学経済経営学部との連携体制を強化する（夜間コースへの編入制度確立等）。

ビジネスコースのうち、座学コース（上級コース及び基礎コース）については、主に FEBM からの講師派遣（延べ 32 人のうち 70%が FEBM、20%が LJC、10%が学外）によって運営されている。LJC と FEBM との定期的な会合は行われていないが、コミュニケーションは緊密であり、協議・打ち合わせは頻繁に行われている。昨年度から受講生が急減したこと等を受け、本年度より FEBM と LJC との連携による MBA プログラムを開設準備中である。

活動 2-5 定期的に活動実績をモニタリング評価する。

受講生全員を対象として、科目別の評価を実施している。各科目の受講生は講師を評価することとなっており、評価結果は講師にフィードバックされている。これは、受講生からのアンケート用紙を LJC のビジネスコーススタッフが取り纏めて分析し、次回コース開講前までに関係する講師陣を交えたミーティング等の場で共有することによってコースに反映させていた。

ラオス側の受講生による評価は定性的なもので、日本側の評価は定量的なものが主である。前者では、「効率よく学べた、機器もカリキュラムもよく他のプログラムも学びたい、会社に役立つ知識を得られた」、などポジティブな意見もあるが、「もっと討議や受講生とのインターアクションが必要」といった教授形式の改善、「もっとケーススタディ、例、実務的なスキルが必要」といった内容の改善、また「学位や認定される単位を希望する」といった資格に関する要望なども見受けられた。

他方、日本人側の講座に関するアンケート結果は下記のとおりであった。これによると、ほとんどが 90 以上で、全体的に評価はかなりよいものの、コースの期待値と満足度が相対的に低いことがうかがわれる。これは講座期間が短いことが一因と考えられる。

受講生の評価（100 が最上）

評価項目	生産管理 1	実務スキル 1	実務スキル 2	実務スキル 3
コース全体の評価	92	98	98	93
コースの期待値と満足度	84	96	90	83
講師の専門性	98	100	98	96
講義のわかりやすさ	92	98	94	90

また生産管理 2 と 3 では、教える項目に関する自己申告による理解度の、受講前と後の比較を行っていた。それによると「5：よく理解でき、詳細の説明ができる」「4：理解できるが少ししか説明できない」「3：言葉は知っているが、説明できない」「2：以前にきいたことはある」「1：知らない」の 5 段階で、生産管理 2 では、受講前では平均が 3.24 と受講後には 4.20 に、生産管理 3 では、3.82 から 4.38 にそれぞれ上がっていた。

なお、プロジェクトでは受講後ある程度の時期がたってからの、正式なフォローアップのモニタリングは実施していないので、本調査期間中に元受講生（ラオス側による座学コースに対する元受講生は 5 名、日本側による実践的コースに対する元受講生は 4 名）を対象に、アンケート調査を行った。その結果の概要は次のとおり。

1. Text, Lecture, Discussion（行なわれた場合のみ）ならびに Attractive, Easy to understand, Practical, Useful for your work について、5 段階評価（1. 大変よい 2. よい 3. 普通 4. 劣る 5. 大変劣る）を行なった結果、日本側による実践的コースに対する評価は全て 1 か 2 であるのに対して、ラオス側による座学コースに対する評価は 8 割程度が 1 か 2 であるが、残りは 3, 4 あるいは 5 と評価された。これは一部のラオス側講師の質の低さを示すものと考えられる。特に、Useful for your work の設問に対しては、22%が平均もしくはそれ以下と回答していることから、座学コースが実践的な内容となっていないことが推察される。

2. 「このコースで学んだゆえに、昇進できたと思いますか」という問いに対して、元受講生合計 9 人のうち、8 人がコース受講後昇進したと答え、そのうち 1 人(女性) が起業したと答えた。この結果を持って、LJC ビジネスコースが実際の昇進・昇給に寄与しているということは早計ではあるものの、定性的にはポジティブに評価できると推察される。

3. 「将来同じコースが企画されたら、仲間に受講を勧めますか」という問いに対しては、9 人全員が「勧める」と答えた。この結果は、ビジネスコースが肯定的に評価されものと考えられる。（注：ラオス側による座学コースについては、一人が複数の科目を受けており、上記 1 において、評価の低い科目もあったものの、コース全体では高い評価を得たものと考えられる。）

3-2-3 アウトプット 3：LJC がラオスにおける日本語教育の拠点となる（リソースのネットワーク化を推進）

<概要>

ラオスにおける日本語教育は、援助再開以降まだ歴史が浅く、現地講師の人材育成が急務であるが、そのためには少なくとも今後 5～10 年は人材育成による日本語学習者の数と質の向上が必要と推測される。NUOL 日本語学科とのより一層の連携により、より幅広くかつ高度な人材育成によって、拠点としての機能は強化されていくことが期待される。

これまでの活動により、ラオス国内及び国外とのネットワーク作りは盛んに行われている。また、LJC が「日本語教育研究会」の事務局となる、LJC が日本語能力試験の実施機関となる、ラオス国内にあるほぼ全ての日本語教育機関（評価調査時点で 11）でも利用されているラオス語教材の作成も行っている、などから LJC はすでにラオスにおける日本語教育の拠点として機能していると判断される。

以下に対処方針会議で定められた 4 つの指標、ならびに関連する活動の実績について述べる。

<指標>

- a 日本語コースの活動の数と種類
- b 受講生の日本語能力
- c ラオス人教員の指導可能レベル
- d 他関係機関とのネットワークの有無

フェーズ 2 開始から 2007 年度末までに実施された日本語コースの活動の数と種類は以下の表のとおり。

日本語コースの活動の数と種類

年度		入門クラス	初級・中級クラス	能力試験対策	受託クラス	教師育成	その他
2005	回数	1	19	0	1	0	6
	人数	29	283	0	20	0	124
2006	回数	2	23	2	2	2	19
	人数	75	337	34	26	8	553
2007	回数	4	16	1	2	1	11
	人数	85	208	16	4	6	307
	人数計	189	928	50	50	14	984

日本語コースの中心活動である初級・中級クラスは初級レベル（B1 から B6）ならびに初中級レベル（In-a から In-c）に分かれ、きめ細かくレベルの設定がなされている。このほか日本語教師入門クラス、特別クラス（受託授業など）が設定されている。（詳細はミニッツの Annex 6 参照）

受講生の日本語能力については、初級前半は日本語能力試験 4 級、初級後半は同 3 級合格レベルを一つの目安としている。2007 年にはラオスで始めて日本語能力試験が行なわれた。国（会場）別の受験者数は公開されているが、可否結果については非公開であるため、これによる評価をす

ることはできなかった。代替データとして、2007年の国別の日本語能力試験受験者数を以下のとおり示す。単純な比較は困難ではあるものの、人口比においても、ラオスの日本語学習者数があらゆる層、特に1級2級の中上級層を中心に少ないことが分かる。

ラオスならびに周辺国の国別の日本語能力試験受験者数(2007年)

	1級	2級	3級	4級	合計
ラオス	6	12	78	43	139
カンボジア	12	130	359	220	721
ベトナム	612	3,952	5,360	1,509	11,433
ミャンマー	191	836	1,028	490	2,545

出典：国際交流基金 HP より

LJCの日本語教員に関しては、日本人を含む日本語セクションの合計10名のうち、ラオス人教員は4名（内1名留学中）、ラオス人教員補が2名、邦人講師等が基金専門家も含めて4名である。ラオス人教員のうち一番レベルの高いラオス人教員（ソミサイ課長）がB6までを教えられるが、日本語能力試験の認定証は取得していない。留学中の1名ならびにソミサイ課長を除く4人（2名の教員ならびに2名の教員補）は、日本語能力試験3級の認定証を取得している。

このように教員レベルの育成が進んでいないことはLJC特有の問題ではなく、ラオス全体の日本語教育が教員輩出の段階、具体的には2級以上の資格保有者のレベルに達していないことによると思われる。LJC専門家及びNUOL日本語学科専門家の共通した認識として、現在のLJC中級クラス（一般的レベルとしては初中級）までを教えるためには、2級取得者が教員として必要であり、そのためには少なくともあと3～5年は必要であるとのことである。理由としては、既述のとおり、LJC日本語教員のうち1人は現在Education Managementコース修士課程受講中であり、1人は日本に留学中である。2人のスタッフ教員は現在初級第1段階前半のみ受け持つことができ、今後OJTにより初級6段階を教えられるように教育するのに少なくとも3年は必要である。2人の教員補は本年、日本語学科を卒業予定であり、これから教師経験を積む段階にあるため、更に長い期間が必要である。また、日本語学科卒業生は今年度が第一期生であるため、専門的に日本語教育を受けた学生はこれから増加していくこととなる。このため、これらの人材が日本語教員として活動できるようになるためには上述の期間が必要という判断である。

他関係機関とのネットワークについては、LJCが「日本語教育研究会」の事務局となるなど、ラオス全体の日本語教育ネットワークの構築を積極的に図っている。また、NUOL日本語科との関係は、双方が同一キャンパスの徒歩圏内に位置していることもあり、最も緊密に連携している。具体的には、LJCの教室を日本語学科の授業で使用していること、日本語学科在校生(5年生)2人がLJCのスタッフ(教員補)として勤務していること、などである。

<活動>

活動3-1 ラオス国立大学の日本語教育に係る包括的戦略、年間実施計画を策定する。

現在、LJCがNUOL全体の戦略や年間計画を策定する立場にはないことから、本項目の活動は行

われていない。

2003年に開設した NUOL 日本語学科は今年度中に第一期生が卒業する。当初想定されていたデマケ通り、LJC は市民・学生という広範囲なターゲットに対して、日本語の普及を行っていくことを主たる目的としているのに対し、NUOL 日本語学科は、将来ラオスにおける日本語教育・日本研究の中心となるような専門的人材を育成することを目的としている（ただし、既述のとおり、現段階ではラオスの日本語教育はこれらのデマケを意識して各機関の役割を明確にしていくほど成熟していない。）参考までに、NUOL 日本語学科にはラオス人教員 4 名、国際交流基金派遣専門家 2 名がおり、80 名（1 年生 25 名、2 年生 14 名、3 年生 12 名、4 年生 20 名、5 年生 9 名）が在籍している。

年間計画については、LJC で実施するコースの計画は策定されている。

活動 3-2 日本語コースを実施する。

2006 年 9 月より、初級カリキュラムを改訂（学習項目の充実）し、学習時間数（300 時間から 450 時間）、学期制（年間 3 学期制を 2 学期制に）も変更した。その結果、より体系化されたカリキュラムで、よりきめ細かに受講生の進捗を確認できるコースを実施してきている。他方、中・上級者向けの体系的なコースはまだない。これは、既述のとおりラオスにおける日本語教育が始まったばかりであることが主たる要因である。

また、相互理解促進事業との連携として、2007 年に「日本語で日本料理を学ぼうクラス」を実施し、その後、日本語教材としても使用できる日本料理テキストブックを作成している。その他、ラオスへの進出日系企業のラオス人社員向け日本語集中クラス、JDS 訪日前日本語クラス（希望者のみで、有料）等を実施している。

活動 3-3 日本語教師研修を実施する。

2006 年 1 月より「日本語教師入門クラス」を継続実施している。また、外部講師招聘による日本語教師研修会を 2006 年度、2007 年度に各 1 回実施した。さらに、国際交流基金バンコク日本文化センター主催による日本語教師研修会に、2006 年度 2 名、2007 年度 1 名、2008 年度 1 名を派遣したほか、タイ国ウドンタニ県にて実施している中等教育日本語教師土曜研修（2007 年 6 月～2008 年 2 月）に 1 名を派遣した。また、近隣国におけるノンネイティブ教師の授業参観を 2006 年度 1 回、2007 年度 1 回、2008 年度 1 回、専門家に同行する出張ベースで実施した。

活動 3-4 市中民間日本語学校やアセアン諸国内の日本語教育関係者との人的ネットワークを形成する。

ビエンチャン市内の日本語教育関係者とともに「日本語教育研究会」を組織し、2～3 ヶ月に 1 回、研究会を開催している。また、日常的にメーリングリスト（ML）によって情報・意見交換を行っている。なお、同研究会には、タイ東北部の日本語教育関係者も参加している。同研究会、ML については、LJC 専門家が事務局機能を担っている。また、2008 年には第 5 回の日本語スピーチ大会を大使館及び他の日本語教育機関と連携して開催した。今後も年 1 回開催する予定である。さらに、タイ、カンボジア、ベトナムの関係者をスピーチ大会審査員、日本語教師研修会講師と

して招聘、専門家が近隣国のセミナーに出講するなど、人的ネットワークが形成され活用されている。

活動 3-5 LJC が実施する教師セミナーや教材提供を通じ、ラ国内の日本語教育関係者との相互連携を促進する。

外国語を学ぶことは異なる文化的背景を持つ国同士がコミュニケーションを図るための基礎である。LJC の活動からもたらされたインパクトの一つは、LJC が作成したラオス語で書かれた教科書を提供していることである。LJC が作成した初級教材である『みんなの日本語』ラオス語版、入門教材『はじめましょう！にほんご』は、ラオス国内にあるほぼ全ての日本語教育機関（評価調査時点で 11）でも利用されている。

また、LJC が実施する日本語教師研修会には、ビエンチャン市内のみならずタイ東北部からも日本語教師が参加している。

さらに、LJC が日本語能力試験の実施機関となるために、ラオス教育省、ラオス国立大学、日本大使館、日本人会、元日本留学生会等の関係諸機関の合意のもとに、2006 年に試験実施協力委員会を設立した。2007 年 12 月より試験を開催し、ラオス人日本語学習者が世界標準の能力認定を獲得できるようになった。また、今後、試験を毎年継続実施する体制を構築した。

なお、LJC での日本語コースが開始されてから、ラオス国における日本語学習者並びに日本語教師の総人数が急激に増加している。

ラオス国の日本語学習者（教師）数

年	学習者総数	教育機関数
1998	80 (6)	3
2003	493 (24)	6
2008	530 (24)	11

注： 括弧内の数字は、日本語教師の人数

出典： 1998 年ならびに 2003 年はフェーズ 1 終了時評価調査より。2008 年は日本語専門家作成資料より。

活動 3-6 日本語コース参加者向けに自主学習に適した自習用教室の新設や自習用教材を開発する。

2005 年 9 月より、LJC 日本語コース受講生を対象とした自習室を開設した。視聴覚機器、図書、CD、DVD を投入し、順次整備を行っており、授業の合間なども含めて、コース参加者に利用されている。なお、開室時間中には、教員 1 名が受講生各自の質問に答え、きめ細かに指導する体制となっている。

既述の入門教材『はじめましょう！にほんご』は自習用教材として開発されたものである。

活動 3-7 定期的に活動実績をモニタリング評価する。

各学期末に、受講生全員を対象として、アンケート調査を実施している。結果は、スタッフミーティングなどを通じて、教員全体で共有され、カリキュラム、授業活動、教材の改訂等に利用している。

受講生のアンケートは、コース内容、教師やコースに対する満足度、日本語は役に立つか、「話す・聞く・読む・書く」のうちどれに力をいれたいか、クラス以外で日本語を使う機会があるか、次期も日本語の勉強を続けたいか、その他のコメントなどを調査している。アンケートは全てのレベルに対しておこなわれており、当然レベルによって回答が異なるものもあるが、一般に次のようなことが言える。

- コース内容については、上のクラスになると Oral Practice が少ないという意見が目立ってくる。
- 教師やコースに対する満足度については、3段階評価の中で最上位の回答が大部分である。
- 日本語は役に立つかについては、ほぼ全員が Yes と答えている。
- 「話す・聞く・読む・書く」のうちどれに力をいれたいかは、まちまちであるが、話すが一番多いクラスが多い。
- クラス以外で日本語を使う機会があるかについても、まちまちであるが、上のクラスのほうで Yes が多くなる傾向がみられる。
- 次期も日本語の勉強を続けたいか、についてもほぼ全員が Yes と答えている。
- その他のコメントについても、まちまちであるが、上のクラスのほうでは日本への留学制度を望む声が増えてくる。

3-2-4 アウトプット 4：両国民間の相互交流システムが構築され、活動が活発化される。

<概要>

各種活動結果や本調査のインタビュー調査から判断するに、両国民間の相互交流システムが構築され、活動が活発化されているといえる。相互理解促進の活動についても日本語部門と同様、すでに日ラの交流の拠点としての地位を確立している。これは、追従する他の類似機関が存在しないことも理由のひとつではあるが、それ以上に着実な活動実績により、交流拠点としての LJC の認知度が市民だけでなく政府にも浸透しつつあることから判断される。さらに、マスメディアを通じた広報活動により、LJC の認知度も向上していると判断される。

現在、日本の大学との連携強化やラオス人に対する日本への留学情報の提供など、さらに高度な機能付加が行われつつある。相互理解促進の拠点として LJC の役割は増大していくことが想定される。

以下に対処方針会議で定められた 3 つの指標、ならびに関連する活動の実績について述べる。

<指標>

- a 相互理解促進のために提供されたサービスの数と種類
- b 相互理解の促進度
- c LJC ホームページへのアクセス数

LJC は、ラオス国民と日本国民間の相互理解の促進並びに関係強化を図っており、日本の理解を促進させるために、日本の映画上映会や日本文化紹介教室（書道、茶道、踊り、日本料理）などを、またラオスの理解を促進させるために、ラオス援助研究会やラオス伝統文化

講習会、フルーツカービングなどを実施している。フェーズ2開始から2007年度末までに実施された、相互理解促進のために提供されたサービスの数と種類は以下のとおり。（詳細はミニッツのAnnex 7参照）

相互理解促進のために提供されたサービスの数と種類

年度	2007		2006		2005	
	実施回数 (回)	参加者数合 計 (人)	実施回数 (回)	参加者数合 計 (人)	実施回数 (回)	参加者数 合計 (人)
日本映画上映	9	646	13	1,057	7	477
ラオス援助研究会	9	113				
ラオス伝統文化講習会	12	327	31	993	14	1,422
フルーツカービング	16	250				
折紙講習会	10	225				
着付けコース	2	17	1	5	4	20
茶道コース	5	110				
その他		8,221		1,887		779
延べ人数		9,926		3,942		2,698

理解促進度に関しては、定量的な資料がなかったため、現地調査においてインタビュー形式の定性的サンプル調査を行った。調査対象は、TV会議による日ラ高校生の相互紹介の授業を体験した高校生と副校長、折り紙講習会参加者、日本料理参加者であった。調査対象者は全て複数回のイベントに参加した、あるいは参加予定をしている。また折り紙講習会参加者はLJCで習得した折り紙の知識で、小学校で折り紙を教えている。また、調査団滞在中に行われた日本語祭り・折り紙コンテストに参加した大学生、小中学生についても、（日常の刺激が少ないといわれるラ国において）イベントの参加とその準備過程を通じた日本語及び日本文化の理解は、かなり促進されたことが推察された。このように、相当程度の理解促進が図られていると評価できた。

LJC ホームページへのアクセス数については、大学サーバーの問題あるいはアクセスのカウンターが取り付けられていない、といった技術的な問題により実施されていない。

<活動>

活動 4-1 相互理解活動に関するニーズ調査を行う。

ニーズ調査は2006年3月、6月にビエンチャン、2007年7月にルアンパバーンで実施された。前者ではラオス人、日本人の双方に対してアンケート調査を行い、そこで得た情報をもとに、今後の実施方針を立てた。具体的には在留邦人の相互理解促進事業へのニーズは、ラオス文化紹介、ラオス語講座、ラオスに関する講演会、ラオス人との交流会など、主に4分野が上げられた。これに基づき、ラオス紹介事業（文化紹介、交流会、講演会）を定期的に実施することとなった（実施結果は前の表のとおり）。またラオス語講座は将来の検討課題とされた。一方、ラオス人側には、技術、手工芸品、教育、踊りなど多岐にわたり、日本の情報がほとんど入っていないことが判明した。日本紹介セミナーの開催や日本の情報の配信などを行い、センターは「日本の紹介窓

口」というイメージを作っていくこととなった。後者はネットワーク構築も目的としていたため出張面談で行ない、ネットワーク構築のほか今後の活動の可能性を探った。

2008年は日本国内の関連機関を対象に、日本センターに対するニーズ調査を行う予定。

活動 4-2 日本・ラオス両国に関する情報を収集し提供する。

ラ国側の情報収集に関しては、情報文化省からの協力も得るなど、他機関との連携も図られている。因果関係は必ずしも明確ではないが、これと前後して日本からラオスに関する一般的・学術的な問い合わせも毎月のように受けている。ラ国側に対する日本情報の発信については、既述の各種イベントによる紹介のほか、図書室事業を通じた日本、ラオスに関する書籍及び視聴覚ソフトの収集、提供を行っている。

図書室の蔵書数など

年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
書籍	600	1,296	4,360	7,044	9,040	10,373	11,082
VCD/DVD/VD	35	130	530	867	867	1,749	1,940
スタッフ(人)	1	3	5	9	10	10	7

注：2007年にスタッフ数が減少したのは、防犯システム、本の修復機、バーコードによる本の管理システムの導入などによる効率化による。

また、両国の最新情報については、日本関連機関、ラオス関連機関から日本、ラオスに関する資料・情報を収集し、LJC ニュースレター（発行：四半期毎）やHP（更新：2週毎）を通じて定期的に提供・発信する体制が整備されている。さらに、テレビ、ラジオ、新聞といったマスメディア媒体を通じた情報提供・広報も活発に行われており、広報に関する統計を取り始めた2006年8月から新聞掲載（66回）、ラジオ放送（39回）、テレビ放送（7回）がなされている。（詳細はミニッツのAnnex 8参照）その他、ラオス・日本双方をそれぞれ紹介するセミナーや研究会の開催を通じた情報提供も行っている。

活動 4-3 LJC の施設を活用し、場の提供を行う。

LJC 施設を利用したイベントの企画・実施を年100件以上（2006年、2007年とも）実施しており、図書室利用者（メディアルーム利用者、視聴覚室利用者、メンバーシップ発行数）などを下の表に示す。表において2006年、2007年と連続して利用者数が減少しているのは、図書のバーコードシステム導入などにより、図書館を閉鎖した期間があったからと思われる。また、このほか新しい図書があまり増えないことや、日本語関係の本やCDを、日本語の自習室に移動したこともその原因と考えられる。2008年からは、ラオス国立大学文学部日本語学科の日本文化授業の一部を実施し、LJC セミナー室、文化室（茶道）を使用して授業を行っている。

また、日本の高等教育機関と連携した活動も積極的に行われており、学習院女子大学との大学協定アレンジ、（専修大学、明治学院大学、奈良女子大学他も含めた）スタディーツアーの受け入れなどを実施している。さらに今年度は留学フェア（2008年6月）、インターン生受け入れ（2008年8月）が予定されている。この他、日本の国立高等専門学校機構を通じた日本、ラオス人高校生交流プログラムの実施（過去1回、次回2009年3月予定）、兵庫県立今津西宮高等学校とラオ

ス・ポンサワン高校生のテレビ会議（授業 1 学期計 3 回）、明治大学からの定期的な書籍の寄贈（過去 3 回）なども行われている。

フェーズ 2 における年度ごとの各施設利用者数

年度	2005	2006	2007
メディアルーム利用者	29,076	26,592	20,191
視聴覚室利用者	20,884	12,170	11,602
メンバーシップ発行数	1,065	977	808

活動 4-4 LJC のビジネス分野と日本語教育分野との連携を強化する。

ビジネスコースとの連携に関しては、JDS 留学生を対象にした日本紹介セミナー（2007 年と 2008 年に各 3 回）や、日本人スタディーツアー参加者へのラオス企業や日系企業訪問のアレンジ（各 1 回）、日本語コースとの連携に関しては、日本料理 트레이ナー要請コース（「日本語で日本料理を学ぼうクラス」）の実施（2007 年に 20 回）や日本料理本の共同作成、日本語祭りとの共同など各種協力を行った。

活動 4-5 定期的に活動をモニタリング評価する。

週 1 回の相互理解促進事業ミーティング（ラオス人、日本人）、月 1 回の LJC 全体ミーティング（ラオス人のみ）を開催している。また、約半年毎に相互理解促進事業室全体で、過去の実績を踏まえた次期 6 ヶ月の計画策定会議を実施している

3-3 プロジェクト目標及び上位目標の達成状況

3-3-1 プロジェクト目標

(1) ラオスの市場経済化に対応する人材育成を推進するためのサービスが LJC によって提供される。

日ラ双方の協力の下で提供されているビジネスコースは、理論と実践のバランスが取れており、定性的にはポジティブな評価とすることができる。一方、ラオス側による座学コースの参加者の減少に代表されるように、定量的にはより一層の努力が必要であると判断される。競合機関に対する比較優位を維持するためにも、引き続き日ラによるより緊密な実施体制の維持・強化が必要と思われる。また、昨今の日系企業の進出に伴い、日本語人材の需要も増加することが期待されるので、ビジネスと日本語両部門の連携による人材育成が重要である。

(2) 相互理解を促進する活動に参加するための情報と機会が LJC によってラオス・日本両国の国民に提供される。

各種調査の結果、相互理解を促進するための情報と機会は相互理解促進部門と日本語部門の活動を通じて、すでにラオス側に提供され、それらを維持・発展させる仕組みもできつつある。また、日本に対する情報提供機能も一定程度果たしていると判断できるため、プロジェクト目標はほぼ達成されたと判断できる。プロジェクト目標のいっそう確実な達成のため、ラオス国内の他機関とのより一層の連携強化と日本に対するラオスの情報提供・発信の機能強化が期待される。

なお、双方の目標に共通的な指標として、2006 年度ならびに 2007 年度の LJC 利用者数は次の

通りである。フェーズ1開始時点からのLJC訪問者の総計は約26万人で、年平均約4万人となる。

2006年度LJC利用者数

部署・コース・事業	期間	人数
図書・視聴覚室	2006年1月-12月	38,762
日本語コース(1学期)	2006年9月-2007年2月	170
日本語コース(2学期)	2007年2月-7月	133
ビジネスコース(第14回)	2006年2月-6月	162
ビジネスコース(第15回)	2006年9月-12月	98
コンピュータコース	2006年1月-12月	435
相互理解事業	2006年1月-12月	3,800
	合計人数	43,560

2007年度LJC利用者数

部署・コース・事業	期間	人数
図書・視聴覚室	2007年1月-12月	31,793
日本語コース(1学期)	2007年9月-2008年2月	109
日本語コース(2学期)	2008年3月-7月	98
ビジネスコース(第16回)	2007年2月-6月	76
ビジネス短期・セミナー等	2007年1月-12月	320
コンピュータコース	2007年1月-12月	226
相互理解事業	2007年1月-12月	12,000
	合計人数	44,622

3-3-2 上位目標

(1) LJCがビジネス分野においてラオスの市場経済化に資する人材開発のための中核的な役割を果たす。

「人材開発のための中核的な役割を果たす」ことに対する量的側面からの目標達成状況については、設定されている指標に対する認知度調査等を行なう必要があるが、他方で、MBAプログラムの開始などによって、より質の高い人材育成機能を果たすことにより、質的側面での中核的な役割を指向することは可能であり、現実的と思われる。プロジェクト終了時までの活動次第では、上位目標の量的・質的な達成に寄与していくことは十分可能であると思われる。

(2) LJCがラオス・日本両国の人々の間に相互理解を促進する拠点として活用される。

既述のとおりすでに日ラ両国の相互理解を促進する拠点として機能し、活用されていることから、上位目標を達成している可能性が高いと判断される。ただし、今後の類似機関（第三国の支援による類似機関を含む）のラオスへの進出状況次第では、拠点としての役割が相対的に低下する可能性もある。したがって、より一層の機能・体制の強化を図りつつ、拠点としての地位を維持していくことが期待される。

3-4 その他の特記事項

(1) 意思決定プロセスと組織内の円滑なコミュニケーション

プロジェクトの進捗には、組織内の円滑なコミュニケーションと意思決定プロセスが不可欠である。本プロジェクトにおいては、活動 1-4 で述べたように、意思決定の各階層において円滑なコミュニケーションと意思決定の仕組みが日ラ双方の間で構築されており、問題発生の防止や発生時の速やかな解決に大きく寄与している。また、日本側専門家の適切な指導・運営管理の下で、C/P 及びスタッフは着実に知識・経験を蓄積しており、プロジェクトの目標達成に向けたプロセスは適切かつ円滑に行われていると判断される。

今後の、LJC のより一層の体制強化のためには、総務部門を中心とする組織内の総合調整機能の強化が必要と思われる。具体的には、組織としての意思決定の効率化と組織的な知見の蓄積、並びに各個人の能力向上（特にコミュニケーションスキルの向上）が必要である。

(2) ラオス政府からの「実施許可」の取得

ラオスは一党体制であり、社会主義を基本路線としている。このようなラオスの政治的な事情から、ラオスにおいて諸事業を実施していく上で、政府から「実施許可」を得ることが必ず求められている。これは日本に限ったことではなく、外国との交流や事業を行うラオス国内外のどの機関にも要求されており、このことがラオスにおける各機関の活動の難しさの要因ともなっていると見える。

LJC はこれまでの実績から、関係省とのネットワークがあるため、この作業が比較的スムーズに行われてきており、幸いにして、これまでセンターが実施してきた活動に対して、許可が取り下げになったことはない。このラオス側と日本側の連携（実施許可のレターの作成のノウハウや、コネクションなど）がないと、諸事業の円滑な実施は困難である。LJC の諸活動、特に相互理解促進事業は、このような特殊なラオスの国情を背景に、日本とラオスを結びつけるインターフェースとして重要な役割を果たしてきており、日本やラオスからの様々なニーズに応え、双方の人的・文化的交流を促進、ひいては二国間のさらなる友好関係の構築に寄与することが可能となっている。これは LJC のこれはコア・コンピタンスともいえる財産であり、将来 LJC をどのような形にするにせよ、この財産を維持していくことが、将来に向けた一つの重要な課題である。

(3) ビジネスコースにおける座学コースの受講生数の減少

ビジネスコースにおける座学コースの受講生数の減少の理由としてプロジェクト側はいくつかの項目を挙げているが、そのうち主なものは、下記のとおりである。

- ①ビジネス環境の要因：小さなビジネス社会で、LJC が対象としていた受講者層のほとんどをこの 7 年でカバーしてしまった（受講者が一巡した）可能性がある。
- ②企業側ニーズの変化：より短期集中で、課題特化型の研修を希望するようになった。
- ③受講者（被雇用者）側ニーズの変化：修了証より学位を指向するようになった。

それに対して

①については、単一企業からの参加者が 3 人未満というケースが全体の 6 割であること、さらに今回受講経験者に行なったアンケート調査で、同様なコースが行なわれたとき仲間に受講を勧

めるかという問いに対して、9人中9人が仲間に推薦すると答えるなど、必ずしも一巡したとは言いきれない面もある。一方、「ローカル講師の質が受講生の期待に十分に答えられていないというのが問題の根源である」という仮説が正しいと考える人も複数おり、さらに今回受講経験者に行なったアンケート調査でも、それを示唆するようなデータ見られる。今後、教授方法も含め、ローカル講師の質の向上に力を注ぐ必要がある。

②については、既に期間を短縮したコースを開始しており、これからの受講生の数の推移を注目したい。

③については、MBA の開設を準備中であり、これによって新たな顧客層の獲得が可能となるか注目したい。

(4) MBA プログラムとそれ以外のビジネスコースの科目との関係

MBA プログラムは、ビジネスコースカリキュラムと相互補完の関係となることが前提となっている。3-3 プロジェクト目標の達成状況の項で述べたように、プロジェクト目標 1 については、定量的に達成するためには今後の努力が必要である。従って、今後 MBA が開催されるに際しては、MBA とビジネスコースのシナジーなどを追求していくことが肝要である。

(5) 文学部の日本語学科との関係。

活動 3-1 で述べたように、当初 LJC は市民・学生という広範囲なターゲットに対して、日本語の普及を行っていくことを主たる目的としているのに対し、NUOL 日本語学科は、将来ラオスにおける日本語教育・日本研究の中心となるような専門的人材を育成することを目的としていた。しかしながら、既述のとおり、現段階ではラオスの日本語教育はこれらのデマケを意識して各機関の役割を明確にしていくほど成熟していない。今後もこのデマケが有効か、いずれ関係の整理が必要と思われる。

第4章 評価結果

4-1 評価5項目ごとの評価

4-1-1 妥当性

以下に示す個々の根拠から、妥当性は十分にあると判断される。また、関係者への質問票の回答などからも大部分の人が妥当性はあると判断している。

(1) ラオス政府の国家開発計画との整合性

ラオス国においては、1986年に採択された「新経済メカニズム」の下で、一貫して市場経済移行を目的とした経済改革が進行中である。さらにラオス政府は、2001年3月のラオス人民革命党第七回党大会において「2020年までに貧困を撲滅し、発展途上国（LDC）から脱却する」ことを長期目標として発表し、主要目標として1) 持続的な経済成長を確保する、2) 国営・民間企業改革を推進する、3) 全分野における人材開発を促進する、4) 近代的産業開発の支援体制を確立する、などが掲げられた。このような状況下、市場経済化に対応できる人材の不足が、国家の重要課題と見なされており、フェーズ2はこれら主要目標の達成に資するものであり、ラオス国政府の国家政策に整合している。

また、カウンターパート機関であるラオス国立大学の、プロジェクトに対するオーナーシップの強さからも、ラオス側の開発政策との整合性の高さが推し測れる。

(2) 受益者ニーズとの整合性

ビジネスコースでは企業経営者、中間管理者、起業家を主なターゲット・グループとして設定している。これらのターゲット・グループと実施科目の設定はプロジェクト開始前と実施中のニーズ調査、さらには日常的なPDCAサイクルによるカリキュラムの改編等によって受講者ニーズとの整合性がとられているとともに、整合性をとるための仕組みが構築されている。

日本語コースでは、体系的なカリキュラム構成を採用しており、学習進度に応じた受益者ニーズとの整合性がとられていると考えられる。

相互交流については、ニーズ調査によって受益者のニーズ把握とそれに応じた事業計画の策定が戦略的に行われており、整合性は確保されていると考えられる。

(3) 日本側の政策との整合性

日本政府の対ラオス国の援助重点分野、そしてJICAの支援重点分野の一つは「人材開発」である。「JICA 国別事業実施計画 ラオス国」（平成19年2月版）では、人材開発に係る重点分野としては「基礎教育の充実」「行政能力の向上」となると「民間セクター強化に向けた制度構築および人材育成」を上げている。「ラオス日本人材開発センタープロジェクト」はその拠点として、市場経済化に資する人材育成プログラムと位置づけられている。

<プログラムツリー>

-経済成長への支援

-民間セクター強化に向けた制度構築及び人材育成

-民間セクター強化のための人材育成

4-1-2 有効性

LJC は、ビジネスコース、コンピュータコース、日本語コースの実施を通じて人材開発面で重要な役割を担っており、ラオス国立大学幹部も LJC ビジネスコースの重要性を認識し、またビジネスコースだけでなく、日本語コース、コンピュータコース、相互理解促進事業についても高く評価している。

インターネットや AV 機器等の情報設備の希少性から、メディアルームや図書室等を利用して情報を得るために LJC を利用する学生・一般利用者は多く、情報発信の拠点としても重要な役割を果たしている。また、一般民間企業の経営者や従業員を対象とした日本的経験を活かしたビジネスコースや広く一般に開かれた日本語コースの実施も、相互理解の促進につながっていると捉えることができる。

本プロジェクトが掲げる 2 つのプロジェクト目標との関係では、目標 1「ラオスの市場経済化に対応する人材育成を推進する為のサービスが、LJC によって提供される」については、現時点では成り行きを観察しなければ有効性を判断できない点が存在する。目標 2「相互理解を促進する活動に参加するための情報と機会が LJC によってラオス・日本両国の国民に提供される」については、技術移転や人材育成などについて一層の努力をする必要があるものの、目標は一定程度達成されていると判断される。

(1) プロジェクト目標の達成状況

「ラオスの市場経済化に対応する人材育成を推進する為のサービスが、LJC によって提供される」というプロジェクト目標 1 は主にビジネスコースの実施による達成が期待されている。

前にも述べたように、本調査において過去の受講者に対する定性的調査をインタビュー形式で行った結果、9 名中 8 名が、昇進や起業といった具体的な成果に結実したケースも確認され、インタビュー対象者全員が職場の仲間などに同様なコースの受講を薦めると答えている。また、ビジネス実践的コースにおける経営診断を受けた企業を調査した結果、企業診断の結果を反映した改善をはじめめる企業が出現していた。これらから、ビジネスコースによる目標 1 への質的達成はプロジェクト終了時までには期待することができる。

一方で、量的側面に関しては、受講生の減少がみられ、現段階での活動の成果と目標との関係を確認することはできなかった。終了時評価に向けたより一層の活動の強化が期待される。しかしながらこれについては、既述の運営管理体制によって受講者の評価が反映される仕組みが構築されており、その結果受講者の減少に対してカリキュラムの改編や MBA 課程の設置といった対応策が迅速に取れるようになっている。

MBA 課程については、今年度から新規に実施することとなっており、その成果がプロジェクト目標の達成にどの程度寄与するかという点については現段階で判断することは困難であり、終了時評価調査において、受講者からの評価結果等から判断することが必要である。

さらに、ラオスを取り巻く国際的な経済状況は早いスピードで変化しており、これらの変化に柔軟に対応していくことが、ラオスの市場経済化に対応する人材育成には重要であり、そのためのより一層の体制強化も望まれる。

なお、昨今の日系企業の進出状況から勘案するに、今後、日本語を使いこなす人材がビジネス

の分野で活躍する場が増加することが想定される。このため、日本語コースによる人材育成機能についても、ビジネスコースとの連携等も含めたより一層の体制・機能強化が必要となる可能性がある。

「相互理解を促進する活動に参加するための情報と機会が LJC によってラオス・日本両国の国民に提供される」というプロジェクト目標 2 については、日本語教育、相互理解促進活動、留学生支援活動などが実施されてきている。ラオス国内にあるほぼ全ての日本語教育機関（評価調査時点で 11）でも利用されているラオス語教材の作成等も行っていることから、LJC は NUOL の文学部日本語科と共にすでにラオスにおける日本語教育の拠点として機能していると判断される、相互理解促進についても 2007 年度において各種イベント参加者数が 1 万人近くになるなど、プロジェクト目標 2 については達成の可能性が高いと判断される。

しかしながら、これらの部門においては、自立発展性を確保する上で、今後は技術移転を中心に、LJC の基盤を確固たるものとする必要がある。

(2) 成果発現とプロジェクト目標達成の連関

プロジェクトで想定した 4 つの成果はほぼ順調に発現されつつあると判断できる。プロジェクトの設計段階で想定したように、4 つの成果が継続的に発現すればプロジェクト目標の達成は十分に可能だと判断される。実際、これまでのプロジェクト成果の発現にともなって、市場経済化に必要な人材を育成する上で日本センターが「重要な役割を果たすようになりつつある」ことがプロジェクト関係者から確認されている。

(3) 外部条件の変化・影響

「ラオスの政治状況が安定しつづけること」や「市場経済化政策が維持される」という外部条件については目立った変化はなく、これらによる影響はほとんどないと考えられる。

「NUOL ならびに FEBM が LJC に協力し、講師派遣を行う」という外部条件についても、NOUL のオーナーシップは強く、これまでのところ問題なく、ポジティブな影響を与えているといえる。

4-1-3 効率性

ラオス側からも人材を中心に積極的に投入がなされ、これらを含めた投入によって成果はあがっている。またプロジェクトの実施プロセスにおいても、おおむね問題はなく、効率性については高いと判断される。

(1) 投入

投入に関しては、ラオス側の C/P は本フェーズ開始当初 10 名だったが、調査時点では 15 名に増加しているなど、ラオス側の強いオーナーシップとコミットメントにより、プロジェクトの投入は適時適切に行われている。C/P の配置に空白期間が生じた例もあったが、プロジェクトの進捗には大きな支障は生じていない。その他、C/P の基本給与や光熱水費等の運営費の一部はラオス側が負担しているが、遅配・不払いといったことによってプロジェクトの進捗に支障が生じたという事例は確認されなかった。

日本側の投入（専門家、機材、現地活動強化費など）についてもほぼ計画通りに進捗している。また、日本人専門家への質問票調査の結果によると、日本側の投入はその量、質、タイミングにおいてほぼ適切であったとされている。

これらから、双方の適切な投入がプロジェクトの円滑な進捗に貢献しており、効率性を促進する正の要因を構成している。

(2) プロセス

プロジェクトの進捗には、組織内の円滑なコミュニケーションと意思決定プロセスが不可欠であるが、本案件においては、各レベルにおいて円滑なコミュニケーションと意思決定の仕組みが日ラ双方の間で構築されており、問題発生の防止や発生時の速やかな解決に大きく寄与している。また、日本側専門家の適切な指導・運営管理の下で、C/P 及びセンタースタッフは着実に知識・経験を蓄積しており、プロジェクトの目標達成に向けたプロセスは適切かつ円滑に行われていると判断される。

今後の、LJC のより一層の体制強化のためには、総務部門を中心とする組織内の総合調整機能の強化が必要と思われる。具体的には、組織としての意思決定の効率化と組織的な知見の蓄積、並びに各個人の能力向上（特にコミュニケーションスキルの向上）が必要である。

4-1-4 インパクト

以下に例示するように、すでにいくつかの注目すべき事例を確認することができるなど、本案件の活動が一定の波及効果を発現させつつあると判断できる。また、上位目標の達成の可能性については、既に一つがほぼ達成されているといえる。

- ・日本側によるビジネス実践的コースにおいては、経営診断結果を反映した改善をはじめめる企業が出現するなど本活動によるプラスの影響が見られる。
- ・相互理解促進事業では 2007 年度のみでも 100 回以上の催し物を実施し、延べ 1 万人近くのラオス市民が参加した。人口 70 万人のビエンチャン市において、年間 1 万人の動員は量的にみても相当程度のインパクトを与え、波及効果が期待される。
- ・LJC の相互理解促進事業を通じて、LJC にラオス文化の発信機能が蓄積しつつある。これを受けて、ラオス政府が、LJC に対してラオス人に対するラオス文化の普及促進の拠点としての「触媒」機能を期待しつつある。
- ・最近、日系企業のラオス進出が目覚ましい（予定を含めて約 90 社）が、これに伴って、日本語学習者がそれらに就職するなど、日ラの総合的な関係促進に寄与する例がみられるなど、予期していなかった効果・影響をもたらすものと期待される。また、これらの進出企業との間で、各事業との協力・連携事例も出てきており、LJC の活動が日ラの経済活動に対して直接的なインパクトを与えつつあると判断される。

<上位目標の達成の可能性>

- (1) 「LJC が市場経済化に資する人材開発のための中核的な役割を果たす」

ラオス国は 1997 年のアセアン加盟以降は、アセアンの活動に積極的に参加しており、2008 年までに域内関税引下げを達成するための取り組みを進めている。そのためラオス政府ならびに民間企業は、経済分野におけるアセアン諸国などとの国際競争力を養成する必要に迫られている。こうした状況のもと、LJC がビジネスコースの実施を通じて受講生に有益な知識を提供していることは、「市場経済化に資する人材開発のための」一定の役割を果たしているといえる。しかしながら、「LJC が市場経済化に資する人材開発のための中核的な役割を果たす」ためには、市場のニーズの変化に対応できなければならないと思われる。その市場の変化に対応するため、現在ビジネスコースの改編が行なわれており、FEBM との MBA プログラムも計画されている。このような変化に対応できる組織としていくことにより、人材開発の中核的な役割を果たす可能性が一層高まるものと思われる。また、終了時評価に際しては、企業等に対する認知度調査を行い、設定指標に基づく上位目標達成の状況・可能性について分析する必要がある。

(2) 「LJC が日・ラオスの相互理解を促進する拠点となる」

相互理解に関する活動の規模や質から LJC は既に日・ラオスの相互理解を促進する拠点となっていると判断され、また日本語教育についても、LJC が作成した教科書が各教育機関で活用されるなどラオスの日本語教育の拠点として確立されており、現時点において、すでに上位目標は相当程度達成されていると判断される。今後は更なる能力強化や質の高度化を推進させ、上位目標の達成をより強固なものとしていくことが必要である。

4-1-5 自立発展性

本フェーズの事前評価調査においては、以下の 2 点によって自立発展性の可能性が評価されており、今次中間評価調査では、その可能性を評価した。

①LJC の実施体制はおおむね確立されており、ラオス側のオーナーシップも高いが、給与水準が民間と比較して高くはないため、福利厚生や諸手当によるインセンティブシステムの構築が必要であり、計画されていること

②各コースが受講料を徴収していることから、長期的には自己収入による支出負担比率の増大が期待できること

第 1 点目に関しては、手当支給体系の見直しや語学手当の導入などによる改善が行われており、今後の効果発現が期待される。他方、現地調査での LJC スタッフに対するインタビューにおいては、依然として各種インセンティブに対する要求（国外での留学や研修機会の提供、給与水準など）が聞かれた。これらの要望を踏まえつつ、限りある予算規模の中で各個人の能力を最大限引き出すための仕組みづくりが今後も継続的に行われる必要があることが確認された。また、既述のとおり、今回の調査で総務機能のより一層の強化が組織・個人双方で必要であることが確認された。すでに、組織改編やマネジメントクラスの人事異動などの措置は取られているが、これらに対して日本側としての協力の可能性について検討することが必要である。

上記との関連で、LJC で育成したスタッフが大学の正職員への格上げ見込みが薄いということや給与などの待遇面で折り合いがつかず離職してしまうケースがある。これは知見・ノウハウの

蓄積による技術面での自立発展性に対する負の要因となりうる。ラオス人の職業観によるところも否定できないが、ラオス政府及び NUOL による LJC への公務員配置人数の拡大などの対応策について、然るべきレベルへの働きかけも重要と思われる。

以上より、福利厚生や諸手当によるインセンティブシステムの構築は計画されているが、その効果の発現を確認することは時期尚早といえる。

第 2 点目に関しては、JICA の負担とラオス側負担及び自己収入充当の比率がほぼ 1:1 である。短期的な変動要因としては、JDS 研修の受託収入が減少要因となり、MBA による収入が増収要因となる。次項に示す簡易なシミュレーションによれば、これらの要因を踏まえた短期的な財務状況の傾向は自己収入による支出負担比率の増大が期待でき、プロジェクト終了時までさらなる増大も期待できる。したがって、「長期的には自己収入による支出負担比率の増大が期待できる」といえる。しかしながら、自己収入による全額の支出負担は困難と思われ、残りの部分については、引き続き日本側による何らかの財政負担が必要である。

LJC のコストシェアの検証と予測、ならびに JICA シェアを下げるシミュレーション

現在 LJC における財務管理はすべてキャッシュフローベースで行なわれており、貸借対照表が作れるような管理は行なわれていない（ストックの概念がない）。したがって本シミュレーションにおいても、全てキャッシュフローベースでおこなった。

NUOL から大学の教職員給与として支払われる C/P の基本給などと、JICA が派遣する長期、短期の専門家に係る全ての経費は、LJC の管理となっていないので、これらは所与のもととして対象からはずした。

(1) 2007 年のキャッシュフローにおける JICA シェア

JICA が提供する携行機材をのぞいた LJC の収入（センターの事業収入、NUOL からの補填ならびに JICA 現地業務費）に対する、キャッシュフローベースの JICA 現地業務費の占める割合 (A) は約 55% であり、携行機材を含めた合計に対する、JICA 現地業務費ならびに携行機材の占める割合 (B) は約 63% である。

(2) 近未来の予測

近い将来、センターの事業収入のうち JDS からの委託研修（41 千ドル）がなくなり、MBA からの収入が当初計画どおり増える（87 千ドル）と仮定し（他の条件は不変）、さらに LJC の事業収支の改善分を JICA 現地業務費の削減に充てた場合、JICA 現地業務費の占める割合 (A) は約 48% となり、携行機材を含めた合計に対する、JICA 現地業務費ならびに携行機材の占める割合 (B) は約 56% となる。

(3) MBA の規模を 2 倍にした場合

MBA プログラムの提供は、計画通り進めば LJC の事業収支の改善をもたらす。そこでこの MBA プログラムの規模を 2 倍にすると仮定し（他の条件は不変）、さらに LJC の事業収支の改善分を JICA

現地業務費の削減に充てた場合、JICA 現地業務費の占める割合 (A) は約 37%となり、携行機材を含めた合計に対する、JICA 現地業務費ならびに携行機材の占める割合 (B) は約 45%となる。

(4) JICA シェアの下限の目途

上の MBA の規模を 2 倍にした場合のシミュレーションにおいて、さらにスケールメリットや業務の改善から LJC の事業にかかわる支出と JICA 現地業務費を 1 割減らしたと仮定し、その削減分を全て JICA 現地業務費の削減に充てた場合、JICA 現地業務費の占める割合 (A) は約 31%となり、携行機材を含めた合計に対する、JICA 現地業務費ならびに携行機材の占める割合 (B) は約 40%となる。この値は、現行のようにビジネスコース、コンピュータコース、日本語コース、相互理解事業をセットで実施していく場合の、JICA シェアの下限の目途を示す一つになるのではないかと思われる。

(5) 今後に向けて

今回のシミュレーションでは事業あるいはコース毎の収支を求めることはできなかった。それは以下の理由によるものであるが、今後センターの長期的な存続を前提に財務分析をおこなうならば、これらを検討する必要がある。

1. 暦年と (日本の) 年度の違い (ラオスでは暦年で管理し、JICA は日本の年度で管理している)ので、諸データの対応がとりにくい)
2. 収入と支出の対応がとれるような管理をしていない (勘定科目の整理やプロジェクトコードの導入によって改善できる)
3. 現在 LJC における財務管理はすべてキャッシュフローベースで行なわれており、貸借対照表が作れるような管理は行なわれていない (ストックの概念がないため、原価償却などが計算できない)
4. 同様に現在 LJC における財務管理はすべてキャッシュフローベースで行なわれており、未払い金、未収納金などが把握できない

4.2 結論

4-2-1 総合判定

日ラ双方の各レベルにおける努力によって、本プロジェクトは当初計画した投入により活動を行ない、一定の成果を発現しつつある。プロジェクト終了時点でプロジェクト目標を達成する可能性は高いと判断される。さらに、本プロジェクトはまさに日ラの「拠点」としての地位を確立しつつあり、その観点で本案件はすでに上位目標の一部を達成していると判断される。

総務を中心とする実施体制のより一層の強化や、日本側からの投入に依存している活動費のより一層の現地化など、終了時に向けて改善が必要な課題はいくつかあるが、現時点においてはそれらがプロジェクト目標の達成を阻害する大きな障害ではないと判断される。

4-2-2 阻害・貢献要因

<貢献要因>

(1) ラオス側のオーナーシップの強さ

既述のようにラオス側のオーナーシップは強い。また、調査団が確認したところでは、このオーナーシップはLJCのC/Pやスタッフのみならず、大学（学長・副学長等のマネジメント層を含む）、更には教育省（教育大臣を含む）のレベルにまで浸透しており、政府としてLJC並びに本案件を支援する体制が整っている。

これらのオーナーシップはプロジェクトの進捗に対する大きな貢献要因となっている。

(2) コスト負担の割合

ラオス側の予算措置とセンター収入によるコスト負担の合計が年々増加傾向にあり、昨年度はセンター支出全体の50%に達するなど、より健全なコストシェアへ向けての努力が見られる。

(3) ラオス国立大学経済経営学部との連携体制

プロジェクト設計当初から、経済経営学部の教員をビジネスコースの現地講師として活用することが計画され、その計画どおりLJCビジネスコースの現地講師の大部分は、経済経営学部の教員が担っている。このような相互連携の枠組みは、安定的な現地講師の確保を容易にし、ビジネスコースの自立発展性の向上に貢献している。また同時に、受講者は現役の経営者並びに従業員であることから、現地講師はそれらの受講者との意見交換を通じて実践面における課題を吸収し、教員にとっては実践的な知識が身に付き、それがさらに、講義内容の改善につながっている。

(4) ラオス国立大学文学部との連携体制

日本語コース運営では、文学部との間にビジネスコースにおける講師派遣のような連携体制はないものの、LJCと文学部日本語学科が車の両輪となって、ラオスにおける日本語教育の中心的役割を果たしていることが目標達成を促進している。

国際交流基金の日本語教育に関するノウハウをもとに、体系的なクラス体系を採用して実施しており、さらに教材の作成等の面でもLJCがラオスにおける日本語教育の中心的役割を果たしている。しかしながら、外部からはさらなる教材の作成や辞書の作成、さらにはより上のクラスの設立を望む声も上がっている。これらのニーズに応えられる意味でも、今後技術移転により、C/P及びスタッフのレベル向上が求められる。

(5) 定期的なコース評価の実施

LJCでは、各活動（ビジネスコース、コンピュータコース、日本語コース、相互理解促進事業）の参加者に対して終了時にアンケート調査などを行っている。同調査結果は、コース内容の改善のために活用されている。例えば、ビジネスコースにおいては、アンケート結果に基づくテキスト内容の修正・見直しはもちろんのこと、人気のない科目については、新しい科目と入れ替えられている。最近を受講者ニーズの大きな変化が見られ、これに対して、新しいカリ

キュラムの検討がなされ、FEBM との MBA プログラムの設立が準備されており、対応が図られている。さらに、ビジネス実践コースの運営では、2006 年以降、業務委託方式によってコンサルタントが継続的なニーズ調査、コース企画・運営、事後評価と次期企画への反映を終始一貫して行っており、これも目標達成を促進していると考えられる。このように、コース内容を定期的にモニタリング・評価し、改善を図ることが通常活動の中に組み込まれていることは、ニーズに応じたカリキュラムの提供につながり、プロジェクトの成果を高める上で効果的である。

(6) ラオスに進出する日系企業の数

最近ラオスに進出する日系企業の数が増加しており、日系企業を対象とした日本語の特別コースが実施されるなど、本プロジェクトに対してプラスの変化をもたらしている。一方、中国やベトナム、タイなどによるビジネススクール設立など積極的な進出により、日本のプレゼンスが相対的に低下していく恐れもある。これらの変化に対応するため、センターの活動強化や広報活動の一層の努力が望まれる。

<阻害要因>

(1) コミュニケーション力

実施プロセスにおける特記事項で述べたように、いくつかのレベルごとの定期的な会合をもつなど、プロジェクト内のコミュニケーションはよいと言えるが、特に総務部門を中心に、英語によるコミュニケーション力の不足がみられ、これが阻害要因になっているという指摘があった。これに対してはすでにいくつかの対策がとられているものの、今後も一層の努力が必要である。

(2) ラオス人ビジネスコース講師の質

ビジネスコースのラオス人講師に関しては、C/P 機関である NUOL の FEBM の人材が確保されていることは目標達成を促進している一方、これら講師の実務知識の不足や、講義内容の質の低さが目標達成の阻害要因となりうるおそれがある。特に MBA コースが開始された場合、受講生からの講師の質に対する期待はさらに高まると思われ、教授方法も含め、講師の質の向上に向けた努力が肝要である。

(3) スタッフの離職

LJC は内部昇進制度が確立しており、スタッフの定着率は比較的高いが、班長以下に、給与等の待遇あるいは昇進の可能性のより高い組織へ離職するスタッフが散見される。これも阻害要因となる恐れがあり、公務員枠の増大も含めた、インセンティブの確保に努力をしていく必要がある。

(4) 教室の数の不足

建物は日本の無償協力で建設されたものであるが、その後日本語教育用の教室用建物が増設

された（5 教室）。施設の多くはフェーズ 1 で整えられ基本的に問題はない。しかし活動の発展、活発化により、教室の数の不足の問題が発生しつつあり、これが阻害要因となる可能性がある。

第5章 提言と教訓

5-1 提言

本フェーズ後半、さらには将来に向け、より効率的かつ効果的な運営を図るため、調査団はプロジェクトに対して以下の提言を行なった。

5-1-1 実施体制の強化。

(ア) LJC C/P 及びスタッフ（特に総務部門）の業務実施能力強化のため、およそ以下の方策を通じて特に他部門との調整能力、コミュニケーション能力等を強化するべく、LJC 所長・副所長並びに JICA 専門家間で検討し、実施する。

- ①C/P 及びスタッフ（特に総務部門）の事務処理能力の向上を図るための各種指導（経理処理の迅速化、他部門との調整力強化、カスタマーサービスの向上など）を日本人専門家（ビジネスコース専門家等）によるセミナー開催や OJT を通じて行う。また、他の類似機関（JICA 事務所含む）の総務部門での研修実施の可能性について検討する。
- ②英語、日本語能力の更なる向上のため、英語については現行の外部専門家による OJT に加え、会話能力の向上を目指すとともに日本語についても同様に会話能力の向上を目指すべく、LJC 日本語コース等への参加奨励の方策について検討する。
- ③LJC で外部向けに実施する活動を LJC 自身が実践することで、他機関のモデルとなるよう努力する。（例：ビジネスコースで提供する 5S やカイゼン等の実践例を LJC 自らが行う、また LJC 自身の企業診断をビジネスコース専門家が行うなど）

(イ) 各部門がコア・コンピタンスを持つことによる他機関との比較優位性を向上させ、自立発展性をより強化する。調査団が現地調査の結果として想定する各セクションのコア・コンピタンスは以下のとおりであるが、LJC 内でより一層議論が深まることが期待される。

①総務部門

公的機関としての質の高いカスタマーサービスが提供できる。

②ビジネス部門

日本的経営の実践例やラオス国内の実践例に基づいた、実践的なビジネスノウハウやスキルを提供することができる。

③日本語部門

初級および初中級の日本語能力向上のための質の高い講義を提供できるのみならず、初級および初中級レベルまでの教材開発、語彙集などの開発することができる。

④相互理解部門

日本・ラオスの文化交流イベントを実施する国内唯一の機関としてのコア・コンピタンスをすでに有するが、広報活動の更なる強化を図り、イベント等を通じ LJC の認知度を向上させる。また、日本への留学情報発信ならびに大学間交流の拠点さらにラオス青年の派遣前研修、JOCV 語学訓練など両国青年の研修の拠点となる。

5-1-2 事業の効率的かつ効果的運営

(ア) ビジネスコース

- ①今年度のLJC ビジネスコースについては、ラオス側提案のカリキュラムを実施するが、引き続き受講生のニーズに柔軟に対応できる体制を維持し、必要に応じて改編する。
- ②今年度派遣予定のビジネスコース専門家については、ビジネスコース部門の責任者をC/Pとし、企画立案も含む運営指導について技術移転を行うこととする。
- ③9月開設のMBAプログラムの円滑な運営およびコース内容の質を確保するため、以下の方策を講じる。
 - ・MBA プログラム運営プロセス（募集、選考、登録、出欠管理、受講料徴収管理等）における透明性、公平性の確保に十分な配慮を行い、質の高い運営に努める。
 - ・MBA プログラムの円滑な運営を図るため、ビジネスコース事務局の能力強化を図る。
 - ・MBA 運営管理委員会（Management Committee of MBA；仮称）メンバーにLJC 日本側所長を加えると同時に、講師陣の質を継続的に確保するための評価委員会的な機能を付与する。
 - ・ビジネスコース運営管理専門家はC/Pを通じ、MBAの効果的な運営に関する必要な助言が行えることとする。
 - ・講義内容の質を確保するため、教授法の継続的な改善が図られるよう適切なモニタリングシステムを確立する。
- ④現在主にラオスの主要な産業である縫製業や木材加工（家具等）等製造業を中心とした現場指導を実施しているが、サービス産業（販売、流通業など）を対象とした現場指導を可能な範囲で行う。
- ⑤現場指導で得た教訓を座学（講義）に取り入れ、ラオスの現状に即したより実践的な講義内容とする。そのための仕組み（メカニズム）を日ラ協働で構築する。

(イ) 日本語コース

- ①ラオス国立大学文学部日本語学科との連携を強化し、大学全体としての初級レベルおよび初中級レベルの受講者に対する日本語教育能力を一層高める。具体的には、日本語学科は教室が不足しているため、今後も継続してLJC 教室の昼間の貸与を行う。また同学科の一部科目をLJCで実施する。LJCの行う日本語関連情報を同学科学生と等しく共有を図り、また日本語祭りなどへの参加を奨励し、両機関の受講生の能力強化を協同して行う。
- ②初級および初中級レベルまでを教授できる現地講師育成を一層強化する。
- ③初級および初中級レベルを対象とした教材開発能力を一層強化する。

(ウ) 相互理解促進事業

- ①情報文化省他関連するラオス側政府機関との連携を通じ、ラオス事情全般にかかる情報収集機能を強化し、日本の大学関係者や訪問者に対する情報提供機関としての機能を強化する。
- ②自立的なイベント等運営管理能力の一層の強化を図るべく、C/Pへの技術移転を促進させる。
- ③日系企業等との協力体制をさらに強化し、文化イベント等開催時の企業からの協賛を得るなど運営基盤を強化する。
- ④日本への留学情報支援、日ラ大学間交流のための支援、両国を訪問する青年らへの研修機関としての機能を強化する。

5-1-3 LJCの自立発展性のための取り組みの検討

- ①フェーズ2後のLJCのあり方について、現在までの成果を踏まえた現実的な将来像の検討を開始する。JCCのsub-committeeを設立するなど定期的に将来像を日ラオス双方で検討するメカニズムを確立し、年度内には日ラ双方で一定の合意形成を目指す。
- ②財政基盤の一層の強化を図るため、現地での事業実施にかかる必要経費にかかる日本側の経費負担と事業収入を含むラオス側負担との比率については、フェーズ2終了に向けてより自立発展性の高い財務体質を指向する。このため、業務の効率化を図りコスト削減に努める一方、事業の質を損なわない範囲で受講料等各種収入増を図る。
- ③より詳細な財務分析を可能とするため、日ラ双方で共通の収支比較ができるよう必要な準備（財務会計科目の標準化など）に着手する。

5-2 教訓

本評価調査を通じ、調査団は、本案件の経験から導き出され、主に他の日本センタープロジェクトで参考となるべき教訓として、以下の2点を抽出した。

5-2-1 オーナーシップの高いC/Pとの関係構築について（C/P側の人員配置、リーダーシップ）

ラオス側は共同所長を始め各セクションの管理職（チーフ、サブチーフレベル）に多くのC/P（公務員）を配置している。これら定着率の比較的高い人員を配置することはプロジェクトの組織運営上の基盤強化につながり、自立発展性を高めるものといえる。また、共同所長のリーダーシップによる広報活動の強化、日ラ双方の広範なプロジェクト関係者に対するセンター活動の理解促進を不断に行ってきた。したがって、他の日本センターにおいても組織人員の定着率に着目した運営を行い、かつ所長の適切なリーダーシップ発揮による国内における知名度向上や関係者の理解促進を図ることがプロジェクトの成果を高める上で有効と思われる。ただし一方で、共同所長体制をとることから、両者の円滑なコミュニケーションならびに信頼関係が損なわれるとプロジェクトの運営に重大な影響を及ぼすことが懸念される。

5-2-2 組織内の体制強化の方策について

LJCではスタッフ人材育成を強化するために、個々の能力に合わせた個別研修計画を適度なインセンティブ（語学手当等）と組み合わせて実施しており、個々の目標設定が明確となっている点で、組織のあらゆるレベルでの体制強化につながるものと判断される。他の日本センターでの現地スタッフ育成の上で参考となる方策であり、同様の育成計画の導入を検討することが望まれる。ただし、いかなる人材育成計画も自らの自発的な意思により継続した取り組みがなされなければ中長期的な効果発現に至らないと思われ、スタッフのモチベーションを保つ工夫（能力強化キャンペーンを半期に一度程度実施するなど）も必要である。

第6章 団長所感

フェーズ2終了(2010.8)まで残すところ2年余りとなり、今次中間評価調査においては通常の評価調査のみならず、フェーズ2終了後のLJCに関する将来像の検討に着手する目的を持っている。前者については、カウンターパート(ラオス国立大学)側の強いオーナーシップが実践面で確認された。すなわち、プロジェクトに従事する現地スタッフ50名のうち、管理職クラス(所長を始め、各セクションチーフまたはサブチーフレベル)の15名(フェーズ2開始当初は10名)が公務員資格として配置されており、組織基盤の強化が着実に行われている。今後は22名にまで公務員数を増すとの計画があり、センターの更なる基盤強化(将来的には「センター」から「Institute」へ格上げすることを検討している旨教育省大臣以下大学関係者が一様に述べている)につながるものと期待される。

なお、今回の調査では、特に総務部門の脆弱さが重要な課題として議論されたが、日本人専門家が指導する他の事業部門に比べ、総務スタッフのやる気や能力も見劣りする面も多く見られた。本来的に高くない事務・調整能力やコミュニケーション能力(英語、特に会話能力)が不足しており、円滑な事業実施を妨げる結果を招来している例も多い。ラ側も十分な問題意識を持っており、日本側の提案により語学手当導入による自己研鑽の奨励、ネイティブ(英文校閲担当)によるOJTが実施されている(ラ側は英語や日本語の集中レッスンなどの追加導入を希望)。今後は、主に次期派遣の業務調整員(今年度第3四半期)のTORに総務部門のスタッフ育成を含めるなど、日常業務を通じた能力強化を図っていきたい。

各事業部門はそれぞれ事業の質を高める工夫が随所に見られ、日本語においては明確な達成目標(初級、初中級レベルを育成する)と戦略的アプローチ(初級を6段階に分けるなど極めの細かい対応)を採用し、質の高い講義を実施している。また、相互理解分野では、現地スタッフによるイベント運営能力は相当程度高まっている(企画立案は未だ困難な状態)。また、情報文化省や他の政府機関とも協力関係を構築し、ラオスに関する全般的な情報収集能力を高めるとともに、留学生支援、大学間交流さらには現地研修(協力隊語学研修、JENESYS派遣ラオス青年の派遣前研修等)を今後の事業の柱として強化していくとしている。したがって、同2事業については、既に「拠点」としての地位確立しつつあるといえる。

一方、ビジネスコースについては、MBAプログラムの開始を9月に控え、生徒の募集はすでに開始している(現在までのところ定員35名に対し既に40名を越える応募あり、応募締め切りは7月末(目標は応募者100名以上))ものの、同プログラムに関するラオス側の運営方針や日本側投入の詳細については更なる確認作業や検討が必要であり、また通常のビジネスコースについても現場指導を座学に着実に反映させるための仕組み作りなど課題は多い。このため、「提言」において、MBA運営上の透明性の確保や事務局能力の強化、講師陣の授業の質を高める仕組みづくりや日本側講師も含めた評価制度の導入などを行った(ラ側も同様の問題意識を持っており、これら提言実施に前向きに対応したいとしている)。また、市中のビジネススクール(タイ、ベトナム他)やEU、USAID等による起業支援プログラムなど競合相手も増加傾向にあり、国立大学の威信にかけてもMBAの成功(質の確保)が至上命題として日ラ双方の関係者に認識されている。

この他特筆すべき点として、日系企業の進出が加速しつつあることが確認された（今後数年のうち約 90 社の進出予定）。既に縫製業を中心にタイへ進出している企業の第 2 工場設立の動きが見られ、一部の企業からは日本語人材の紹介、日本語クラスの受託、文化交流事業への企業グッズの提供等徐々にではあるが日系企業を顧客としたセンター活動が開始されており、センター所長は今後も積極的に活動の幅を広げていきたいとしている。

フェーズ 2 後の将来像に関する議論としては、ラ側は冒頭に触れたとおり、センターから Institute に格上げを図り、公務員人数を増加（22 名まで）させ、現在の 4 事業（ビジネス、日本語、相互理解、コンピューターコース（独自事業））に加え、調査研究機能も付加していきたいとの構想を持っていることが確認された。日本側も大使は文化交流にとどまらず知的交流（学術交流）へむけて飛躍させたいとの意向も示された。

具体的には今後の議論を待たなければならないが、ラ側がフェーズ 3 に対する期待を繰り返し述べたのに対し、調査団としてはあくまでもこれまでの成果を踏まえた現実的な議論を重ねていくことの重要性、検討にあたっては JICA の投入ありきで行うのではなく、資金や人材のリソースの多角化を図る必要性について説明し、理解を求めた。いずれにせよラ側は高いオーナーシップを持ち、自分たちで収入面も含め組織基盤強化を図っていききたいとの強い意向を示しており、JICA としては少なくともこれまでの成果が損なわれない形での未来志向の検討が必要と思われる。今後は JCC の分会の場で定期的に議論を行い、年度末までには一定の方向性を打ち出すことで合意した。

最後に、今回の調査では、日本側所長による事前のラ側への調査目的の共有や調査団の関心事項（将来像の検討の方向性含む）についての情報があらゆるレベル（教育省、大学、プロジェクト内）に浸透しており、先方とのスムーズかつ建設的な意見のやりとりが行われたが、日ラ双方の不断の意思疎通の努力の表れとして評価したい。ややもすると日本センター案件の特性から、日本側が主導し、物事を一方的に進める危険がある中で、丁寧なコミュニケーションが図られていると感じた。ただし、ラ側のオーナーシップの高さは、単に彼らに求められる範囲での対応にとどまることなく、センター運営全体に関する考えや方針についても高い意識を持っており、将来像の検討に着手した今、より一層の対話の機会を設け、日ラ双方の認識を一致する努力を継続していくことが望まれる。

以上

別 添 資 料

- 1 ミニッツ
- 2 面談議事録

MINUTES OF MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE MID-TERM EVALUATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION PROJECT
OF
THE LAO - JAPAN HUMAN RESOURCE COOPERATION CENTER (PHASE 2)

The Japanese Mid-term Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Mr. Shinji UMEMOTO, visited the Lao People's Democratic Republic (hereinafter referred to as "Lao P.D.R.") from May 26 to June 12, 2008, for the purpose of conducting the evaluation concerning the Japanese Technical Cooperation Project on the Lao-Japan Human Resource Cooperation Center (Phase 2) (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in Lao P.D.R., the Team had a series of discussions with the Lao-Japan Cooperation Center (hereinafter referred to as "LJC") and exchanged views on the achievement of the Project in fulfilling the Record of Discussions signed on August 30, 2005.

Based on these discussions, the evaluation was jointly conducted and recommendations were made by the Lao and Japanese sides. The evaluation report was developed as attached here. The result of the evaluation will be confirmed by members of the Joint Coordination Committee (hereinafter referred to as "JCC") in November 2008.

Vientiane, June 11, 2008



Mr. Shinji UMEMOTO
Leader, Japanese Mid-term Evaluation
Team, Japan International Cooperation
Agency, Japan



Assoc. Prof. Dr. Saykhong SAYNASINE
Vice President,
National University of Laos

EVALUATION REPORT

TABLE OF CONTENTS

1. Outline of the Evaluation
 - 1-1. Purposes
 - 1-2. Evaluation Criteria
 - 1-3. Methodology
 - 1-4. Members of the Joint Evaluation

2. Achievements of the Project Purpose
 - 2-1. Input
 - 2-2. Implementation of Activities
 - 2-3. Achievement of Outputs
 - 2-4. Achievement of Project Purpose

3. Evaluation (Five Criteria Evaluation of the Project)
 - 3-1. Relevance
 - 3-2. Effectiveness
 - 3-3. Efficiency
 - 3-4. Impact
 - 3-5. Sustainability

4. Conclusion and Recommendations
 - 4-1. Conclusion of the Evaluation
 - 4-2. Recommendations

(ANNEXES)

- ANNEX 1: Performance of the Input
- ANNEX 2: Evaluation Grid for the Project
- ANNEX 3: LJC Organizational Chart
- ANNEX 4: Inputs from Japanese side
- ANNEX 5: Record of Business Course Activities including Computer Courses
- ANNEX 6: Record of Japanese Language Course Activities
- ANNEX 7: Record of Exchange Program Activities
- ANNEX 8: Record of Publicity of LJC

1. Outline of the Evaluation

1-1 Purposes

The Project was initiated in September 2005 and will be completed by August 2010. The purposes of the mid-term evaluation were as follows:

1. To review and confirm the achievements and the implementation process of the Project, as detailed in various documents such as the Record of Discussion (R/D) and the PDM.
2. To evaluate the activities and achievement in terms of five evaluation criteria, namely relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability.
3. To clarify issues and the countermeasures need to resolve these by the time the Project is due to be completed.
4. To confirm the concrete image of the Project by the time Project is due to be completed.
5. To discuss the revision of the framework of the Project, PDM with its quantitative criteria.

1-2 Evaluation Criteria

The following five evaluation criteria are applied to the project evaluation.

- (1) Relevance: The Project's relevance is assessed in terms of validity of the Project Purpose and the Overall Goal in relation to the development policy of the Government of Lao PDR and the needs of the Project beneficiaries.
- (2) Effectiveness: Effectiveness is determined based on whether the Project has actually benefited the target group. It also assesses whether the Project Purpose is being achieved as expected and whether this is due to the Project's Outputs.
- (3) Efficiency: An assessment of the Project's efficiency verifies whether the project used its resources effectively. The relationship between Inputs and Outputs is reviewed. In essence, this criterion examines whether the Input is commensurate with the degree to which the Outputs and the Project Purpose have been achieved.
- (4) Impact: An assessment of the Project's impact examines the indirect effects and extended effects of the Project in the long run. The analysis also extends to the positive and negative impacts that were not expected when the Project was planned.
- (5) Sustainability: The project's sustainability is assessed by focusing on the Project's institutional, financial and technical aspects in an examination of the extent to which the Project's achievements have been sustained or extended at this point.

1-3 Methodology

The evaluation survey was mainly conducted by the Team, and jointly confirmed with the Lao evaluator listed below. The evaluation survey was conducted in accordance with following steps:

- (1) The Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM") was agreed upon by both sides as the basis of the evaluation.

- (2) Achievement of the Project was studied by collecting data and other relevant information.
- (3) Analysis was made from the viewpoint of the five evaluation criteria described.

1-4 Members of Evaluator

<Lao Side>

- (1) Assoc. Prof. Dr. Saykhong SAYNASINE Vice President, NUOL

<Japanese Side>

- (2) Mr. Shinji UMEMOTO Team Leader
- (3) Mr. Makoto TAKEI Evaluation Analysis
- (4) Mr. Kazuya SUETA Evaluation Planning

2. Project Achievement

2-1 Input

<Japanese Side>

- List of Dispatched Japanese experts (ANNEX 4 1.)
- List of Counterpart Personnel Training in Japan (ANNEX 4 2.)
- List of equipment provided (ANNEX 4 3.)
- Operating Cost (ANNEX 4 4.)

Inputs have been done nearly as scheduled.

<Lao Side>

- Allocation of LJC staff members (ANNEX 3)
- Operating Cost (ANNEX 4 4.)

The Lao side has borne the necessary operating cost.

2.2 Achievement of Outputs

The achievement level of each Output is shown below. The detailed information is included in the attached Evaluation Grid (ANNEX 1).

Output 1	The general management of the Center is improved.
Activities	1-1 To conduct baseline survey 1-2 To redesign and implement general management system of the Center 1-3 To implement staff training 1-4 To monitor and evaluate the general management system regularly

The team confirmed that LJC as an organization has developed its capacity through efforts of both sides. Measures taken to strengthen individual capacity should be especially noted positively. Each staff member and his/her managers share current capacity, goal, and necessary measures to develop capacity through the Human Resource Development plan made annually.

To further strengthen LJC's potential, further strengthening of administration function will be required, namely, the establishing of a more efficient decision making system and accumulation of institutional knowledge, and enhancement of communication skills for each staff member. To achieve this, some measures have been already taken.

For more effective decision-making, the procedural process analysis done in December 2007 may help to improve work process flows.

Output 2	Practical business courses and business services intended for the business people in Laos are provided.
Activities	2-1 To make an annual implementation plan for business area activities 2-2 To implement business area activities according to the annual implementation plan 2-3 To collaborate with other organizations and provide special courses related to market economy 2-4 To strengthen the coordinated function with FEBM 2-5 To monitor and evaluate achievements of activities regularly

For JICA, the business section seems to work most efficiently because JICA's inputs are relatively limited compared to the volume of activities. Accumulation of experience and knowledge of the management cycle has been operated only by the Lao side. Japanese inputs have been limited to the part of practical business skills including on-site consultation. The combination between academic and practical spheres is giving LJC competitiveness among similar business schools or academies. Special training with the result including computer courses for government officials have been successfully implemented, with the result that LJC received several appreciation letters from ministries.

The business section also has flexible management system adapting to the needs of participants. ~~The number of applicants for some courses declined in 2007, and LJC promptly reacted~~ co-working with JICA experts and concluding that the main reason was the market size for similar business courses. And LJC decided to change the curriculum. This example shows PDCA cycle works appropriately.

Further strengthening of capacity with cooperation of Japanese side should be taken to keep competitiveness with other organizations.

Output 3	The resources of Japanese language education in Laos are activated through teacher's training, course programs and network among Japanese language teachers.
Activities	3-1 To establish overall strategy and make an annual implementation plan for Japanese education in NUOL 3-2 To implement Japanese courses 3-3 To implement teacher training

	<p>3-4 To form a human network of private Japanese language schools and the Japanese education personnel in ASEAN region</p> <p>3-5 To promote mutual cooperation with the Japanese education personnel in Laos through the teacher seminars and the development of teaching materials in LJC</p> <p>3-6 To provide learning environment for Japanese course participants by installing the self-study classroom and studying materials</p> <p>3-7 To monitor and evaluate achievements of activities regularly</p>
--	---

The Japanese language section has provided quite an organized curriculum for learners. Students can precisely measure their current ability in Japanese language by the level of classes divided in 6 grades for beginner. LJC hosted the first Japanese language proficiency test in Lao P.D.R. as well as Japanese speech contests in cooperation with other related organizations.

Japanese language education restarted in the late 1990s. The priority was to educate Lao lecturers though it might take at least 5-10 years. LJC's role as a core educational institute of Japanese language should be continued.

On the other hand, constructing networking among Japanese lecturers is successfully taking place. Teaching materials in Lao language have been developed by LJC. With further collaboration with the Japanese language section, NUOL, LJC will continue to play the role of the center of human development in this field.

Output 4	The system for providing mutual understanding programs and information is established.
Activities	<p>4-1 To implement needs survey for mutual understanding activities</p> <p>4-2 To collect and provide information on both countries</p> <p>4-3 To provide opportunities by utilizing facilities</p> <p>4-4 To strengthen coordination with Business area and Japanese language</p> <p>4-5 To monitor and evaluate achievements of activities regularly</p>

In cultural exchange activities (mutual understanding activities), the result of various events and interviews with participants showed evidence, to a certain extent, that LJC is already playing the role of the center for mutual understanding for Lao and Japanese people. This has been achieved by LJC's uniqueness in the Lao P.D.R.. But furthermore, accumulation of activities since the first phase has formulated positive reputation of LJC. PR activities through mass media such as TV, radio, newspapers also contributed in raising the reputation of LJC.

As a further highly value added activities such as collaboration works with Japanese universities, or focal point providing information on studying in Japan, the capacity of its section needs to be developed because the existing situation in the Lao P.D.R. does not allow the development of such activities by the Lao side independently, and will not for some time.

2-4 Achievement of Project Purpose and Overall Goal

2-4-1 Project Purpose

- a) The Center provides services to enhance human resource development for the market-oriented economic reform of Lao P.D.R.

Business courses with an organized balance between theory and practice have been provided under cooperation of both sides. The performance of these courses is positively evaluated from the qualitative viewpoint. On the other hand, from the quantitative viewpoint according to related indicators, further development of courses may be required. To keep competitiveness with other organizations, continuous close cooperation from both sides is required. Human resource management with collaboration between business section and Japanese language courses should be considered responding to the increasing demand for human resources with Japanese language and business skills because of rapid growth of activities and investment by Japanese companies.

- b) The information and the opportunities to participate in activities for mutual understanding are provided for people of both countries by the Center.

The team concludes that information and opportunities for mutual understanding through activities of cultural exchange programs and Japanese language courses have already been provided to Lao people. Functions providing Lao information to Japanese people have also been achieved in a certain extent. Therefore, it can be concluded that it is likely that this project purpose will be achieved.

Further strengthening of functions is expected.

2-4-2 Overall Goal

- a) ~~The Center will perform the core function of human resource development in the field of~~ business area for market-oriented economic reform of Lao P.D.R.
- b) The Center will be utilized as the key place for mutual understanding between the people in Lao P.D.R. and Japan.

Overall goal b), the team understands that LJC has already been functioning and utilized as a key place to promote mutual understanding. Therefore, this overall goal is likely to be achieved though there also exists the probability of a comparative decrease in its presence and function because of other competitors including those from other countries. Maintaining and further strengthening of LJC's capacity on this sphere should be expected.

Overall goal a), the achievement of this goal is extremely difficult from the quantitative viewpoint. Another option to perform as the core function is to pursue qualitative spheres. Through continuous improvement of curriculum, business courses can provide highly qualified services to core target in business society, which might lead to achieve this overall goal.

3. Evaluation (The detailed information is included in ANNEX 2.)

3-1 Relevance

It is fair to say that the overall relevance of the Project is high. Details are as follows.

3-1-1 Alignments to Development Policy of Lao P.D.R.

The Lao government intends to eradicate poverty and graduate from LDCs by 2020. In its policy, the government intends to achieve, as policy approaches for development, sustainable economic growth, strengthening economic competitiveness, promotion of market economy and industrialization. There seems no change from the beginning of this phase. Therefore, the Project meets Lao development needs.

3-1-2 Conformity with needs of target groups

Each activity has introduced PDCA cycle. The target group is clarified according to a needs survey or the result of evaluation by ex-participants. The result of the evaluation is shared and given as feed back to lecturers.

Annual plans are also drafted and implemented regularly.

3-1-3 Conformity to Japanese and/or JICA's assistance policy

According to JICA's assistance strategy, "capacity building and human resource development for strengthening the private sector" is one of the priority subjects. The Project is expected to function as one of the core organizations.

3-2 Effectiveness

Overall, the effectiveness of the Project is reasonably high. The reasons are outlined below.

3-2-1 Achievement of project purpose

In terms of the first purpose "The Center provides services to enhance human resource development for the market-oriented economic reform of Lao P.D.R." is expected to be achieved by the end of project period. A flexible system to modify business courses and curriculum according to evaluation by participants will contribute to achieve the purpose.

The team interviewed ex-participants of business courses. The evaluations from them were extremely high. Eight out of nine interviewees enjoyed concrete merit after taking business courses such as promotion in his/her company or starting business by him/her-self.

On the other hand, from the quantitative viewpoint according to related indicators, further development of courses may be required. To keep competitiveness with other organizations, continuous close cooperation from both sides is required.

Concerning the MBA courses, it is still early to measure their influence and contribution to LJC because they are yet to start. The achievements of the MBA courses will be measured in the final evaluation survey.

Human resource development with collaboration between business section and Japanese language courses should be considered responding to increasing demand of human resources with Japanese language and business skills because of rapid growth of activities and investment by Japanese companies.

In terms of second purpose "The information and the opportunities to participate in activities for mutual understanding are provided for people of both countries by the Center" is likely to be achieved because information and opportunities for mutual understanding through activities of cultural exchange programs and Japanese language courses have already been provided to Lao people.

Further strengthening of each function is expected to secure sustainability.

3-2-2 Relation between result of outputs and achievement of project purpose

Four outputs defined for the project are being achieved mostly as scheduled. Continuing results these four outputs should lead to the achievement of the project purpose.

3-2-3 Factors promoting and hampering to achieve the Project purpose

High ownership of Lao side such as increasing number of C/Ps, provision of lecturers from FEBM gives positive factors to the Project.

Japanese private companies working and/or investing in Lao P.D.R. (and the fact that the number is growing) gives positive factors to the Project, too.

One negative factor, which hampers progress of the Project, is a high turnover of some staff members. Resignation after a short period of work might weaken LJC's capacity because institutional memory is difficult under rapid turnover of staff members.

3-2-4 Change and influence of outer condition

There seems to be no particular change of external conditions such as Lao political situation influencing the Project.

Cooperation structure between LJC and FEBM by sending FEBM lecturers to LJC might have a positive influence.

3-3 Efficiency

As stated below, there seem no specific constraints and/or problems on efficiency.

3-3-1 Inputs

Lao inputs to the Project have been done appropriately with strong ownership and commitment of Lao government and NUOL. For example, Lao number of C/Ps (person working in LJC with a status as civil servants) was 10 at the beginning of the phase. At the time of this survey, 15 C/Ps are allocated to LJC, which shows a Lao strong ownership with concrete budget allocation for personnel. Other inputs from the Lao side such as utility cost have been timely provided to the Project. As yet there have been no serious constraints hampering progress of the Project.

Japanese inputs have also been done as scheduled.

The team concludes that these appropriate inputs from both sides contribute to the smooth progress of the Project, and they formulate a positive factor to promote efficiency of the Project.

3-3-2 Process

The Project is authorized by multi-layered decision-making system such as JCC, LJC Top Management Meeting. Through this mechanism, both sides communicate smoothly, which contributes to the avoidance and to prompt reactions to issues and problems.

For further development of LJC's potential, further strengthening of administration function will be required, to be precise, composition of more efficient decision making system and accumulation of institutional knowledge, and enhancement of communication skill for each staff member.

3-4 Impact

It is early to judge probability of impact of the Project. On the other hand, there already exist several notable cases that show activities of this Project give ripple effect to certain extent.

- a) Some companies which took business courses or on-site consultation service started to introduce improvements based on the results of diagnosis.
- b) LJC implemented over 100 events as exchange programs, and 10 thousand people out of 700 thousand population of Vientiane participated. The number itself gives enough impact to society of Lao P.D.R.
- c) LJC is accumulating and providing information on Lao culture through various activities. The Lao government evaluated it, and is now becoming to expect LJC to function as a catalyst to promote Lao culture to Lao people.
- d) Japanese private companies working and/or investing in Lao P.D.R. (and the fact that the number is growing) gives positive factors to the Project, too.

3-5 Sustainability

According to the Ex-ante evaluation, the following two points are itemized to measure possibility of sustainability at that stage;

- a) Though LJC has already established its organization with strong ownership by Lao side, the introduction of an incentive system for staff members such as a more attractive welfare program or extra payment for keeping staff members with comparatively lower salary level is under consideration.
- b) Each activity collects a certain amount of fee, which contribute to increase revenue and coverage ratio of cost.

On the first point, the team observed many improvements, and they were positively evaluated to a certain extent. Some of them have just been introduced, and need some time to confirm their results. At the same time, some staff members requested the introduction of a better incentive system. LJC needs to continue its efforts, with limitation of budget, to respond them for taking their potential maximally.

As mentioned above, further strengthening of administration function might be considered though LJC has already taken some measures such as organizational reforms. Japanese side also needs to consider possibility for securing institutional sustainability.

In some cases, though, the staff members left LJC because of knowing less possibility to be promoted as civil servant than his/her expectation or less payment than expectation. Quick personnel turnover might cause negative impact to LJC because it hampers the accumulation of institutional knowledge. LJC might need to consider and request to authorities on increasing number of civil servants.

On the second point, cost share of JICA/NUOL + self-revenue is almost 50/50. The team positively evaluates the ratio at this stage. For enhancing financial sustainability, detailed analysis should be taken. For the short term, increase factor might be from MBA, and decrease from termination of JDS contract. According to the simple simulation by the team, LJC's financial situation for the coming several years, taking account these two plus and minus factors mentioned above, is possibly expected to improve, and financial sustainability is expected to increase from 50/50 to roughly 45/55 by the end of this phase in 2010. In that sense, Japanese side might still need to bear the rest to maintain financial sustainability beyond this phase. To achieve long-term sustainability, further investigation should be required.

4. Conclusion and Recommendations

4-1 Conclusion of the Evaluation

The evaluation team concludes that the Project is implementing and achieving outputs as scheduled with notable effort by Lao and Japanese sides. The team also evaluates that probability to achieve project purpose is very high by the end of the phase in 2010. Furthermore, LJC is becoming established in its position as "the Center of mutual understanding between Lao P.D.R. and Japan." Therefore, the Project can be possibly evaluated to achieve a part of overall goals.

Several issues, which need improvements, are observed though they do not necessarily hamper the achievement of project purpose.

For achieving project purpose as well as overall goal toward the end of this phase, and for maintaining and strengthening its function continuously, the team recommended several points for pursuing further effective and efficient management of activities.

The team also observed that stakeholders in both sides in Lao P.D.R. expected to develop and strengthen LJC's function and activities. It is necessary for stakeholders on both sides to launch concrete and realistic discussion of future perspectives of LJC after completion of this phase in 2010.

4-2 Recommendations

In order to manage the LJC project more effectively towards the end of Phase 2 as well as for the future of LJC, the mission recommends the following measures to be considered for implementation by both Japanese and Lao side:

4-2-1 Capacity Building for LJC staff members

In order to strengthen the capacity of LJC management, LJC staff members, mainly in the ~~administration division~~, should strengthen their capacity of accounting, coordination, and communication by the following measures:

- Japanese experts should provide LJC staff members with opportunities for training such as accounting, coordination between other divisions, customer service, etc.
- LJC can also seek the possibilities of organizing some training at similar organizations including JICA Lao office.
- For more efficient communication with mainly Japanese counterparts or other foreign visitors, LJC staff members should continue their study of both English and Japanese to further improve their conversation skills. LJC should also continue to seek appropriate incentive systems to keep motivation of staff members.
- Staff members in each section should also be required to continue to develop their capacity basically through on the job training.
- LJC should demonstrate itself what they teach at LJC by applying some significant activities

such as 5S, KAIZEN, on-site training, etc. thereby improving overall performance of LJC.

4-2-2 Establishment of Core Competence

Each division should have its core-competency to strengthen the comparative advantage and its self-sustainability of LJC. The followings are examples proposed by the mission to be further discussed by LJC.

- 1) Administration Division can provide high quality and better customer service compared to other public institutes.
- 2) Business Course Division can provide practical know-how and skills based on Japanese style business as well as domestic experience.
- 3) Japanese Language Course Division can provide high quality lectures for basic and intermediate level as well as produce teaching materials thereof.
- 4) Cultural Exchange Activity Division has already acquired its core-competency having the ability of organizing various types of Japan-Lao cultural exchange activities and yet it should strengthen publicity activities to enhance the recognition of LJC among the people in Lao P.D.R.. Moreover, LJC should be able to provide information on study in Japan, and also to assist coordination between Lao educational institutions and Japanese ones such as universities as well as to provide training such as pre-departure training for Lao youth and local language training for JOCVs.

4-2-3 Improvement for each section

In order to further improve the performance of each activity of LJC, the following activities are expected.

(1) Business Courses Section

- 1) ~~For efficient management of Business courses and MBA,~~
 - The business course of the fiscal year 2008 should be conducted based on the proposed curriculum by Lao side. The course, however, should be flexible to modify in accordance with the needs of participants.
 - A counterpart should be identified for Japanese experts from among the responsible staff members of business course division, and for whom those Japanese experts should provide know-how on planning and management of business courses.
 - In order to further improvement of teaching skills of lecturers, monitoring system for the evaluation and improvement of lectures should be strengthened.
 - Every process of MBA program management including selection of candidates, collection of tuition fees, etc. should be transparent and fair to secure high performance.
 - Capacity of MBA Secretariat should be strengthened for smooth operation.
 - MBA Managing Committee (tentatively named) should be formulated including Japanese

Director of LJC as a member with a function of a mechanism for evaluation of the overall performance of both Japanese and Lao lecturers.

- Japanese experts in charge of business course management should be able to give advice and suggestions to the Committee through his/her counterpart.

- 2) LJC should extend on-site consultation program for service industry including sales and logistics within its capacity, aside from manufacture such as garment and furniture industry.
- 3) LJC should use the lessons learnt through the on-site consultation program for the class lectures to be more practical.

(2) Japanese Language Courses Section

- 1) LJC should strengthen its capacity of teaching for the basic and intermediate level in collaboration with Japanese Section of Faculty of Letters, NUOL thereby contributing to enhancement of the level of Japanese education in Lao P.D.R..
- 2) LJC should further strengthen its capacity of training for local lecturers capable to teach for the basic and intermediate levels.
- 3) LJC strengthens its capacity of developing teaching materials for the basic and intermediate levels.

(3) Cultural Exchange Activities Section

- 1) LJC should strengthen its capacity of information service on various aspects of Lao P.D.R. in collaboration with Ministry of Information and Culture and other relevant governmental institutes.
- 2) For further strengthening its capacity of organizing various types of cultural events, more know-how and skills should be transferred to the counterparts.
- 3) For strengthening the sustainability of activities, LJC should collaborate more with Japanese companies in Lao P.D.R. for financial support in cultural events.
- 4) LJC should provide necessary information on study in Japan and also assist coordination between NUOL and Japanese universities.
- 5) LJC should also continue to provide training service for both Lao P.D.R. and Japanese youth such as JOCVs for their local language program as well as the participants under the JENESYS program for their pre-departure training.

(4) All Sections (necessity of co-working system over sections)

For up-grading and expanding LJC's function and activities, more sophisticated co-working mechanism beyond sections should be considered for responding to various needs and requests of potential customers such as Japanese companies who, for example, might need to find persons

with both Japanese language skill and business skill.

4-2-4 Strengthening of Institutional and Financial Structure

For further development and self-sustainability of LJC, the following measure should be taken.

- 1) In order to design the future of LJC, both Japan and Lao side should start a discussion about the future direction of LJC in practical and realistic manner, based on substantial achievement of the project up to present. In so doing, LJC should formulate a mechanism such as a sub-committee of JCC focusing on this issue to be held periodically and expectedly be finalized by the end of March 2009.
- 2) In order to further strengthen its financial sustainability, LJC should make more efforts to upgrade its cost-performance and at the same time should collect more income through tuition fees and other measures maintaining the quality of its activities.

For accurate and elaborate financial analysis, both the Japanese and Lao sides should prepare to set out a common standard to collect necessary data on expenditures and income of LJC as a whole.

Consideration of other financial resources should be started for more stable financial sustainability in the future.

End of report.

Evaluation Grid	Points of evaluation		Points of verification	Result of findings
	Main item	Sub item		
Achievement of Inputs	Timely Inputs as planned	<ul style="list-style-type: none"> Timing was as scheduled? Quantity was as scheduled? 	<ul style="list-style-type: none"> Gap between the plan and the result of Inputs Constraints to the Projects' activities by the gap 	Inputs has been basically increased from two at the beginning time of the phase to fifteen as of mid-term evaluation. This shows Laotian strong ownership and commitment. In spite of the effort for recruitment, some post as counterparts to JICA experts have been vacant for some period. No negative impacts hampering progress of the project have not been found.
Achievement of Outputs	Probability of achievement concerning the Outputs of the project	<p>The general management of the Center is improved.</p> <p>a No. of staff training based on the long-term human resource development plan</p> <p>b % of staff achieved its targets</p>	<p>a No. of staff training based on the long-term human resource development plan</p> <p>b % of staff achieved its targets</p>	LJC established the plan for human resource development in JPY 2007 and 2008 for almost all staff members. Lao staff of LJC is composed with 1 Director, 2 Dep. Directors, 4 Heads of Division, 4 Dep. Heads of Division, 10 Heads of Unit, 29 members. This shows capacity development for each personnel as scheduled. The survey team reached to several opinions requesting to strengthen administration with capacity development on individual level. The team also observed that some of counterparts and staff needs further capacity development on communication skill. LJC already provides opportunities several trainings for languages. Increase of civil servants' number is under consideration to strengthen LJC. 15 out of 50 counterparts and staff in LJC work as civil servants. Laotian side intends to make all the post over section chief level to civil servant post. Though there are no specific indicators, the team made financial analysis, too. The result is in the "sustainability" part.
			1-1. To conduct baseline survey	Baseline survey has not been done. Procedural process analysis was done in December 2007 for introducing management system by computer. The team understands that the baseline survey might be subsidized to this analysis. According to the recommendation of the analysis, information management infrastructure is developed. Contribution of Laotian side leads to various "KAIZEN" for strengthening LJC such as organizational reform.
			1-2. To redesign and implement general management system	LJC made a maintenance contract for the network and IT infrastructure with an IT company according to the recommendation by the procedural process analysis (May 2008). The contract includes dispatch of a system engineer to LJC and on-site training to LJC staff. LJC hired additional technical staff for strengthening administration section. Rationalization of management and administration procedure is expected through them. The administration section has not been able to compile skill and know-how as organization because staff changes more frequently. Job descriptions are revised and more clarified and procedural manuals (hand books) are expected to develop.
			1-3. To implement staff training	According to the human resource development plan, various training has been provided such as JICA training in Japan, Japanese language training by JF, Japanese language training in Thailand, training for librarians, English training in LJC or in other institutions. Many observations showing concrete progress through trainings were found. Technical transfer is expected on IT and facility maintenance through on-site training done by contractors. English training for staff has been revised. The contents, scheme, target, duration were improved (December 2007). These trainings consist of three level: one for introductory level for business English, middle level mainly for exchange program, writing class for section chief or upper. Higher incentive system of payment for language skill (Japanese and English) is introduced within limit of LJC revenue. At the same time, payment for titles in spite of payment for over time work is introduced for counterparts and staff upper than section chief level. They are expected to spend their time efficiently to self development.
			1-4. To monitor and evaluate the general management system	Weekly meeting is held by both sides separately to confirm activities progress and sharing problems. Regular joint meeting is held once a month, and LJC top management meeting, too. Lao staff meeting is also held once a month. Result of activities is reported in JCC held twice a year. JCC consists of the vice president of NUOL, Director General, Planning and International Cooperation of the Ministry of Education, secretary from the Embassy of Japan, Resident Representative of JICA Laos office. Through these multi layer system, decision making mechanism is efficiently formulated.
	Practical business courses and business services intended for the business people in Laos are provided.		a No. of type of business area activities b Collaborative services with organizations such as Ministries and Chamber of Commerce delivered	Number and types of activities in Business section are listed in Annex. LJC has provided comparatively enough training including rational recruitment of lectures from FEBM. Special courses and seminars such as computer courses, HR management, access to international market for government officials has been provided.
			2-1. To make an annual implementation plan	Since October 2005, five semi-annual plans or three annual plans were drawn. Each plan consists of activity schedules for computer courses (including the free computer courses for civil servants), regular business courses (four-month programs), short-term business courses including technical college teacher training course, business diagnosis and on-site consultation and practical skill course, and pre-departure training for JDS fellows.

Evaluation Grid	Points of evaluation		Points of verification	Result of findings
	Main item	Sub item		
			2-2. To implement business area ac	Generally, most activities were implemented according to the plan, except the followings: In the second half-yearly plan, the technical college teacher training course was planned but it could not be realized due to the fact that many colleges could not afford to bear the costs of travel and daily living of their teachers. In the third and fourth half-yearly plans, the regular business course could not be conducted on schedule due to an insufficient number of trainees. One top management training originally scheduled in November 2007 was postponed to January 2008 because the company which LJC intended to bring the participants to visit could not accept our schedule.
			2-3. To collaborate with other orga	Worked with Lao National Chamber of Commerce and Industry in providing business diagnosis and on-site consultation services to private and state-owned companies as well as organizing production management and practical skill courses to the staff of private and state-owned companies. This program was initiated in September 2005 (all the courses and consultation activities were done by Japanese experts). Business course of LJC has also worked with Savannakhet Chamber of Commerce and Industry in conducting intensive business training courses in Savannakhet.
			2-4. To strengthen the coordinated	Business course has been working closely with FEBM in conducting regular business courses and intensive courses in Savannakhet. The two have recently been working together to develop a joint MBA program. Since early 2007, business course has been working with Department of English and Department of Lao Language and Mass Media in conducting the pre-departure training for JDS fellows and Lao language training for JOCVs. Business course has also been cooperating with Faculty of Sciences (Computer Department) in conducting the computer courses.
			2-5. To monitor and evaluate achie	Business course always conducts evaluation activities for each of its training courses by asking the participants to fill in an evaluation sheet. The result was then summarized and sent to the corresponding lecturer so that he/she can improve their teaching technique and materials. The comments of the participants have also been used in improving and adjusting the training programs of business course to meet the need of society. Based on the evaluation results and communication with companies, business course could transform the advanced business course to an MBA program in cooperation with FEBM. It can also revise the fundamental courses into worker training, fundamental business knowledge and theme-oriented training courses.
	The resources of Japanese language education in Laos are activated through teacher's training, course programs and network among Japanese language teachers.		a Type and no. of activities in Japanese language b Level of Japanese proficiency of learners c Available level for Lao teachers to teach d Network with other organizations established e No. of meeting and activities together with other organizations	Type and number of activities in Japanese language section are listed in Annex. LJC provides broad curriculum for beginners (B1-B6), introduction to mid level (In-a to In-c), introductory class for Japanese language teachers, special courses such as order course for a specific company. As a benchmark of study level, the first half of beginner classes are targeted to 4th level, latter half 3rd level of Japanese Language Proficiency test. Among ten members in Japanese division, there is four Lao lecturers (currently one is in Japan for study). One can teach to B6, another to B1. The team observed that the progress of educating Laotian lecturers was caused by the general level of Japanese language education. Japanese lecturers in LJC and NUOL mentioned three to five more years would take for Laotian lecturers with 2nd grade and necessary teaching experience to start teaching In-a or upper class LJC has formulated networks to other institutions teaching Japanese language. LJC hosts Japanese language network. Relation to Japanese language section in Faculty of letters, NUOL is very close partly because of their vicinity. Japanese language section use LJC rooms to have their classes. One student graduating Japanese
			3-1. To establish overall strategy	LJC is not in the position to establish overall strategy and make an annual implementation plan for Japanese education in NUOL. So this activity has not been implemented. According to the discussion at the beginning stage, LJC took the role to provide as many opportunities of studying Japanese language broadly to Laotian society, and Japanese language section in Faculty of letters took to educate specialists of Japan and Japanese language. Annual implementation plan for LJC's activities is made regularly.
			3-2. To implement Japanese courses	Curriculum for beginners was revised in September, 2006. Study hours and semester system were also revised to more organized curriculum and system to confirm accurate progress of each participant. Middle and advanced courses have not been developed because Japanese language education started quite recently. With collaboration to the exchange programs, Japanese cooking class by Japanese language was held in 2006. Japanese cooking book in Japanese language was also developed. Other special courses such as Lao staff training for Japanese companies.
			3-3. To implement teacher training	LJC started introductory class for Japanese language teachers in January, 2006. (**check number of teachers**) Trainings with lecturers outside of LJC were held once each in 2006 and 2007. 4 lecturers participated trainings in Bangkok Japan Cultural Center of JF. Other training opportunities to neighboring countries were provided 4 times.

Evaluation Grid	Points of evaluation		Result of findings
	Main item	Sub item	
		3-4. To form a human network of private Japanese language schools and the Japanese education personnel in ASEAN region.	LJC organizes Japanese education network for persons in charge of Japanese language education in Vientiane. Meetings are held every 2-3 months. Daily exchange of information is through e-mail. Participants expand to Thailand. The first Japanese speech contest was implemented in 2007 with collaboration to the Embassy of Japan and other Japanese education institutions. The contests are planned to implement twice a year. Human network with neighboring countries is developing by inviting speech contest or special lecturers to meetings, and attending seminars in other countries.
		3-5. To promote mutual cooperation with the Japanese education personnel in Laos through the teacher seminars and the development of teaching materials in LJC.	LJC implements Japanese teachers meeting. Japanese teachers from Thailand as well as Vientiane participate to the meeting. Developed materials such as "Mimamo Nihongo", "Hajimemasho! Nihongo" are utilized to private Japanese schools. LJC established a committee in 2006 for implementing Japanese Language Proficiency Test under agreement of related authorities. The examination started from December 2007, and plans to continue every year.
		3-6. To provide learning environment for Japanese course participants by installing the self-study classroom and studying	LJC opened self study room for participants of Japanese language courses in September, 2005. AV machine, books, CDs and DVDs are equipped. During open hours, one teacher work the room for responding to users. Material for beginners "Hajimemasho! Nihongo" was developed mainly for self study.
		3-7. To monitor and evaluate achievements of activities regularly	Evaluation survey through questionnaire to participants is implemented and shared among teachers. The result is utilized revising curriculum and textbooks.
	The system for providing mutual understanding programs and information is established.	a No. and type of services provided to promote mutual understanding b Score on rating-scale assessing the level of mutual understanding c No. of access to the LJC homepage	In 2007 the following services were provided: Japanese Movie Show 9 times (113 visitors), Seminar on Lao 9 times (646 visitors), Lao Dance class 12 times (327 visitors), Fruit Carving class 16 times (250 visitors), Origami class 10 times (225 visitors), Tea ceremony class 5 times (110 visitors), Cooking class 3 times (54 visitors), others (8184 visitors) and total 9,926 visitors.
		4-1. To implement needs survey for	Needs survey were implemented in Vientiane in March and June of 2006, Luan Prabang in July, 2007. The former survey was conducted through questionnaire to both Lao and Japanese to find needs to make strategy. The later survey was conducted by visit to make network and to find some possibility in future. A survey in Japan by mail is planned in 2008.
		4-2. To collect and provide information	Laotian information is collected in cooperation with Ministry of Information and Culture. Many Japanese including academic researchers inquire on Laos to LJC almost every month. Provision on Japan to Laos is done through the LJC library including multi media software as well as various events mentioned above. The LJC library has 11,082 books and the number of users is 31,793 in 2007. The newest information is provided for both sides through quarterly LJC newsletter and web site (revised every two weekly). Public announce and release to TV, radio, newspapers are quite actively done and some article or news come up in one of these media almost every week.
		4-3. To provide opportunities by ut	Over 100 events are implemented at LJC annually. LJC starts to have lectures to students in Japanese language section of NUOL on Japanese culture. (**check available data of outer users **) Activities collaborating Japanese higher education institutions have been done actively such as; coordination of agreements between NUOL and Gakusyuin Women's College, receiving study tours from Sensyu Univ., Meiji Gakuin Univ., Maru Women's Univ. in 2008, a festival introducing to study in Japan will be held in June, receiving intern students from August is planned. Other exchange activities with Japanese high schools have been held.
		4-4. To strengthen coordination with	Exchange activities collaborated with business courses are seminar on introduction of Japan to JDS scholarship students and arrangement of visit to Lao and Japanese companies in Lao for the study tour participants. Exchange activities collaborated with Japanese language courses are Japanese cooking through Japanese language and joint activities with Japanese language festival.
		4-5. To monitor and evaluate achievement	Weekly meeting by both side is held. Overall progress and planning are discussed on planning meeting twice a year.

Evaluation Grid	Points of evaluation		Points of verification	Result of findings
	Main item	Sub item		
Achievement of Project Purpose	Probability of achievement concerning the Project purpose	The Center provides services to enhance human resource development for the market-oriented economic reform of Lao P. D. R.	a Participants and users of business courses	Detailed breakdown of participants to business courses are listed in Annex. LJC had 251 participants for business courses, 355 for computer courses in 2007.
		Common indicator to project purpose 1 and 2	j LJC visitors	The accumulated number of visitors to LJC since Phase 1 is about 260,000. The annual number of visitors to LJC is 43,618 in 2006, and 44,622 in 2007.
Achievement of Overall Goal	Probability of achievement concerning the Overall goal	The information and the opportunities to participate in activities for mutual understanding are provided for people of both countries by the Center.	f No. of users for LJC facilities k Number of issued membership	Number of LJC users in each section is as follows: media room 29,076 in 2005, 26,592 in 2006, 20,191 in 2007, self-study room 20,884 in 2005, 12,170 in 2006, 11,602 in 2007. Total number of participants of exchange activities is 9929 in 2007. Number of issued membership was 1,065 in 2005, 977 in 2006, 808 in 2007.
		The Center will perform the core function of human resource development in the field of business area for market-oriented economic reform of Lao P. D. R.	b No. of member companies of Chamber of Commerce	Number of the Members of Chamber of Commerce has increased to 1049 in 2008 from 727 in 2004
		The Center will be utilized as the key place for mutual understanding between the people in Lao P. D. R. and Japan.	c No. of students learning in Japan d No. of Japanese visitors to Laos	Number of Laotian students sent to Japan with official scholarship is about 60. This number has not changed substantially, though it fluctuates a little year by year.

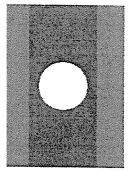
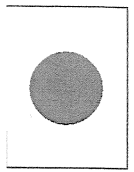
Criteria	Main Question	Sub Question	Points of Evaluation	Result of Evaluation	
Relevance	Conformity of the Project goal to the National Development Plan of Laos	Is the overall goal conformity with the development policy and/or development needs of Laos ?	<ul style="list-style-type: none"> Conformity and alignment between overall goal and Lao government Was the Project purpose understood by stakeholders? 	<ul style="list-style-type: none"> As no big change has made on the direction Lao PDR since ex-ante evaluation, there is no problems in comality and consistency. The project members are working toward not only the project purposes but also overall goals. 	
		Is the Project conformity with needs of target groups ? Are needs of target groups enough high ?	<ul style="list-style-type: none"> Relevance of project selection and cooperation approach Focusing of target groups Alignment between target groups and their needs 		<ul style="list-style-type: none"> Lao side has a strong ownership and it is considered Relevance of project selection and cooperation approach is high. It is clear that target groups are CP, local hired staff and users of LJC. Alignment between target groups and their needs are kept through needs survey and monitoring activities.
	Conformity to ODA policy of Japan	Is selection of implementation organization appropriate ?	Relation between NUOL's position in Laos and the concept of the Projects Do the project meet the NUOL's needs ?	<ul style="list-style-type: none"> Relation between NUOL's position in Laos and the concept of the Projects Do the project meet the NUOL's needs ? 	<ul style="list-style-type: none"> LJC is positioned as a center for human development by NUOL, and this is consistent with the concept of LJC. Management of NUOL agreed that the Project is align with the NUOL's needs.
		Are the contents of the Project conformity with Japanese and/or JICA's priority assistance subjects ?	Aid policy at the beginning of the Phase and up-dated one Alignment to Japanese and JICA's priority assistance subjects	<ul style="list-style-type: none"> Aid policy at the beginning of the Phase and up-dated one is not changed and there is no problems in Relevance There is no problems in Relevance, since alignment to Japanese and JICA's priority assistance subjects has been kept. 	<ul style="list-style-type: none"> Aid policy at the beginning of the Phase and up-dated one is not changed and there is no problems in Relevance There is no problems in Relevance, since alignment to Japanese and JICA's priority assistance subjects has been kept.
	Other information related to Relevance	Is the Project conformity with the perspective of all Japan center projects ? Is the Project enough relevant to development stage of Laos ?	Fact finding and confirmation of appropriateness	<ul style="list-style-type: none"> Lao side commits and keeps ownership and works toward the self-sustainable and the Project is consistent with JICA policy on Japan centers. As Lao just started moving towards market oriented economy and many Japanese companies are deploying to Lao, appropriateness is confirmed. 	<ul style="list-style-type: none"> Lao side commits and keeps ownership and works toward the self-sustainable and the Project is consistent with JICA policy on Japan centers. As Lao just started moving towards market oriented economy and many Japanese companies are deploying to Lao, appropriateness is confirmed.
Effectiveness	Appropriateness of project outputs to achieve the Project Purpose.	Could beneficiaries/target groups receive appropriate service through implementing the Project ?	<ul style="list-style-type: none"> Confirmation of achievement and logicity (to be verified by each activity and management system) Management system > Effectiveness of operation and management system Business courses > Evaluation from Laotian business society / Evaluation by participants / Appropriateness of materials Enhancement of Japanese education > Japanese language courses > Cultural exchange activities > Effectiveness of events and activities / evaluation of citizen 	<p>Fifteen C/Ps are assigned as managers under the supervision of the Lao director and firm operation and management system is settled. In the business division, new course are under consideration to cope with the change of needs. As for the Japanese division, it already start working as the key place of Japanese education in Lao such as publishing a textbook, which most of other Japanese educational organization. Culture exchange division is already utilized as the key place for mutual understanding between the people in Lao and Japan by serving various events and activities along with PR and library functions. As such, outputs are being achieved and they are connected with the project purposes and overall goals. Therefore, high effectiveness of operation and management system are confirmed</p>	
		What kind of factors exist to promote and/or hamper to achieve purpose of the Project ?	<ul style="list-style-type: none"> Ownership and management capacity of NUOL as a counterpart of the Project is high. This is an positive factor to promote the purposes by planned training capacity building and technology transfer. The project receives the support from the Embassy of Japan, universities and private companies from Japan side and Ministry of Education, Ministry of Information and Culture and other stakeholders in Lao. This another promoting factor. 	<ul style="list-style-type: none"> Ownership and management capacity of NUOL as a counterpart of the Project is high. This is an positive factor to promote the purposes by planned training capacity building and technology transfer. The project receives the support from the Embassy of Japan, universities and private companies from Japan side and Ministry of Education, Ministry of Information and Culture and other stakeholders in Lao. This another promoting factor. 	


	<p>Change and influence of outer condition</p>	<p>Understanding of stakeholders / legal matters</p> <ul style="list-style-type: none"> • Percentage and reason to quit LJC • Condition of buildings and facility • Annual budget report / Cost share by Laotian side 	<ul style="list-style-type: none"> • The projects are well understood by stakeholders. It is positioned as the center of NUOL and has no legal matters. These are not hampering factors at all. • Percentage to quit LJC is relatively low, as the internal promotion system is settled. However, there were some staffs who left the LJC to get better wages or higher possibility of promotion. This may become a hampering factor. • The building was built and donated by the Japanese Government and most equipment were provided at phase 1. There is no problems in basic. However, the issue of training rooms shortage is emerging as the activities are expanded. This can be another hampering factor to produce outputs. • Annual budget report is submitted regularly and fairly. Cost share by Laotian side and the project is increasing and it goes up to reach to 50%. Therefore, financial aspects will not be a hampering factor.
	<p>Did changes of outer condition occur? Were countermeasures to the changes appropriate if there occurred?</p>	<p>Progress of market economy / change of FEBM's activities and establishment of MBA</p>	<ul style="list-style-type: none"> • There seems no change of policy on market economy. • In the business division, new course and joint MBA programme are under consideration to cope with the change of students needs. • The number of Japanese company to deploy in Lao is increasing recently, and this brings a positive change for the Project such as making special Japanese course. However, other countries such as China, Vietnam and Thai are getting more visible with its aggressive promotion such as making MBA, will decrease the presence of Japan. Therefore, it is preferred to strength LJC and its PR activities.
<p>E f f i c i e n c y</p>	<p>Appropriateness of each input / Achievement of outputs compared to inputs</p> <p>< Business courses ></p>	<p>Quantity and quality (Evaluation of total cost, unit cost, cost share)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Timing of each inputs • Ratio of LJC's revenue and expense (in comparison to revenue from courses) <p>Quality of inputs (proficiency, communication skill, capacity to technical transfer, capacity of plan and operation, alignment to needs), effectiveness of consultant team system</p> <ul style="list-style-type: none"> • Timing of dispatch • Quantity (number, duration) • Outputs and effectiveness to participate C/P training (proficiency, selection process, timing, duration) • Allocation and capacity development for C/Ps and staff (training, OJT) 	<ul style="list-style-type: none"> • The total expenditure of LJC from 2005 to 2007 is 270,000, 295,000, 332,000 in US dollar respectively. Ratio of JICA cost share and expense is 59.6%, 58.0%, 49.1% respectively and it is decreasing every year. This implies the efficiency is getting higher. • Though some vacant positions were not filled for a certain period, that was not a major obstacle to achieve the output through data analysis and interview. • The revenue of LJC counts 35% of its expenditure. This increase the efficiency of the inputs. • 14 short term experts were dispatched through general enterprise contract in the business division. It is judged there is no problems in quality of inputs such as proficiency, communication skill, capacity to technical transfer, capacity of plan and operation, alignment to needs, timing of dispatch and quantity such as number and duration. Effectiveness of consultant team system. From Lao side many lecturers were dispatched from NUOL. This is a good evidence of the strong commitment of NUOL and high effectiveness. From the interview to ex-students, there are some lecturers who are expected to improve their knowledge in the field and quality of teaching method. • 15 C/Ps were sent to the training in Japan to study subjects on mechanism on market economy and Japanese style management. This contributes to capacity development for C/Ps in various area and gives chances to transfer the practical technology, which is required for lecturers in Lao side in general along with site visit and corporate diagnosis. This also shows high efficiency.

	<p><Japanese language courses></p>	<ul style="list-style-type: none"> •Quality of inputs (proficiency, communication skill, capacity to technical transfer, capacity of plan and operation, alignment to needs), effectiveness of consultant team system •Timing of dispatch •Quantity (number, duration) •Recruitment and capacity development of Laotian and Japanese lecturers •Allocation and capacity development for C/Ps and staff (training, OJT) 	<ul style="list-style-type: none"> •Long term experts has been dispatched from JF in Japanese division and there is no problems in quality, quantity and timing. It is necessary to continue to dispatch experts from Japan and train the C/Ps and staffs from Lao, as they are still not strong enough in Japanese and teaching experience of Japanese. •In addition to two experts from JF, two Japanese lecturers are hired locally to cope with the shortage of qualified Laotian lecturers. •It takes time to train local staff to be a qualified lecturer and it is necessary to continue dispatching experts.
	<p><Cultural exchange activities (mutual understanding activities)></p>	<ul style="list-style-type: none"> •Quality of inputs (proficiency, communication skill, capacity to technical transfer, capacity of plan and operation, alignment to needs), effectiveness of consultant team system •Coverage of activities (division of role between Japanese experts and counterpart/staff) •Quantity (number of activities and participants) •Contents of provided information 	<ul style="list-style-type: none"> •In the Exchange division, a long term expert has been dispatched. It is judged from the reports and interviews that proficiency, communication skill, capacity to technical transfer, capacity of plan and operation, alignment to needs is high. It is recognized that C/Ps and local staffs are gaining the knowledge to perform their job and effectiveness is high. •There are three major kinds of activities in Exchange division, culture exchange, PR and library and the manager to supervise these three units is the C/P to the expert and this increase the efficiency of the input. •More than 100 activities are performed and almost 10,000 people attended them. This is considered as the evidence of high efficiency.
<p>Efficiency of management for the Project</p>	<p>•Were inputs appropriately managed and operated to achieve purpose of the Project?</p>	<ul style="list-style-type: none"> •Project planning •Frequency of internal meeting in LJC •JCC and discussed subjects •Team management and its system 	<ul style="list-style-type: none"> •Weekly meeting is held by both sides separately to confirm activities progress and sharing problems. Regular joint meeting is held once a month, and LJC top management meeting, too. Lao staff meeting is also held once a month. Result of activities is reported in JCC held twice a year. JCC consists of the vice president of NUOL, the Director General Planning and International Cooperation of the Ministry of Education, secretary from the Embassy of Japan, Resident Representative of JICA Laos office. Through these multi layer system, decision making mechanism is efficiently formulated, and it is judged the efficiency of operation and management is high.
<p>Impact by implementing the Project / other indirect impact</p>	<p><Business courses> Direct and indirect impact to economies: Does enhancement of participants' knowledge and capacity contribute to improve performance of companies?</p>	<ul style="list-style-type: none"> •How participants were changed their business after taking courses? •Influence to other organizations including FEBM 	<ul style="list-style-type: none"> •8 out of 9 ex-participants answered "yes" to the question whether they got promoted after taking business course training at LJC and 1 stated that she started up a new company supported by what she learnt. This is considered a positive impact. •One of the two companies who had company management diagnosis and interviewed at this evaluation shows clear effect of 5s. •Two lectures from FEBM described that they start to prepare their lecture in a different way to teach more experienced students at LJC. This shows another positive impacts to improve the quality of education.


	<p><Japanese language courses> Direct and indirect impact to society: Did participation to courses lead to enhance understanding and interest to Japan ?</p>	<ul style="list-style-type: none"> • How participants were changed their study and/or business after taking courses • Change of enthusiasm for studying Japanese language • Influence to other organizations including Japanese language section in NUOL 	<ul style="list-style-type: none"> • There are many LJC Japanese graduates who start to work at Japanese companies in Lao. • The LJC Japanese, which started in 2001 considered as the pioneer of Japanese education in Lao and there are 11 Japanese teaching organizations now. • LJC implements Japanese teachers meeting. Japanese teachers from Thailand as well as Vientiane participate to the meeting. Developed materials such as "Mimano Nihongo", "Hajimemasho! Nihongo" are utilized at almost all private Japanese schools in Lao. • LJC established a committee in 2006 for implementing Japanese Language Proficiency Test under agreement of related authorities. The examination started from December 2007, and plans to continue every year. • From these points of view, the impact to Japanese language market is high.
	<p><Cultural exchange programs> Direct and indirect impact to society: Did participation to courses lead to enhance understanding and interest to Japan ?</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Information providing from LJC (enhancing presence of "Japan" in Laos) • Did exchange programs give impact to Japanese participants, too ? • Is the number of students studying in Japan increasing ? • Are there any concrete impact by strengthening relation between NUOL and Japanese universities ? 	<ul style="list-style-type: none"> • Many Japanese including academic researchers inquire on Laos to LJC. Provision on Japan to Laos is done through library including multi media software as well as various events mentioned above. The newest information is provided for both sides through quarterly LJC newsletter and web site. Public announce and release to TV, radio, newspapers are quite actively done. There has been 66 newspaper articles, 39 radio news 7 TV program since January of 2006. These are considered as the evidence of increment of interest on Japan. • Laotian information is collected in cooperation with Ministry of information and culture. • Other kinds activities such as study tours by university Exchange programs and internet meeting for high school students also contributes to expand the mutual understanding in wider scope.
	<p>• Are there any unexpected positive/negative impact ?</p>	<p>• Are there any unexpected positive/negative impact ?</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Number of Japanese companies which deployed in Laos is increasing recently. This is expected to show unexpected positive impact by increasing needs of Business courses and Japanese courses. • Lao information is collected in cooperation with the Ministry of Information and Culture. They also use LJC as resource of Japanese information. This is a good example of unexpected positive impact.
<p>Possibility to achieve the overall goal</p>	<p>• Is it probable to achieve overall goal of the Project in 3-7 years after completion of the Project ?</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Does LJC take a role of the "Center" for human resource development contributing to market economy in the field of business activities ? • Is LJC utilized as the center promoting mutual understanding between Japan and Laos ? 	<ul style="list-style-type: none"> • To be able to take a role of the "Center" for human resource development contributing to market economy in the field of business activities, it is necessary to cope with the change of demand from the market. The business division are working to implement new business course and joint MBA program with FEBM. These effort and experience will drive the possibility to achieve the overall goal high. • LJC is already utilized as the center promoting mutual understanding between Japan and Laos, by both quality and quantity in exchange division. In Japanese division, LJC developed teaching materials such as "Mimano Nihongo", "Hajimemasho! Nihongo" and these are utilized at almost all private Japanese schools in Lao. Along with being the pioneer of the Japanese language training school, LJC is already utilized as the center in this field too. In this sense, LJC reaches to level of this over goal, it is necessary to increase the capacity and make the position more steady. • Number of Japanese companies which deployed in Lao is increasing recently. This the contributing factor for LJC to achieve overall goals.

<p>S u s t a i n a b i i t y</p>		<p>(1) Management system and organization</p>		
		<p>Sustainability of activities</p>	<p>• What kind of conditions are required to keep sustainability of LJC's activities ?</p>	<p>• Organizational structure (management and human resource development, courses management, function and position of JCC, budget and account system, personnel matters in LJC, legal status) • Future activity plan (providing new courses, courses in rural area, convert to financially sustainable system) • Ownership of Laotian side</p>
<p>Future strategy of Japanese side</p>		<p>• Which direction Japan center project is going to be taken ?</p>	<p>• Perspectives after completion of the Project (end of August, 2010) (vision, activities, management plan, re-defining cost sharing, monitoring and evaluation, indicators for evaluation)</p>	<p>The Project will end at the end of August, 2010. It is necessary to develop perspectives after completion of the Project such as vision, activities, management plan, re-defining cost sharing, monitoring and evaluation, indicators for evaluation with cooperation of both side.</p>
<p>(2) Technical transfer (human resource development)</p>				
<p>Measures to strengthen result of transferred technology and know-how</p>		<p>• How techniques and know-how are to counterparts, staffs, and lectures ? • How have training programs been developed ? • Are there other incentives such as scholarship studying Japan ?</p>	<p>• enhancing knowledge of C/Ps and staff • Follow-up after training</p>	<p>• Based on individual capacity analysis, plan for training is made every year. The efforts to enhance knowledge of CPs and staff through training and OJT are visible. Many staffs and experts admit the capacity of CPs and staff is increasing. • New policy and payment system has been introduced to motivate English and Japanese study. It is necessary to observe the result of the new policy and payment system.</p>
<p>(3) Financial matters</p>				
<p>Financial situation of LJC</p>		<p>• How is financial condition of LJC ?</p>	<p>• LJC's financial situation (Transparency of management) • NUOL's opinion and possibility to secure budget • Securing financial resources from various resources</p>	<p>• LJC's financial situation is good in general. The project produce a good financial report with transparency of management. As the revenue of LJC is increasing and NUOL committed its cost sharing, it is judged the sustainability is good in the finance aspect. • It is preferred to use unique format on finance and accounting work to achieve clear financial analysis. • It is expected that MBA program will bring better PL and make the LJC financial base stronger.</p>

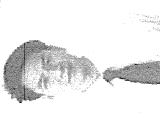




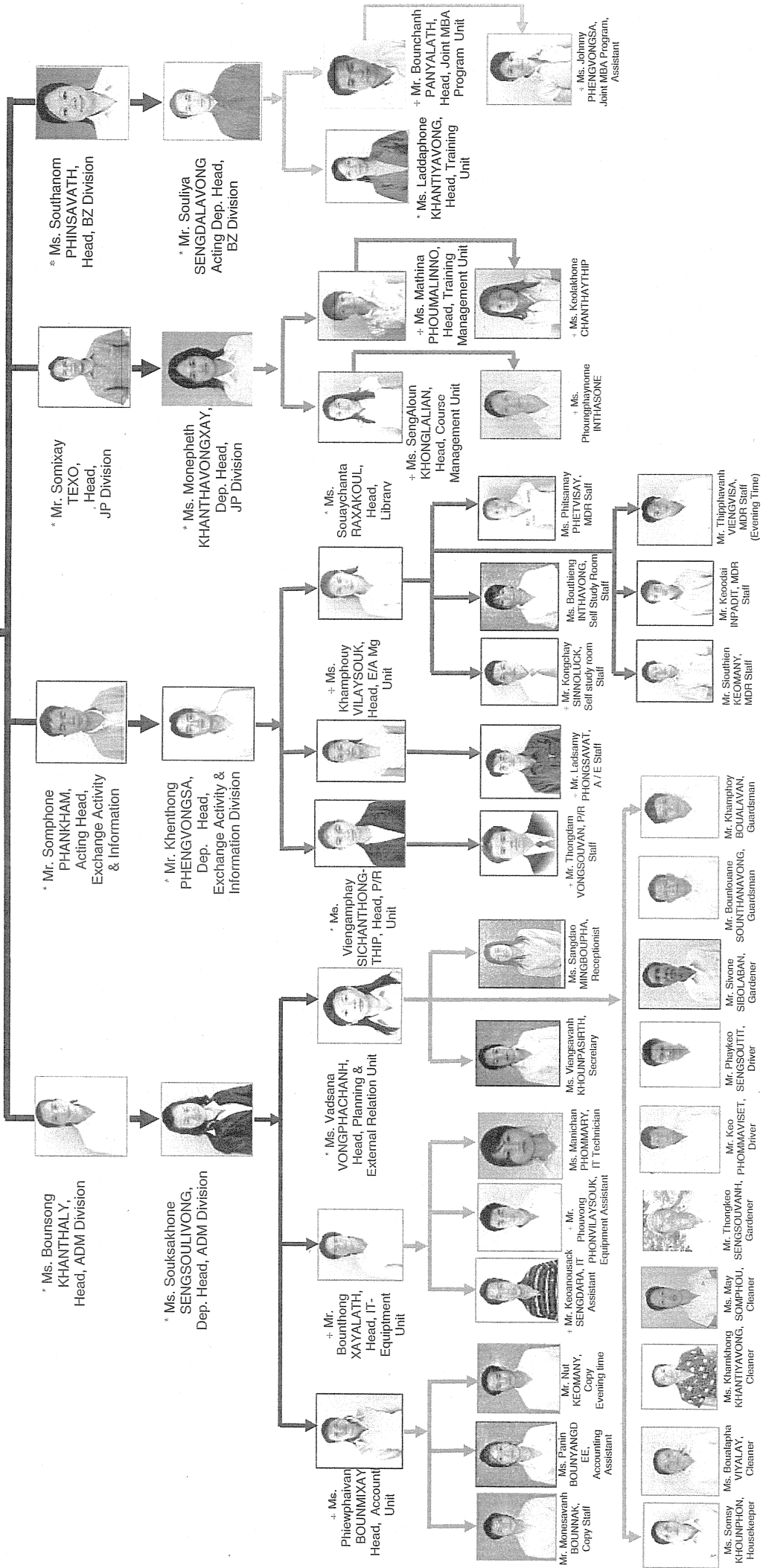
*** Ms. Somchay PHETLAMPANH,**
Dep. Director



*** Dr. Manisothe KEODARA,**
Lao Director



*** Dr. Bounlouane DOUANGNGEUNE,**
Dep. Director



Organization Chart of Lao-Japan Center (As of May 22, 2008)

1. List of Dispatched Japanese Experts

(1) Long Term Expert

	Name	Title	Term (Y/M/D)
1	鈴木 信一 Mr. Shinichi SUZUKI	Chief Advisor	2002/9/7~2007/3/17
2	佐藤 幹治 Mr. Mikiharu SATO	Chief Advisor	2007/4/18~2009/4/17
3	内田 ナナ Ms. Nana UCHIDA	Advisor of Japanese Language Course	2003/9/15~2005/9/14
4	増田 貴美子 Ms. Kimiko MASUDA	Project Coordinator	2004/9/22~2006/10/27
5	平田 好 Ms. Yoshimi HIRATA	Advisor of Japanese Language Course	2005/9/2~2008/9/1
6	花園 千波 Ms. Chinami	Mutual Understanding Activities	2006/1/16~2008/1/15
7	幸喜 仁 Mr. Jin KOKI	Project Coordinator	2006/10/17~2008/10/16

(2) Short Term Expert

	Name	Title	Term (Y/M/D)
1	野本 直記 Mr. Naoki NOMOTO	International Trading and Marketing	2005/08/18~2005/09/04
2	竹山 隼 Mr. Hayato TAKEYAMA	Business Course Management/Production Management/Bsusiness Diagnosis	2006/01/08~2006/03/04
3	関 忠夫 Mr. Tadao SEKI	Operational Management/Bsusiness Diagnosis	2006/09/23~2006/10/22
4	廣畑 伸雄 Mr. Nobuo HIROHATA	Bsusiness Diagnosis/Baseline Survey	2006/09/23~2006/10/07
5	関 忠夫 Mr. Tadao SEKI	Operational Management/Bsusiness Diagnosis	2006/12/10~2007/02/22
6	喜多 忠文 Mr. Tadafumi KITA	On Site Guidance/Production Management	2007/01/07~2007/03/12
7	栄 和教 Mr. Kazuhiro SAKAE	On Site Guidance/Prctiaci Skill	2007/01/12~2007/01/28
8	関 忠夫 Mr. Tadao SEKI	Operational Management/Bsusiness Diagnosis	2007/06/03~2007/07/17
9	栄 和教 Mr. Kazuhiro SAKAE	On Site Guidance/Prctiaci Skill	2007/06/04~2007/06/24
10	中西 哲夫 Mr. Tetsuo NAKANISHI	On Site Guidance/Production Management	2007/07/08~2007/08/26
11	関 忠夫 Mr. Tadao SEKI	Operational Management/Prctiaci Skill (Top Management Course)	2007/09/16~2007/09/30
12	栄 和教 Mr. Kazuhiro SAKAE	On Site Guidance/Prctiaci Skill	2007/11/04~2007/12/13
13	中西 哲夫 Mr. Tetsuo NAKANISHI	On Site Guidance/Prctiaci Skill	2007/11/04~2007/12/23
14	関 忠夫 Mr. Tadao SEKI	Operational Management/Prctiaci Skill (Top Management Course)	2008/01/10~2008/02/14

2. List of Counterpart Personnel Training in Japan

(1) Business Course

JFY	Name/Organization	Term(Y/M/D)	Objective
2007/2008	Mr. Inthavong Khamphouy Administration Manager, The Pharmaceutical Development Center(Pharmaceutical Factory No3)	2007/9/25~10/16	1.To learn the mechanism of the market economy. 2.To understand the business management and the talent promotion system. 3.To acquire the necessity to lose seven uselessness by the execution of 5S activity.
	Ms. Kittivong Phouthaline Deputy Manager, Pecocoteam Electric Engineering Copany Ltd.		
2006/2007	Ms. Khantiyavong Laddaphone Head of Business course Unit, Business course Division, The National University of Laos, the Lao-Japan Center	2007/2/6~2/27	1. To understand the feature of Japanese Companies 2. To learn didactics and the syllabus of the business course in the similar organization of Japanese center and the organization 3. To understand the realities of the business through the case by the industry-university-government cooperation.
	Mrs. Keodara Manisoth Director General, Lao-Japan Human Resorce Cooperation Center, National University of Laos		
	Mr. Khampeui Phommachanh Deputy Director of Business Management Department, National University of Laos		
2006/2007	Mr. Thongvanh Sirivanh Vice Dean, Faculty of Economics and Business Management National University of Laos	2006/11/19~12/9	To acquire more advanced management technique at business course of Japan center by understanding the realities of Japanese company Management.
	Ms. Phinsavath Southanom Head of Business Course Division, Lao-Japan Human Resorce Cooperation Center, National University of Laos		
	Mr. Southitham Soubanh Deputy Head of Business Course Division, Lao-Japan Human Resorce Cooperation Center, National University of Laos		
2006/2007	Mr. Souliya Sengdalavong Business Course Staff and Computer Training Manager, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2006/10/1~10/14	1. To understand what the market economy is 2. To understand the mechanism of the market economy 3. To learn what kind of effort is made at human-resources development and quality control by the companies under the free competition
	Mr. Khouanetyphong Douarevanh IT Officer, ERP Project Manager Lao Brewery Company Ltd.		
	Ms. Pannaly Khothvong Accountant, That Luang tour Company		
2005/2006	Mr. Boonheng Silakoon Deputy Head of Research and Post Graduate Division, Faculty of Economics and Business Management, National University of Laos	2006/3/9~3/25	1. To understand the mechanism of the market economy in Japan 2. To raise the entrepreneurship which can challenge new business 3. To improve each one of business plans 4. To improve the management capabilities
	Mr. Manysot Lianepaseuth Deputy Head of Business Management Dept., Faculty of Economics and Business Management, National University of Laos		
	Mr. Soubanh Southitham Deputy Head of Business Division, Counterpart, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos		
	Mr. Khanti Sithisack Business Administrator, Lao Group Proprietary Ltd.		
	Ms. Anoulack Pholsena Assisitant Manager, Sekong Handicraft Promotion Enterprise Sekong		

(2) Mutual Understanding Activities/General Management

JFY	Name/Organization	Term(Y/M/D)	Objective
2007/2008	Ms. Sichanthongthip Viengamphay Head, Public Relation Unit, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2007/6/19~7/11	1.To obtain the general knowledge and practical skills on public relations. 2.To understand the PR activity in relevant organizations to JICA and Japan Center. 3.To deepen understanding of Japan and to establish harmonious and partnership relations with Japanese organizations.
2006/2007	Ms. Somchay Phetlamphan Deputy Director, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2007/1/16~2/3	1. To give an opportunity for each participant to reflect on the management system of their center, so that they can have a clear view on their problems to be solved by joining the training in Japan. 2. To share the knowledge on the job and the problems that the staff of other Japan Center face, so that each participant can apply new ideas to perform more efficiently in their respective post.
	Ms. Souksakhone Sengsoulivong Deputy Head, ADM Division, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos		
2006/2007	Ms. Bounsong Khanthaly Head, ADM Division, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2006/10/3~10/18	1. To give an opportunity for each participant to reflect on their own role and performance, so that they can have a clear view on their problems to be solved by joining the training in Japan. 2. To share the knowledge on the job and the problems that the staff of other Japan Center face, so that each participant can apply new ideas to perform more efficiently in their respective post.
	Mr. Khenthong Phengvongsa Deputy Head, Exchange Activity & Information Division, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos		
2005/2006 (Since Sep 2005)	Head, ADM Division, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos Ms.Somphou Nunu VONGSA Student, National University of Laos Ms.Mathina Ooy PHOUMARINO Student, National University of Laos Ms.Bountoum THAMMAVONGSA Head, Exchange Activity & Information Division, The Lao-Japan Human Resource Cooperation Center, National University of Laos	2005/11/7~11/19	To propose future plan for evaluating the effectiveness of Cooperation project between Mutual Understanding Program and Japanese Language Course.

3. List of Equipment provided As of March, 2008

	2005Sep./2006	2006/2007	2007/2008
Major Equipment and Material	Digital Camera, Books for Japanese Language Course, Electric Dictionary and etc.	Books for Japanese Language Course and Mutual Understanding Activities, CD-DVD, PC, Printer and etc.	Books for Japanese Language Course and Mutual Understanding Activities, CD-DVD, PC, Digital Camera, Computer Software Book Detection System and etc.
	Total(A) ¥438,014	Total(A) ¥6,539,889	Total(A) ¥5,978,159

4. LJC Operating Cost

LJC Revenue		JFY (Apr-Mar)									
		2001/2002	2002/2003	2003/2004	2004/2005	2005/2006	2006/2007	2007/2008			
Business Course	Not Clear	19,694	18,214	19,487	21,940	14,086	54,630				
Japanese Language Course	Not Clear	9,886	11,886	14,991	14,250	19,110	18,916				
Computer Course	Not Clear	497	4,627	5,377	5,861	4,596	8,323				
Cultural Exchange Activities	Not Clear	0	32	0	0	449	7,810				
Media Room	Not Clear	3,027	4,737	8,261	7,385	5,140	3,394				
Room Rental Fee	Not Clear	53	501	1,561	1,732	1,811	123				
Telephone Fee	Not Clear	9	7	26	1	3	3				
Others	Not Clear	17	54	3,069	4,822	4,535	7,146				
Interest Earned	Not Clear	1,051	4,571	8,294	4,500	4,085	5,316				
	Total LJC Revenue (A)	\$16,336	\$34,234	\$44,629	\$61,066	\$60,491	\$53,815	\$105,661			
LJC Expenditure											
NUOL Expenditure	NUOL Expenditure (B)	2001/2002	2002/2003	2003/2004	2004/2005	2005/2006	2006/2007	2007/2008			
	Emolument	\$1,675	\$29,630	\$36,213	\$24,027	\$46,834	\$49,262	\$47,757			
	Electricity & Water	1,609	1,848	1,954	3,806	5,668	6,586	8,498			
JICA/Project Expenditure	Ratio of the LJC Expenditure	0.6%	27,782	34,259	20,221	41,166	42,676	39,259			
	JICA/Project Expenditure (C)	\$268,860	\$292,904	\$219,771	\$194,372	\$161,020	\$170,996	\$163,149			
	Ratio of the LJC Expenditure	99.0%	88.7%	85.1%	70.8%	59.6%	58.0%	49.1%			
LJC Expenditure	Honorarium					19,028	20,412	58,985			
	Equipment					900	2,359	1,585			
	Supplier					9,422	8,883	12,894			
	Utilities					3,635	8,188	790			
	Transportation					1,823	7,301	5,455			
	Communication					1,176	1,472	3,035			
	Printing					6,463	5,391	834			
	Rent					0	0	0			
	Employment					18,013	15,546	33,347			
	Meeting					255	3,697	2,589			
	Maintenance of Facility					0	56	125			
	Maintenance of Equipment					1,515	636	1,436			
Others	Not Clear	1,700	1,172	21,911	4	490	409				
	LJC Expenditure (D)	\$920	\$7,749	\$2,155	\$56,046	\$62,234	\$74,431	\$121,484			
	Ratio of the LJC Expenditure	0.3%	2.3%	0.8%	20.4%	23.0%	25.3%	36.5%			
	Total LJC Expenditure (E)	\$271,455	\$330,283	\$258,138	\$274,445	\$270,088	\$294,689	\$332,390			

BUSINESS COURSE DIVISION

Report from September 2005 ~ April 2008

1. Regular Business Course

No. of Course	Subject	Number of Participant	Period	Day/ Time	Remark
1	13 th Regular Business Course part I	55	3 Oct ~ 25 Nov, 2005	Mon ~ Thu 17:30 ~ 20:45 (22.5 hrs/ subject)	Special lectures were organized on some Fridays (by visiting lecturers who have excellent experiences from both governmental and private sectors) (Total: 14 times)
1	13 th Regular Business Course part II	77	28 Nov, 2005 ~ 3 Feb, 2006		
1	14 th Regular Business Course part I	58	27 Feb ~ 21 Apr, 2006		
1	14 th Regular Business Course part II	113	24 Apr ~ 15 Jun, 2006		
1	15 th Regular Business Course part I	36	5 Sep ~ 21 Oct, 2006		
1	15 th Regular Business Course part II	51	30 Oct ~ 19 Dec, 2006		
1	16 th Regular Business Course part I	37	19 Feb ~ 13 Apr, 2007		
1	16 th Regular Business Course part II	39	23 Apr ~ 15 Jun, 2007		
4	Total number	466			

★ Total courses: 4 courses

★ Total number of participant: 466 people

2. Short Course Activities

No. of Course	Subject	Number of Participant	Period	Day / Time	Remark
4	Intensive Course for Technical Colleges	35 32 33 29	Jul - Sep 2003 Jul - Sep 2004 1 Aug -9 sep 2005 31 July - 1 Sep 2006	Mon - Fri 8:30 ~ 16:30	The special intensive training program for the business course teachers of the Technical Colleges during the semester holiday seasons (10 Subjects)
2	Business English	12 15 15	Mar 2006 Dec 2006 Apr 29 to May 5, 2008	Sat - Sun 8:30-12:00 (12 Hrs)	Organized for general people
1	Human Resource & Leadership	45	1 ~ 2 November, 2006	8:30 ~ 16:30	Participants were staff of NUOL
1	Challenges in accessing to international market of Lao entrepreneurs	42	7 November, 2006	8:30 ~ 17:00	Participants were business men & civil servant staffs from concerned state organization
2	Practical Skill Course	10 21	15 ~ 26 January 2007 18 - 25 Jun 2007	Mon, Wed and Fri 17:30 ~ 20:45 (15 hrs)	Providing these courses beside consultation and on-site training Special for garment factory area by expert from Japan
4	Production Control Course	35 36 36 12	18 Jul - 5 August 2005 5 Feb ~ 3 Mar 2007 9 ~ 24 August 2007 6-21 December 2007	Mon, Wed and Fri 17:30 ~ 20:45 (30 hrs)	Providing these courses beside consultation and on-site training for manufacturing companies, Lectured by expert from Japan
1	Quality Control Course	45	27 Nov ~ 5 Dec 2007	Mon - Fri 17:30 ~ 20:45 (18 hrs)	Providing this course beside consultation and on-site training Special for garment factory area by expert from Japan
2	Intensive Business Management Course * Program 1: Production Management, Marketing &	25	27 Aug - 1 Sep 2007	6 days 8:30 - 16:30 (36 hrs)	This course was organized in Savannakhet Province, Participants were local business men, technical collage teachers, civil servant staffs

	Business Communication skills) * * Program 2: International Trade, Accounting, Finance	28	12 – 17 November 2007		from some state organizations
1	Special seminar on “Approach to Productivity, and cost ~Japanese Experience~”	20	4 September 2007	Morning session (3 hrs)	Lectured by Mr. Inoue, expert from Japan Productivity center for Socio-economic development
1	Japanese Style of Production Management	10	19 – 28 Sep 2007		Taught by LJC lecturer
1	Principle of Marketing	16	1 – 10 Oct 2007		Taught by FEMB lecturer
1	General Accounting	13	31 Oct -9 Nov 2007		Taught by FEMB lecturer
2	Lao Language Training for JOCV	5 1	Oct 1 ~ Nov 2, 2007 Nov19 ~ Dec 14, 2007	Day time (80 hrs)	Lecturers from LJC & FOL
1	Special seminar for Top Manager of manufacturing company	7	28 Jan – 1 Feb 2008	Day time & night time (15 Hrs)	Participants almost were top managers from manufacturing companies

★Total courses: 25 courses

★Total number of participant: 578 people

Number of Computer Training Course's participants
September 2005-June 2008(2nd Phase)

ANNEX 5

2005

# For Government Officials: Free of Charge					
Course No	Term	Period	Participants	Organizations	Subject
1	5th 2005	29/08/2005 - 05/10/2005	21	Ministry of Public Health	MS Word & Excel
2	6th 2005	17/10/2005 - 25/11/2005	19		
3	7th 2005	19/12/2005 - 27/01/2006	23		
Total			63		
# For the National University of Laos and Public (Collect Tuition Fee)					
Course No	Term	Period	Participants	Organizations	Subject
1	7th 2005	17/09/2005 - 12/11/2005	20	Mainly NUOL students	MS Word & Excel
2	8th 2005	08/10/2005 - 03/12/2005	21		
3	9th 2005	10/12/2005 - 11/02/2006	24		
Total			65		

2006

# For Government Officials: Free of Charge					
Course No	Term	Period	Participants	Organizations	Subject
1	1st 2006	13/02/2006 - 24/03/2006	20	Ministry of Public Health	MS Word & Excel
2	2nd 2006	27/03/2006 - 12/05/2006	20		
4	3rd 2006	26/06/2006 - 04/08/2006	18		
5	4th 2006	16/10/2006 - 24/11/2006	22	Ministries staff members	MS Word & Excel
Total			80		
# For the National University of Laos and Public (Collect Tuition Fee)					
Course No	Term	Period	Participants	Organizations	Subject
1	1st 2006	25/02/2006 - 29/04/2006	24	Mainly NUOL students	MS Word & Excel
2	2nd 2006	20/05/2006 - 09/07/2006	22		
3	3rd 2006	29/07/2006 - 29/09/2006	24		
4	4th 2006	21/10/2006 - 24/12/2006	22		
Total			92		

2007

# For Government Officials: Free of Charge					
Course No	Term	Period	Participants	Organizations	Subject
Total			0		
# For the National University of Laos and Public (Collect Tuition Fee)					
Course No	Term	Period	Participants	Organizations	Subject
1	1st 2007	19/05/2007 - 14/07/2007	23	Mainly NUOL students	MS Word & Excel
2	2nd 2007	13/06/2007 - 18/07/2007	18		
3	3rd 2007	13/08/2007 - 07/09/2007	19		
4	4th 2007	21/08/2007 - 16/10/2007	16		
5	5th 2007	17/11/2007 - 27/01/2008	18		
Total			94		

2008

# For Government Officials: Free of Charge					
Course No	Term	Period	Participants	Organizations	Subject
Total			0		
# For the National University of Laos and Public (Collect Tuition Fee)					
Course No	Term	Period	Participants	Organizations	Subject
1	1st 2008	17/11/2007 - 27/01/2008	18	Mainly NUOL students	MS W/E
2	2nd 2008	02/02/2008 - 29/03/2008	10		MS W/E
3	3rd 2008	04/02/2008 - 14/03/2008	9		MS W/E
4	4th 2008	26/04/2008 - 21/06/2008	8		MS W/E
5	5th 2008	21/04/2008 - 24/06/2008	13		MS W/E
6	6th 2008	01/12/2007 - 20/01/2008	19		M/T
7	7th 2008	04/12/2007 - 24/01/2008	10		M/T
8	8th 2008	02/02/2008 - 16/03/2008	11		M/T
9	9th 2008	26/04/2008 - 08/06/2008	15		M/T
10	10th 2008	02/02/2008 - 16/03/2008	18		PP/Internet
11	11th 2008	17/05/2008 - 29/06/2008	16		PP/Internet
Total			147		

Grand Total

541

Table of the number of Japanese course students for year 2005-2006

The 1st term from 24/9/2005-22/12/2005

Class Number	B1	B2	B3	B4	B5	B6a	B6b	In2	In4	G	Total
	18	22	22	15	9	15	24	14	8	6	153

The 2nd term from 9/1/2006-31/3/2006

Class Number	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	In3	TT	Total
	21	22	20	18	14	13	19	6	6	139

The 3rd term from 24/4/2006-21/7/2006

Class Number	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InB	TT	Total
	18	18	17	16	15	14	19	6	123

Total of students in 3 terms: 415

The other special classes

Class for Invitation program (High school Essay contest) on 26/6/2006 (3hours)

26/6/2006(3hours)	Total
6	6

youth Invitation Program Class

1st(19/11/2005)(one day)	2nd (1/9/06-2/9/06)(two days)	Total
20	10	30

Class for Software company's officer

(7/3/06-25/8/06)	Total
3	3

Hiragana Class (B0)

1st(17/2/06-25/3/06)	2nd(9/6/06-15/7/06)	3rd(21/8/2006-18/9/2006)	Total
29	20	30	3

Total of students in special courses : 118

Total of students in Year 2005-2006:533

Table of the number of Japanese course students for year 2006-2007

The 1st term from 25/9/2006-9/2/2007

Class Number	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	InC	TT	Total
	24	16	19	14	13	14	10	12	3	125

The 2nd term from 26/2/2007-19/7/2007

Class Number	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	InB	Total
	22	24	22	16	14	11	14	13	136

Total of students in 2 terms : 261

The other special classes

JLPT class (3Q)

3Q	(1/3/07-12/7/07)	Total
Number	16	16

Hiragana Class (B0)

Times	1st(15/12/06-01/2007)	2nd(2/6/07-7/2007)	3rd(13/7/2007-18/8/2007)	Total
Number	25	18	18	61

Japanese Cooking Class (CC)

CC	(19/10/06-10/3/2007)	Total
Number	5	5

Japanese Short term course (24 hours) for JDS

JDS	(17/3/07-16/6/2007)	Total
Number	36	36

Total of students in special courses : 118

Total of students in Year 2006-2007:379

Table of the number of Japanese course students for year 2007-2008

The 1st term from 24/9/2007-8/2/2008

Class Number	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	InC	TT	Total
	20	19	18	12	8	11	5	10	6	109

The 2nd term from 26/2/2007-19/7/2007

Class Number	B1	B2	B3	B4	B5	B6	InA	InB	TT	Total
	20	19	12	9	9	6	9	8	6	98

Total of students in 2 terms : 207

The other special classes

JLPT class (3Q)

3Q	24/10/07-28/11/07	Total
Number	16	16

Hiragana Class (B0)

Times	1st(30/11/07-26/1/2008)	Total
Number	23	23

Class for JENESYS program

B0	10/3/2008(3 hours)	Total
Number	30	30

Class for Midori anzen's officer (SPI/SPB)

	(30/8/07-31/10/2007)	Total
Class	SPI	SPB
Number	1	3
		4

Total of students in special courses : 73

Total of students in Year 2007-2008: 280
--

2005 Activity list (September 2005-December 2005)

	Date	Activity	Organize/ Co-organize	No. Participants
1	9/3	Fruit carving for Lao people	LJC	9
2	9/4	Lao Dance for Lao people	LJC	21
3	9/10	Fruit carving for Lao people	LJC	3
4	9/10	Lao Dance for Lao people	LJC	19
5	9/23	Puppet play by National Theatre	National Theatre, Ministry of Information and Culture	90
6	9/24	Fruit carving for Lao people	LJC	7
7	9/24	Japanese Movie Show	LJC	30
8	9/25	Japanese Cooking Class	LJC	20
9	10/1	Fruit carving for Lao people	LJC	8
10	10/2	Lao Dance for Lao people	LJC	14
11	10/6	Display product by LJC Fruit carving members	Organize by: National University of Laos, Disable Center, School of Arts	200
12	10/15	Puppet play by National Theatre	National Theatre, Ministry of Information and Culture	60
13	10/15	Fruit carving for Lao people	LJC	23
14	10/15	Lao Dance for Lao people	LJC	18
15	10/22	Fruit carving for Lao people	LJC	27
16	10/22	Lao Dance for Lao people	LJC	18
17	10/22	Japanese Movie show	LJC	37
18	10/25	Kimono Fashion Show	Organize by :Embassy of Japan, Japan Foundation, Cooperation:LJC	150
19	10/26	Kimono Lecture, demonstration	Organize by Embassy of Japan, Cooperation:LJC	--
20	10/29	Exchange program with JPN languagecourse students by JICA-NET	LJC	28
21	10/29	Fruit carving for Lao people	LJC	22
22	10/29	Lao Dance for Lao people	LJC	16
23	11/5	Fruit carving for Lao people	LJC	52
24	11/5	Lao Dance for Lao people	LJC	63
25	11/6	Lao Dance for Lao people	LJC	30
26	11/12	Fruit carving for Lao people	LJC	50
27	11/12	Lao Dance for Lao people	LJC	49
28	11/13	Lao Dance for Lao people	LJC	28
29	11/15	Shodo Class	LJC	30
30	11/19	Fruit carving for Lao people	LJC	45
31	11/19	Lao Dance for Lao people	LJC	68
32	11/20	Lao Dance for Lao people	LJC	30
33	11/22	Japan Lao 50th anniversary, Okinawa da	Organize by: Embassy of Japan, Japan Foundation, Cooperaiton:LJC	--
34	11/26	Japanease Movie show	LJC	37
35	11/26	Fruit carving for Lao people	LJC	35
36	11/26	Lao Dance for Lao people	LJC	21
37	11/27	Lao Dance for Lao people	LJC	42
38	12/3	Fruit carving for Lao people	LJC	30
39	12/3	Lao Dance for Lao people	LJC	64
40	12/10	Fruit carving for Lao people	LJC	42
41	12/10	Lao Dance for Lao people	LJC	73
42	12/14	Seminar on Laos - for Japanese people	LJC	16
43	12/17	Seminar on Laos - for Lao people	LJC	80
44	12/17	Fruit carving for Lao people	LJC	21
45	12/17	Lao Dance for Lao people	LJC	32
46	12/18	Fruit carving for Lao people	LJC	60
47	12/24	Japanese Movie Show	LJC	79
			Total	1897

Culture Exchange Activity: List of activities 2006
January 2006- December 2006

ANNEX 7

No.	activity name	activity date	No.participants	To who we organize	Wh e r e
1	Fruit carving class	2006/1/7	19	LJC club member	L J C
2	Lao Dance class	2006/1/7	17	LJC club member	L J C
3	Fruit carving class	2006/1/14	17	LJC club member	L J C
4	Lao Dance class	2006/1/14	20	LJC club member	L J C
5	Yukata wearing class	2006/1/15	8	LJC staff	L J C
6	Kimono wearing class	2006/1/21	4	LJC staff	L J C
7	JPN movie show	2006/1/21	59	Lao, Japanese people	L J C
8	Fruit carving class	2006/1/21	13	LJC club member	L J C
9	Lao Dance class	2006/1/21	18	LJC club member	L J C
10	Kimono wearing class	2006/1/28	4	LJC staff	L J C
11	Fruit carving class	2006/1/28	16	LJC club member	L J C
12	Lao Dance class	2006/1/28	17	LJC club member	L J C
13	Kimono wearing class	2006/2/4	4	LJC staff	L J C
14	Fruit carving class	2006/2/4	17	LJC club member	L J C
15	Girls Festival display	2006/2/22-3/3	250	Lao students	L J C
16	Kimono wearing class	2006/2/11	4	LJC staff	L J C
17	JPN movie show	2006/2/11	111	Lao, Japanese people	L J C
18	Fruit carving class	2006/2/11	15	LJC club member	L J C
19	Lao Dance class	2006/2/11	14	LJC club member	L J C
20	Kimono wearing class	2006/2/18	4	LJC staff	L J C
21	Fruit carving class	2006/2/18	14	LJC club member	L J C
22	Lao Dance class	2006/2/18	6	LJC club member	L J C
23	Kimono wearing class	2006/2/25	4	LJC staff	L J C
24	Fruit carving class	2006/2/25	12	LJC club member	L J C
25	Lao Dance class	2006/2/25	12	LJC club member	L J C
26	Fruit carving class	2006/3/4	19	LJC club member	L J C
27	Lao Dance class	2006/3/4	25	LJC club member	L J C
28	JPN cooking class	2006/3/11	15	LJC staff, JPN course students	L J C
29	Fruit carving class	2006/3/11	15	LJC club member	L J C
30	Lao Dance class	2006/3/11	24	LJC club member	L J C
31	Seminar on Laos	2006/3/15	60	LJC club member	L J C
32	Kimono wearing class	2006/3/17	4	LJC staff	L J C
33	Kimono wearing class	2006/3/18	4	LJC staff	L J C
34	Seminar on Laos	2006/3/18	15	Japanese people	L J C
35	Fruit carving class	2006/3/18	11	LJC club member	L J C
36	Lao Dance class	2006/3/18	20	LJC club member	L J C
37	Cooperate to JPN speech contest	2006/3/19	300	LJC club member	National Culture hall
38	Kimono wearing class	2006/3/21	4	LJC staff	L J C
39	Seminar on Japan	2006/3/22	40	JICE essay contest participants	L J C
40	JPN movie show	2006/3/25	124	Lao, Japanese people	L J C
41	Kimono wearing class	2006/3/25	4	LJC staff	L J C
42	Fruit carving class	2006/3/25	18	LJC club member	L J C
43	Lao Dance class	2006/3/25	17	LJC club member	L J C
44	Cooperate to JICAfe opening ceremony	2006/3/31	50	Lao, Japanese people	JICAfe
45	Fruit carving class	2006/4/1	10	LJC club member	L J C
46	Lao Dance class	2006/4/2	10	LJC club member	L J C
47	Fruit carving class	2006/4/8	10	LJC club member	L J C
48	Lao Dance class	2006/4/9	10	LJC club member	L J C
49	Fruit carving class	2006/4/22	10	LJC club member	L J C
50	Lao Dance class	2006/4/23	10	LJC club member	L J C

51	Fruit carving class	2006/4/29	10	LJC club member	L J C ANNEX 7
52	Childrens day display	2006/4/25-5/5	250	Lao students	L J C
53	JPN movie show	2006/4/29	104	Lao, Japanese people	L J C
54	Lao Dance class	2006/5/1	37	LJC club member	L J C
55	LJC 5th year anniversary	2006/5/5	300	Lao,Japanese people	LJC, ITCT
56	Ikebana demonstration	2006/5/4	150	Lao, Japanese people	L J C
57	5th year anniversary: JPN movie(1)	2006/5/13	50	Lao,Japanese people	L J C
58	Fruit carving class	2006/5/13	25	LJC club member	L J C
59	5th year anniversary: JPN movie(2)	2006/5/20	50	Lao,Japanese people	L J C
60	JPN cooking class	2006/5/20	15	LJC staff, JPN course students	L J C
61	Fruit carving class	2006/5/20	20	LJC club member	L J C
62	Seminar on Japan	2006/5/26	10	Youth Union member	L J C
63	5th year anniversary:JPN movie(3)	2006/5/27	30	Lao,Japanese people	L J C
64	Fruit carving class	2006/5/27	19	LJC club member	L J C
65	Karate demonstration	2006/5/30	120	NUOL studnets, Lao people	L J C
66	Fruit carving class	2006/6/3	20	LJC club member	L J C
67	Lao Dance for Foreigners	2006/6/3	5	Japanese people	L J C
68	Fruit carving class	2006/6/10	21	LJC club member	L J C
69	Fruit carving class	2006/6/10	9	LJC club member	L J C
70	Lao Dance class	2006/6/10	20	LJC club member	L J C
71	Seminar on Laos	2006/6/14	30	Lao people	L J C
72	Seminar on Laos	2006/6/14	14	Japanese people	L J C
73	Seminar on Japan	2006/6/16	5	JICE essay contest winners	L J C
74	Lao Dance for Foreigners	2006/6/17	4	Japanese people	L J C
75	Fruit carving class	2006/6/17	16	LJC club member	L J C
76	Fruit carving class	2006/6/17	5	LJC club member	L J C
77	Lao Dance class	2006/6/17	19	LJC club member	L J C
78	JPN movie show	2006/6/17	134	Lao,Japanese people	L J C
79	Lao Dance for Foreigners	2006/6/24	10	Japanese people	L J C
80	Fruit carving class	2006/6/24	16	LJC club member	L J C
81	Fruit Carving	2006/6/25	10	LJC club member	L J C
82	Lao Dance class	2006/6/26	15	LJC club member	L J C
83	Origami Class	2006/7/1	18	Lao kindergarden, junior school teachers	L J C
84	Fruit carving class	2006/7/1	16	LJC club member	L J C
85	Fruit carving class	2006/7/1	3	LJC club member	L J C
86	Lao Dance class	2006/7/1	12	LJC club member	L J C
87	Tanabata display	2006/7/7	250	Lao students	L J C
88	Orientation, JPN scholarship	2006/7/8	120	Lao students who apply examination	L J C
89	Pre-examination, JPN scholarship	2006/7/8	103	Lao students who apply examination	L J C
90	JPN cooking class	2006/7/15	9	Kumamoto Lao Association	L J C
91	Cooperation to J-POP concert	2006/7/16	1227	Lao, Japanese people	National Culture hall
92	JPN movie show	2006/7/22	45	Lao,Japanese people	L J C
93	Lao Dance for Foreigners	2006/7/22	5	Japanese people	L J C
94	Tea ceremony demonstration	2006/7/29	11	Women Union member, NUOL	L J C
95	Lao Cooking class	2006/8/5	5	Japanese people	L J C
96	Tea ceremony demonstration	2006/8/19	16	Lao National Fron for	L J C
97	Kendo & Karatedo Demonstration	2006/8/22	100	Lao, Japanese people	FEMB, NUOL
98	JPN movie show	2006/8/26	29	Lao, Japanese people	L J C
99	Lao Dance for Foreigners	2006/8/26	8	Japanese people	L J C
100	Seminar on Laos	2006/9/2	20	Youth invitation member	L J C
101	Lao Dance class/JICAfe	2006/9/2	10	Lao people	JICafe
102	Lao Dance class/JICAfe	2006/9/3	4	Japanese people	JICafe
103	Yukata wearing class/JICAfe	2006/9/9	11	Lao people	JICafe

104	Seminar on Japan by JAOL member/JICA	2006/9/9	15	Lao people	JICafe	ANNEX 7
105	Fruit Carving class/ JICAFAE	2006/9/9	19	Vientiane Capital, Educational	JICafe	
106	Lao Dance class/JICAFAE	2006/9/9	11	Vientiane Capital, Educational	JICafe	
107	Fruit Carving class/JICAFAE	2006/9/16	3	Lao people	JICafe	
108	Fruit carving class/JICAFAE	2006/9/16	6	Japanese people	JICafe	
109	Origami class/JICAFAE	2006/9/23	5	Lao people	JICafe	
110	Japan Quiz & Game/JICAFAE	2006/9/23	20	Lao people	JICafe	
111	Origami class outside(1)	2006/9/22	15	J-LATS workers	J-LATS	
112	Flower Arrangement class	2006/9/30	16	NUOL students	L J C	
113	JPN movie show	2006/9/30	50	Lao, Japanese people	L J C	
114	Kimono wearing class	2006/10/3	5	LJC staff	L J C	
115	Origami class outside(2)	2006/10/13	12	J-LATS workers	J-LATS	
116	fruit carving class	2006/10/14	11	LJC club member	L J C	
117	Lao Dance class	2006/10/14	14	LJC club member	L J C	
118	Hair Arrangement class for Yukata	2006/10/18	8	LJC staff	L J C	
119	JPN Comic display	2006/10/21	40	Lao, Japanese people	Monument books	
120	Lao Dance class	2006/10/21	10	Japanese people	L J C	
121	Fruit carving class	2006/10/21	11	LJC club member	L J C	
122	Lao Dance class	2006/10/21	11	LJC club member	L J C	
123	J P N movie show	2006/10/26	44	Lao, Japanese people	L J C	
124	JPN cooking class for trainers(1)	2006/10/28	13	JPN course studnets, trainees	L J C	
125	fruit carving class	2006/10/28	8	LJC club member	L J C	
126	Lao Dance class	2006/10/28	10	LJC club member	L J C	
127	Opera concert outside	2006/11/1	150	Art Teacher Training School for teachers	Art Teacher training school	
128	Fruit carving class	2006/11/4	10	LJC club member	L J C	
129	Lao Dance class	2006/11/4	12	LJC club member	L J C	
130	Opera concert /NUOL	2006/11/6	200	Lao, Japanese people	FEMB, NUOL	
131	JPN cooking class for trainers(2)	2006/11/11	13	JPN course studnets, trainees	L J C	
132	fruit carving class	2006/11/11	19	LJC club member	L J C	
133	Lao Dance class	2006/11/11	20	LJC club member	L J C	
134	Cooperation to NUOL 10th anniversary	2006/11/8	100	NUOL studnets, teachers	NUOL hall	
135	JPN movie show	2006/11/18	65	Lao, Japanese people	L J C	
136	Fruit carving class	2006/11/18	16	LJC club member	L J C	
137	Lao Dance class	2006/11/18	20	LJC club member	L J C	
138	Cooperation to WIG / ITECC	2006/11/19	80	Lao, Japanese people	ITECC	
139	JPN drum concert	2006/11/24	200	Lao, Japanese people	NUOL hall	
140	Lao Dance for Foreigners	2006/11/25	8	Japanese people	L J C	
141	Fruit carving class	2006/11/25	11	LJC club member	L J C	
142	Lao Dance class	2006/11/25	20	LJC club member	L J C	
143	Seminar on Laos	2006/11/29	50	NUOL studnets (FSS)	L J C	
144	Seminar on Laos	2006/11/29	20	Japanese people	JICafe	
145	JPN cooking class for trainers (3)	2006/12/9	12	JPN course studnets, trainees	L J C	
146	Fruit carving class	2006/12/9	12	LJC club member	L J C	
147	Lao Dance class	2006/12/9	20	LJC club member	L J C	
148	Seminar on Laos	2006/12/13	80	Lao people	L J C	
149	Seminar on Laos	2006/12/14	50	Japanese people	JICafe	
150	Special seminar	2006/12/22	270	Sport Teacher Training school for teachers	Sport Teacher Training school	
151	JPN cooking class for trainers (4)	2006/12/23	12	JPN course studnets, trainees	L J C	
152	Lao Dance for Foreigners	2006/12/16	3	Japanese people	L J C	
153	JPN movie show outside(1)	2006/12/18	250	Vientiane Highschool students	Vientiane Highschool	
154	X mas Origami	2006/12/20	10	Lao school teachers	L J C	

Exchange activity & Information Division:List activities 2007
January 2007 to December 2007

No.	Activity Name	Activity Date	No.Participants	To who we organize
1	Lao dance Class	2007/1/14	20	Trainers
2	JPN cooking Class	2007/1/20	11	Trainers
3	Fruit Carving Contest	2007/1/20	134	LJC club member
4	Lao dance for foreigner	2007/1/27	6	Japanese people
5	Japanese Monthly Movie Show	2007/1/27	40	Lao & JPN people
6	Japanese New year grame	2007/1/23	60	Lao Students
7	Special movie (Jp children shool)	2007/1/31	20	Lao Students
8	JPN cooking Class	2007/1/27	9	Trainers
9	Origami and Setsubun Class	2007/2/3	40	Lao Students
10	JPN cooking Class	2007/2/10	12	Trainers
11	Lao dance class	2007/2/10	17	NUOL women
12	Fruit Carving Class	2007/2/10	8	LJC member
13	Lao dance class	2007/2/17	13	NUOL women
14	Fruit Carving Class	2007/2/17	9	LJC club member
15	Girls Festival display	2007/2/22-3/7	250	Lao Students
16	Fruit Carving for foreigners	2007/2/24	10	Japanese people
17	Lao dance class	2007/2/24	7	NUOL women
18	Fruit Carving Class	2007/2/24	7	LJC club member
19	Japanese Monthly Movie Show	2007/2/24	24	Lao & JPN people
20	JPN cooking Class	2007/2/27	10	Trainers
21	JPN cooking Class	2007/2/28	10	Trainers
22	Lao-Japan Friendship Seminar	2007/2/28	70	Lao & JPN people
23	Fruit Carving Class	2007/3/3	7	LJC club member
24	Lao dance class	2007/3/3	8	NUOL women
25	JPN cooking Class	2007/3/3	12	Trainers
26	IKEBANA Demostration	2007/3/7	50	women union
27	Yukata Class	2007/3/12	9	LJC staff
28	Yukata Class	2007/3/13	10	Trainers
29	Yukata Class	2007/3/14	18	Teacher & Students
30	JPN cooking Class	2007/3/17	12	Trainers
31	Lao dance class	2007/3/17	14	LJC club member
32	Fruit Carving Class	2007/3/17	16	LJC club member
33	Support Cultural Festival	2007/3/17	100	Sunshine school children
34	Jicafe opening ceremony(Show lao dance)	2007/3/23	80	Lao & JPN people
35	Fruit Carving Class	2007/3/31	13	LJC club member
36	Lao dance class	2007/3/24	11	LJC club member
37	JPN cooking contest	2007/3/24	108	Lao Students
38	Fruit Carving Class	2007/3/24	12	LJC club member
39	Fruit Carving for foreigners	2007/3/30	8	Japanese people
40	Japanese Monthly Movie Show	2007/3/31	76	Lao & JPN people
41	Lao dance class	2007/3/31	11	LJC club member
42	Lao dance class	2007/4/7	11	LJC club member
43	Fruit Carving Class	2007/4/7	12	LJC club member
44	Children's Day display	2007/4/23-5/5	250	Lao Students
45	JPN Movie show(khamsavath College)	2007/4/26	40	Lao Students
46	Origami Class	2007/4/28	13	Trainers
47	Lao dance for JDS fellows	2007/4/28	11	Lao people
48	Fruit Carving for foreigners	2007/4/28	6	Japanese people
49	JPN cooking Class	2007/5/2	12	Trainers
50	Yukata Class	2007/5/3	9	JDS fellows
51	Origami Class (children'sday)	2007/5/4	13	Lao Teacher
52	JPN cooking Class	2007/5/5	12	Trainers

53	Lao dance for JDS fellows	2007/5/5	11	Lao people
54	Origami Class for trainer	2007/5/12	7	Trainers
55	Origami Class	2007/5/12	16	Lao people
56	Lao dance for JDS fellows	2007/5/12	11	Lao people
57	Fruit Carving for foreigners	2007/5/17	9	Japanese people
58	Seminar on Laos	2007/5/26	13	JICafe
59	Japanese Monthly Movie Show	2007/5/26	176	Lao & JPN people
60	Fruit Carving for foreigners	2007/5/26	6	Japanese people
61	Origami Class	2007/5/19	8	Trainers
62	Lao dance for JDS fellows	2007/5/19	11	Lao people
63	Opera (PINOCCHIO)	2007/5/29	40	Lao artists
64	Opera (PINOCCHIO)	2007/5/30	1200	Lao & JPN people
65	Origami Class	2007/5/30	25	Students & Teachers
66	Lao dance class	2007/6/2	24	Trainers
67	Fruit Carving Class	2007/6/2	16	Trainers
68	Seminar on MEXT scholarship program	2007/6/3	153	Lao Students
69	Lao dance class	2007/6/9	24	Trainers
70	Japan Seminar	2007/6/8	30	Lao people
71	Fruit Carving Class	2007/6/9	15	Trainers
72	Origami Class	2007/6/9	7	Trainers
73	Fruit Carving Class	2007/6/16	15	Trainers
74	Lao dance class	2007/6/16	24	Trainers
75	Origami Class	2007/6/16	5	Trainers
76	Kimono Class	2007/6/18	10	LJC staff
77	JPN cooking class	2007/6/23	40	JPN language festival
78	Fruit Carving for foreigners	2007/6/23	6	Japanese people
79	Lao dance class	2007/6/23	24	Trainers
80	Fruit Carving Class	2007/6/24	13	Trainers
81	Kimono Class	2007/6/26	10	LJC staff
82	JPN Movie show(Faculty of engineering)	2007/6/27	120	Lao & JPN people
83	Lao dance class	2007/6/30	24	Trainers
84	Fruit Carving Class	2007/6/30	11	Trainers
85	Yukata Class for young leader	2007/7/5	15	Lao people
86	Japan Seminar for young leaders	2007/7/5	15	Lao people
87	Tea ceremony Class	2007/7/3	7	Trainers
88	Tea ceremony Class	2007/7/6	6	Trainers
89	Tanabata display	2007/7/7	250	Lao students
90	Fruit Carving Class	2007/7/7	10	Trainers
91	Lao dance class	2007/7/7	24	Trainers
92	Origami Class	2007/7/7	4	Trainers
93	Fruit Carving Class	2007/7/14	10	Trainers
94	Lao dance class	2007/7/14	24	Trainers
95	Tea ceremony Class	2007/7/19	7	Trainers
96	JPN Movie show(NGO)	2007/7/21	60	Lao & JPN people
97	Fruit Carving Class	2007/7/21	10	Trainers
98	Lao dance class	2007/7/21	24	Trainers
99	Seminar on Laos	2007/7/28	10	Japanese people
100	Tea ceremony Class	2007/7/26	7	Trainers
101	Japanese Monthly Movie Show	2007/7/28	48	Lao & JPN people
102	Fruit Carving for foreigners	2007/7/28	6	Japanese people
103	Fruit Carving Class	2007/7/28	10	Trainers
104	Tea ceremony Class	2007/8/2	5	Trainers
105	Fruit Carving for foreigners	2007/8/3	4	Japanese people
106	Fruit Carving for foreigners	2007/8/4	7	Trainers
107	Seminar how to prepare JDS	2007/8/8	20	Lao people

108	Tea ceremony Class	2007/8/9	6	Trainers
109	Origami Class	2007/8/15	55	Lao Students
110	Tea ceremony Class	2007/8/17	5	Trainers
111	Seminar on Laos	2007/8/17	10	Japanese people
112	Tea ceremony Class	2007/8/23	6	Trainers
113	JPN Movie show (SVA)	2007/8/25	50	Lao & JPN people
114	Tea ceremony Class	2007/8/30	5	Trainers
115	Tea ceremony Class	2007/9/6	8	Lao people
116	Tea ceremony Class	2007/9/13	8	Lao people
117	Tea ceremony Class	2007/9/19	8	Lao people
118	Tea ceremony demonstration	2007/9/20	15	Lao Women's union member, JAOL
119	Lao dance for foreigner	2007/9/22	8	Japanese people
120	JPN Movie show	2007/9/29	21	Lao & JPN people
121	Fruit Carving for foreigners	2007/9/29	9	Japanese people
122	Origami Class	2007/10/6	8	Lao Students
123	Yukata Class	9-10-11/10/2007	15	Lao people
124	Seminar on Laos	2007/10/17	10	
125	JPN singing contest (pre)	2007/10/20	100	Lao & JPN people
126	Lao dance for foreigner	2007/10/20	6	Japanese people
127	LamVong & Bonodori dance class	2007/10/23	80	Lao Students
128	Kathong Class	2007/10/21	10	Japanese people
129	Nam Gum Seminar	2007/10/24	80	Lao students
130	Lao culture seminar for JOCV	October	20	JOCV, 4 times
-133				
134	JPN movie festivals	02-11/11/2007	1247	Lao & JPN people
135	Booth Exhibition at ITECC	09-11/11/2008	250	Lao & JPN people
136	JPN singing contest	2007/11/3	1200	Lao & JPN people
137	Yukata wearing at Lao-ITECC	9-11/11/2007	15	Lao People
138	Taiko group(play drum show)	2007/11/10	300	Lao & JPN people
139	Taiko group(play drum show)	2007/11/11	350	Lao People
140	Taiko group(play drum show)	2007/11/11	400	Lao & JPN people
141	LamVong & Bonodori dance	2007/11/11	800	Lao & JPN people
142	Fruit Carving for foreigners	2007/11/11	6	Japanese people
143	Seminar on Laos	2007/11/12	10	Japanese people
144	Judo & Kendo at FEMB	2007/11/17	400	Lao & JPN people
145	Judo & Kendo at luangprabang	2007/11/18	450	Lao & JPN people
146	JPN Folkdance	2007/11/21	400	Lao & JPN people
147	Lao dance for foreigner	2007/12/1	11	Japanese people
148	Opera concert at National school of music & dance	2007/12/4	300	Lao & JPN people
149-151	Japanese music class	2007/12/6	160	Lao children (5times)
152	Opera concert at National school of music & dance	2007/12/5	350	Lao & JPN people
153	Fruit Carving for foreigners	2007/12/8	5	Japanese people
154-157	Lao culture seminar for JOCV	December	4	JOCV, 4 times
158	Seminar on Laos	2007/12/12	60	Lao people
159	Seminar on Laos	2007/12/22	30	Japanese people
160-180	Introduce JPN music, culture on Radio	September-		Lao people, every Sunday

11729

TOTAL 180 ACTIVITIES WITH 11,729 PARTICIPANTS FROM JANUARY 2007 TO DECEMBER 2007

Exchange activity & Information Division:List activities 2008

No.	Activity Date	Activity Name	No. Participant	To who we organize	Place
1		Fruit Carving for foreigner	2008/1/22	3 JPN tourists	LJC,Multi 3
2		Seminar on Laos	2008/1/17	10 JPN people	JICafe
3		Ikebana &karuta	2008/1/23	30 lao people	LJC, seminar 1
4		Lao dance for foreigner	2008/1/26	5 JPN people	LJC, Annex 2
5		Japanese Monthly Movie show	2008/1/26	65 Lao and JPN people	LJC, Multi room 1,2,3
6		Field Trip for JOCVs	2008/2/1	3 JOCVs	Central Post Office
7		Origami Class	2008/2/2	6 lao people	LJC,Multi 3
8		Field Trip for JOCVs	2008/2/5	3 JOCVs	Vientiane Capital Water Supply
9		Setsubun & Origami Class (SATHID school)	2008/2/6	124 Lao primary school students	Sathid primary school
10		Lao Festivals	2008/2/7	3 JOCVs	LJC,seminar 1
11		Fruit Carving Class	2008/2/7	3 JOCVs	LJC,Seminar 2
12		Laolanguge class for JOCVs	February	3 JOCVs	LJC
13		Tea ceremony Class	2008/2/8	5 LJC staff	LJC,Culture room
14		Lao dance class	2008/2/9	11 LJC club member	LJC,Annex 1
15		Fruit Carving Class	2008/2/9	10 LJC club member	LJC,Corridor
16		Tea ceremony	2008/2/12	5 LJC staff	LJC,Culture room
17		Tea ceremony	2008/2/14	5 LJC staff	LJC,Culture room
18		Origami Class	2008/2/15	30 Lao primary school students	Khammoun province
19		Fruit Carving Class	2008/2/16	9 LJC club member	LJC,Corridor
20		Lao dance class	2008/2/16	11 LJC club member	LJC,Annex2
21		Lao dance foreigner	2008/2/16	7 JPN people	LJC,Annex2
22		Tea ceremony Class	2008/2/18	5 LJC staff	LJC,Culture room
23		practice Costume wearing	2008/2/18	3 JOCVs	LJC,Culture room
24		Lao dance Class	2008/2/18	3 JOCVs	LJC,Annex 2
25		Field Trip for JOCVs	2008/2/19	3 JOCVs	Medical College
26		Lao food Class	2008/2/20	3 JOCVs	LJC,Corridor
		Hina festival display	2/20/2008-3/3/2008	250 Lao & JPN people	LJC, Lobby room
27		Tea ceremony for JDS	2008/2/20	24 JDS	LJC,Culture room
28		Field Trip for JOCVs	2008/2/21	3 JOCVs	Friendship Hospital
29		Lao dance class	2008/2/23	11 LJC club member	LJC,Annex 1
30		Fruit Carving Class	2008/2/23	10 LJC club member	LJC,Corridor
31		Fruit Carving for foreigner	2008/2/23	3 JPN people	JICafe
32		Seminar on Laos	2008/2/25	30 JPN people	LJC,Multi 1,2
33		Seminar(Lao Japan Friendship)	2008/2/27	160 Lao & JPN people	LJC,Multi 1,2,3
34		Lao dance Class	2008/3/1	11 LJC club member	LJC,Annex 1
35		Fruit Carving Class	2008/3/1	9 LJC club member	LJC,Corridor
36		Judo & Aikido demonstration	2008/3/1	420 Lao & JPN people	FEMB
37		Origami Class(HINA festivals)	2008/3/3	40 lao people	LJC,lobby room
38		Seminar(Looking laos on TV)	2008/3/5	38 NUOL students	LJC, Multi 1,2
39		Seminar(how to introduce laos to JPN for JENESYS)	2008/3/9	35 Lao high school students	Lanchang Hotel
40		JPN cooking Class	2008/3/14	15 JDS fellow	LJC,Corridor
41		Lao dance for foreigner	2008/3/15	5 JPN people	LJC,Annex 2
42		JPN cooking Class	2008/3/18	8 Trainers	LJC,Corridor
43		Seminar on Japan	2008/3/21	22 JDS fellow	LJC,Multi 1
44		JPN cooking Class	2008/3/25	7 Trainers	LJC,Corridor
45		Japanese Monthly Movie show	2008/3/29	60 JPN & Lao people	LJC,Multi 1,2,3
46		Origami Class	2008/3/29	10 lao people	LJC,Annex 2
47		Fruit Carving for foreigner	2008/3/29	3 JPN people	JICafe
48		Seminar (Symposium Laos,its present situation and futur	2008/4/2	75 JPN & Lao people	LJC,Multy 1,2,3
49		Markbeng Class for foreigner	2008/4/5	4 JPN people	JICafe
50		Hanami Origami Class	2008/4/9	30 lao people	LJC,lobby room
51		Lao dance for foreigner	2008/4/26	8 JPN people	LJC,Annex 2
52		Origami Class	2008/5/2	18 Lao primary school students	sathid primary school
53		Fruit Carving for foreigner	2008/5/3	4 foreigner	JICafe
54		Origami class for Children'sday(TANGO-NO-SEKKU)	2008/5/5	15 lao people	LJC,lobby room
55		Children's day display	23/4/2008-6/5/2007	250 lao people	LJC,lobby room
56		Origami Class	2008/5/9	15 Lao primary school students	HuayHong primary school
57		Origami class	2008/5/12	16 Lao primary school students	Noybuathong Tai primary school
58		Origami class	2008/5/13	16 Lao primary school students	Chomphet primary school
59		Origami class	2008/5/14	16 Lao primary school students	Nongbon primary school
60		Lao dance for foreigner	2008/5/17	8 JPN people	LJC,Anex 2
61		Seminar on Laos (Rocket Festival Ceremony)	2008/5/21	30 JPN & Lao people	LJC, Multi room
62		Seasonal Events in Japan and SHODO	2008/5/23	14 NUOL JPN faculty students	LJC,Annex 2
63		JPN cooking Class and lifestyle	2008/5/30	14 NUOL JPN faculty students	LJC,Annex2 & Corridor

Publicity of LJC

LJC Article on Newspapers

No	Date	Title	Name of Newspaper	Fied/Category
1	17,18,21 Aug 2006	PR of Kendo and Karatedo demonstration	Vientaine times	Newspaper
2	17,18,21 Aug 2006	PR of Kendo and Karatedo demonstration	Vientaine mai	Newspaper
3	17,18,21 Aug 2006	PR of Kendo and Karatedo demonstration	Sport	Newspaper
4	24 Aug 2006	Ar Japanese demonstrates skillful Kendo	Vientiane times	Newspaper
5	23 Aug 2006	Ar Kendo and Karatedo demonstation	Sport	Newspaper
6	23 Aug 2006	Ar Kendo and Karatedo demonstation	Vientaine mai	Newspaper
7	1 Sep 2006	Pr September 2006 Events	Vientaine mai	Newspaper
8	1 Sep 2006	Pr September 2006 Events	Vientaine times	Newspaper
9	6 Sep 2006	Ar September 2006 Events	Vientaine mai	Newspaper
10	12 Sep 2006	Ar September 2006 Events	Vientaine times	Newspaper
11	12 Sep 2006	Ar JCC Meeting	Vientaine mai	Newspaper
12	15 Oct 2006	Ar September 2006 Events	M+mahaxon	Magazin
13	3 Oct 2006	Ar Ikebana demonstration	Vientaine mai	Newspaper
14	7 Nov 2006	Ar Aniversary of the National University	Vientaine mai	Newspaper
15	8 Nov 2006	Ar Japanese concert portrays traditional lifestlye	Vientaine times	Newspaper
16	29 Nov 2006	Ar Japanese Taiko concer	Vientaine times	Newspaper
17	13 Feb 2007	Ar Fruitn carving contest	Vientaine times	Newspaper
18	1 March 2007	Ar Book donation	Vientaine times	Newspaper
19	2 March 2007	Ar Japanese friendship seminar	Vientaine times	Newspaper
20	2 March 2007	Ar Japanese friendship seminar	Vientaine mai	Newspaper
21	8 March 2007	Ar Ikebana demonstration	Vientaine times	Newspaper
22	8 March 2007	Ar Ikebana demonstration	Vientaine mai	Newspaper
23	12 March 2007	Ar Japanese Speech contest	Vientaine times	Newspaper
24	28 March 2007	Ar Japanese Cooking contest	Vientaine mai	Newspaper
25	27 March 2007	Ar Japanese Cooking contest	Vientaine times	Newspaper
26	30 May 2007	Ar Japanese Opera artists skills with Lao singers	Vientaine times	Newspaper
27	1 June 2007	Pinocckio demonsatration	Vientaine times	Newspaper
28	9 June 2007	Ar JCC Meeting	Vientaine times	Newspaper
29	6 June 2007	Ar JCC Meeting	Vientaine mai	Newspaper
30	30 Oct 2007	Pr Lao-Japan friennndship festival 2007	Vientaine mai	Newspaper
31	31 Oct 2007	Pr Lao-Japan friennndship festival 2007	Vientaine mai	Newspaper
32	1 Nov 2007	Pr Lao-Japan friennndship festival 2007	Vientaine mai	Newspaper
33	23 Oct 2007	Pr Lao-Japan friennndship festival 2007	Vientaine times	Newspaper
34	30 Oct 2007	Pr Lao-Japan friennndship festival 2007	Vientaine times	Newspaper
35	1 Nov 2007	Pr Lao-Japan friennndship festival 2007	Vientaine times	Newspaper
36	31 Oct 2007	Pr Lao-Japan friennndship festival 2007	Pasason	Newspaper
37	1 Nov 2007	Pr Lao-Japan friennndship festival 2007	Pasason	Newspaper
38	5 Nov 2007	Ar Japanese Movie Festival Opening	Vientaine mai	Newspaper
39	9 Nov 2007	Pr Japanese Singing contest	Vientaine mai	Newspaper
40	14 Nov 2007	Ar Bon odori dances	Vientaine times	Newspaper
41	14 Nov 2007	Ar Bon odori dances	Vientaine Mai	Newspaper
42	25 Nov 2007	Ar Japanese Singing contest	Vientaine mai	Newspaper
43	23 Nov 2007	Ar Japanese Singing contest	Vientaine times	Newspaper
44	23 Nov 2007	Ar Japanese Folk dance	Vientaine mai	Newspaper
45	39412	Ar Japanese Folk dance	Vientaine times	Newspaper
46	20 Nov 2007	Ar Judo and Kendo demonstration	Vientaine times	Newspaper
47	16 Nov 2007	Pr Judo and Kendo demonstration	Sport	Newspaper
48	14 Nov 2007	Pr Judo and Kendo demonstration	Vientaine times	Newspaper
49	8 Deb 2007	Ar Japanese Opara captivates art students	Vientaine times	Newspaper
50	11 Deb 2007	Ar Japanese Opara captivates art students	Vientaine mai	Newspaper
51	24 Deb 2007	Ar Donation book from Meiji University	Vientaine times	Newspaper
52	17 Jan 2008	Ar New year flower arrangements and New year game	Vientaine times	Newspaper
53	29 Jan 2008	Ar New year flower arrangements and New year game	Vientaine mai	Newspaper
54	31 Jan 2008	Ar Special Seminar on Business Managerment	Vientaine times	Newspaper
55	4 Jan 2008	Ar Special Seminar on Business Managerment	Vientaine mai	Newspaper
56	12 Feb 2008	Ar Opening JDS Course	Vientaine mai	Newspaper
57	12 Feb 2008	Ar Exchange activity between lao studen& Japanese studen	Vientaine times	Newspaper

58	13 Feb 2008	Ar Exchange activity between lao studen& Japanese studen	Vientaine mai	Newspaper
59	4 Mar 2008	Ar Japanese doll for JDS	Vientaine times	Newspaper
60	7 Mar 2008	Ar Japanese seminar	Vientaine times	Newspaper
61	4 Ap 2008	Ar Symposium(Laos, it present situation and future)	Vientaine times	Newspaper
62	7 May 2008	Ar Origami class (Children's day)	Vientaine times	Newspaper
63	12 May 2008	Pr Origami Contest	Pasason	Newspaper
64	19 May 2008	Pr Origami Contest	Pasason	Newspaper
65	16 May 2008	Pr Origami Contest	Vientaine mai	Newspaper
66	20 May 2008	Pr Origami Contest	Vientaine mai	Newspaper
Radio				
1	2 Sep 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
2	9 Sep 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
3	16 Sep 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
4	23 Sep 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
5	30 Sep 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
6	7 Oct 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
7	14 Oct 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
8	21 Oct 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
9	28 Oct 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
10	4 Nov 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
11	11 Nov 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
12	18 Nov 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
13	25 Nov 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
14	2 Dec 2007	Interview Japanese singer Opara with LJC information	Lao National Radio	Radio
15	9 Dec 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
16	16 Dec 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
17	23 Dec 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
18	30 Dec 2007	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
19	6 Jan 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
20	13 Jan 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
21	20 Jan 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
22	27 Jan 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
23	3 Feb 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
24	10 Feb 2008	Interview Judo Studen with LJC information	Lao National Radio	Radio
25	17 Feb 2008	Interview JOCV Studen with LJC informaition	Lao National Radio	Radio
26	24 Feb 2008	Interview Gypsy Qreen with LJC information	Lao National Radio	Radio
27	2 Mar 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
28	9 Mar 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
29	16 Mar 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
30	23 Mar 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
31	30 Mar 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
32	6 Ap 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
33	13 Ap 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
34	20 Ap 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
35	27 Ap 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
36	4 May 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
37	11 May 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
38	18 May 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
39	25 May 2008	Lao-Japan information and Business, Japanese, Culture Exchange Division Pr	Lao National Radio	Radio
TV				
1	10 March 2007	On air IKEBANA demonstration	Laos National TV	TV
2	10 March 2007	On air Japanese speech contest	Laos National TV	TV
3	19 March 2007	On air Japanese cooking contest	Laos National TV	TV
4	5 June 2007	On air Ar JCC Meeting	Laos National TV	TV
5	21 Nov 2007	On air Japanese Folkdance	Laos National TV	TV
6	12 Deb 2007	On air Japanese Opara captivatès art students	Laos Star channael TV	TV
7	24 March 2008	On air Japanese speech contest	Laos National TV	TV

Note: The records were started to compile since August 2006

面談記録（教育大臣）

日時：2008年6月2日 14:00-14:40

場所：教育省

面談者

先方：ソムコット教育大臣、国際協力担当、秘書官、マニソットLJC 所長

当方：武井 JICA ラオス事務所次長、佐藤 CA、調査団（梅本、竹井、末田）

面談概要

梅本団長より、本調査団の訪問目的を伝えた後、これまでの LJC の活動及びフェーズ 2 後の方向性についてソ大臣の見解について問うたところ、同大臣より日頃の LJC 及びその他の JICA の協力に対する謝辞に続き、およそ以下のとおり発言があった。

1. LJC については、フェーズ 1 立ち上げの頃から関与している。LJC の活動は、ラオスの企業活動等にとって大変有益であると評価している。LJC の活動の 4 本柱（ビジネスコース、日本語教育、相互理解促進、コンピュータコース）はいずれも有益であり、ラオス企業の発展に寄与していると評価している。
2. 特にビジネスについては、MBA 立ち上げに協力するなど、FEBM との連携によって、FEBM 及び同学部の講師陣にも裨益しているところがある。
3. フェーズ 2 終了後についても、引き続き現在の 4 つの活動を継続し、日ラ双方にとっての窓口としての役割を果たしてほしい。
4. 将来的には、現在の「Center」という名称から「Institute」に格上げし、より質の高い事業を行っていくべきだと考えている。
5. 日本（JICA）からの協力については、高島 JICA ラオス事務所長ともフェーズ 2 後の自立発展性について問われた際にも、フェーズ 2 終了直後に自立するということは困難であろうと答えた。確かに、財務面でもすでに 50%はラオス側もしくは LJC 自己収入で賄われていると聞いているが、自立までにはもう少し時間が必要であろう。
6. そのためにも、JICA は、引き続き専門家を派遣してほしい。
7. LJC に関しては、サイコン副学長から毎週報告を受けている。詳しい議論については、同副学長やマニソット所長らと行ってほしい。

以上

面談記録（JICA ラオス事務所）

日時：2008年6月3日 8:30-10:30

場所：JICA ラオス事務所

面談者

先方：高島 JICA ラオス事務所長、松元所員

当方：調査団（梅本、末田）

面談概要

LJC のフェーズ 2 終了後の方向性について意見交換を行ったところ、およそ以下のとおり発言があった。

1. 日ラの経済関係は「日ラ官民合同対話」の開催など、発展の傾向にある。一方で、ラオスのビジネス活動の現状はまだ課題が多く、そのための人材育成についても課題が多い。
2. LJC は、ラオスの民間人材育成と日ラの関係強化に果たしている役割は大きい。他の代替機関が活動するようになるまでは、現在の機能を維持もしくは発展させるべき。
3. JICA の投入については、減らしていく可能性はあるかもしれないが、フェーズ 2 終了と同時に全くなくなるという選択肢も現実的ではない。どのような形・規模が妥当なのか、知恵を出して検討していく必要がある。JICA の対ラオス協力の中での位置づけも、現在と同様に民間セクター強化のための人材育成（重点開発課題）が妥当である。
4. MBA については、学位を授与する機関も出てきているが、内容が伴っていない。また、学歴と職制がリンクした社会システムが構築されつつある。LJC の協力を通じて、適切な人材を育成・輩出することで、これを是正することができるのではないか。
5. 日本の経営・働く倫理観を教える場、独自性のある MBA
6. 大学間交流、NGO との連携は難しい、自治体は活発ではない、日本の旅行会社とのタイアップ

以上

面談記録（鈴木専門家）

日時：2008年6月3日 11:00-12:20

場所：投資計画省

面談者

先方：鈴木専門家（投資アドバイザー）

当方：松元 JICA ラオス事務所員、調査団（梅本、末田）

面談概要

梅本団長より、本調査団の訪問目的を伝えた後、現在の LJC の活動に対する評価及び今後の方向性（特に日ラ経済関係の進展に伴う LJC の役割）について問うたところ、およそ以下のとおり発言があった。

1. 自分は長くラオスに携わってきており、LJC 及び FEBM についても見てきた。フェーズ 1 も含めたこれまでの経緯ではいろいろと課題も多かったと見ているが、現在はおおむね良好に活動していると評価している。
2. ラオスは、経済活動に関して競合国であるミャンマー、カンボジアとの比較では、政治的安定性という点で大きな比較優位があり、日本企業が投資する環境としては域内では最適である。物価・人件費や言語等の面で、バンコクの生産工程の一部をラオスで行うことは、追加費用を勘案しても価格的に優位にある。優位性は、人件費が生産コストのどれくらいの割合を占めるかによるが、人件費比率が低い業種でもすでに進出している企業もある（ie. 自動車部品）。
3. 今後、日本企業が進出していく中で、LJC に求められる役割は以下の 2 点。
 - ①労働者の質は決して高くはない。ビジネスコース等で上層部の人材育成を行う必要性は高い。
 - ②日本語が話せる現地スタッフが必要である。現在は 2 級レベルの輩出もまだ十分ではない。仕事で使えるレベルということであれば、1 級もしくは 1 級と 2 級の間くらいは必要である。
4. MBA については、これまで佐藤 CA と議論してきた。基本的には、MBA をやること自体については自分も賛同するが、主体は FEBM であるべきだと思う。コメントがあるとなれば、夜間部からではなく昼間部から始めるべきだったのではないかと、ということと、夜間部から始めるのであれば、NUOL のキャンパスは遠すぎるので、市内にサテライトキャンパスを設けるべきだと思う。
5. MBA 運営の面での留意点は以下のとおり。
 - ①入学不正を行わせないシステム

②教員に対するインセンティブ（手当て）

③教務以外を教授会で決定させない意思決定システムの構築

以上

面談記録（スコンセン NUOL 学長）

日時：2008年6月3日 13:10-14:00

場所：NUOL 本部

面談者

先方：スコンセン NUOL 学長、マニソット LJC 所長

当方：松元 JICA ラオス事務所員、佐藤 CA、調査団（梅本、末田）

面談概要

梅本団長より、本調査団の訪問目的を伝えた後、現在の LJC の活動に対する評価及び今後の方向性についてス学長の見解について問うたところ、同学長より日頃の LJC に対する JICA の協力に関する謝辞に続き、およそ以下のとおり発言があった。

1. LJC の活動は高く評価している。裨益は、学生や市民だけではなく、学内の講師陣にも及んでいる。各活動に対する評価は以下のとおり。
 - ① 日本語については、日本への留学前の準備としての役割が大きい。日本語学科も講師が LJC 修了生であるなど、学科への実体的な裨益もある。
 - ② ビジネスについては、質の高いサービスを提供しており、ラオスのビジネス界へのインパクトは大きい。MBA 設置によってその役割は拡大する。日本側が行っていた現場診断とその成果については承知していない。
 - ③ 相互理解は、各種活動を通じてラオス政財界の重要人物が NUOL を訪問する機会を提供してくれている。また、日本の大学との交流や留学生支援などによるメリットも享受している。
2. 将来的に LJC は機能拡大にともなって名称を「center」から「institute」に変更することを考えている（詳細はマニソット所長とのインタビューを参照）。それに伴い、研究活動を行うことも検討したい。
3. 日本からの協力については、自立発展性の観点から、引き続き協力が必要と考えている。財政的な負担については、現状 50%であるが、その比率を変えていくことも検討したい。そのためには、予算措置が必要であり、前広に議論していく必要がある。

以上

面談記録（カムルーサ FEBM 学部長）

日時：2008年6月3日 14:20-15:15

場所：FEBM, NUOL

面談者

先方：カムルーサ FEBM 学部長、マニソット LJC 所長

当方：佐藤 CA、調査団（梅本、末田）

面談概要

梅本団長より、本調査団の訪問目的を伝えた後、現在の LJC の活動に対する評価及び今後の方向性について問うたところ、およそ以下のとおり発言があった。

1. LJC が担っている機能は高く評価している。実際のビジネスに携わる人々が経営に関する実践的なスキルを習得する機会が限られている中で、LJC のビジネスコースが実践的な研修機会を提供している意義は大きい。特に、関専門家をはじめとする JICA の専門家は実際のビジネスをよく知っていることは優位性が高い。
2. （当方より、日本側主導で行ってきた現場診断等のラオス側講師陣へのインパクトについて問うたところ）アカデミックな知識を実体経済と結びつけるという点では十分なインパクトがあったと考えている。日本の留学から戻ってきた FEBM 講師の中には、積極的に学外に出て、ラオスの企業活動を調査した者もいて、多くの事例研究を行った。
3. MBA については、全ての修了生が自らのビジネス活動に戻るわけではなく、そのまま学業を継続して博士を取るような受講生も出てくると考えている。その観点では、アカデミックなカリキュラム構成も必要ではないかと考えている。
4. （当方より、先の JCC の繰り返しになると前置きしつつ、MBA に対する JICA の協力方針について、①フェーズ2期間中はあくまで LJC ビジネスコースが主たる協力活動であること、②MBA 選択科目については、投入規模は検討中ではあるが、講師派遣の用意は条件付（将来的にはラオス側が講義を担当するという前提で C/P を配置すること）で検討していること、③LJC/MBA とともに講師の質、特に教授法など、をより高くするための協力を検討していること、について伝達するとともに、併せて、LJC ビジネスコースに対する協力においては、これまでのビジネス部門と JICA 専門家との関係を見直し、ブンルアン氏を C/P とする専門家を派遣することを検討中であること、を説明したところ）了解した。JICA が協力について検討していることに感謝したい。

以上

面談記録（宮下在ラオス日本大使）

日時：2008年6月3日 16:00-17:00

場所：在ラオス日本大使館

面談者

先方：宮下大使、川久保二等書記官

当方：松元 JICA ラオス事務所員、佐藤 CA、調査団（梅本、末田）

面談概要

梅本団長より、本調査団の訪問目的を伝えた後、現在の LJC の活動に対する評価及び今後の方向性について問うたところ、およそ以下のとおり発言があった。

1. ラオスはようやく市場経済に入りつつあるという段階。経済成長が順調でインフレ率も安定している。投資の増大とともに財政も改善してきている。自分が10数年前に赴任していた当時のベトナムに近い状況である。
2. 日本企業から見た投資環境としては、コスト面から見て競争力が高い。すでに労働集約的な産業は中国やタイから進出してきている。アグロビジネスも移ってきている。投資環境の整備が重要。昨年の投資協定のあと、12月に「日ラ官民合同対話」を開催し、法制や税制など多岐にわたる項目についての「政策提言」を同会議で行った。現在、ラオス側はこれを検討中であり、次回の会合で回答を出す予定である。
3. このような状況の中で、LJCは日本の顔として機能している。JETROやJFの進出が予定されていない当面の現状下では、LJCは現在の活動・機能を維持していく必要がある。
4. 個別の活動に対する評価は以下のとおり。
 - ① BAについても、質の高いビジネスマンを育成していく意義は高く、協力を行うべきだと思う。
 - ② 日本語については、NUOL日本語学科はあるものの、まだレベルが低く、依然としてLJCがラオスの日本語教育における中心的役割を果たしている。
 - ③ 相互理解については、既述のとおり、他の類似機関がないという点で存在意義が大きい。また、これまでの活動で蓄積された経験（動員力など）も高く評価している。
5. フェーズ2終了後の方向性については、日ラの「知的交流の拠点」となるべきだと考える。現在行っている活動全てにおいて、ラオスのソフト面での発展を支える拠点として、より高度な協力を行っていくような機能である。ラオスにはまだシンクタンクと呼べる組織はない。将来的にはLJCにそのような役割を期待したい。
6. （当方より、今後のスケジュールと、これまでの東京での議論を伝えたところ）今回の評価調査の結果報告を聞いたうえで、必要に応じて本省に対して意見具申を行うこ

とも検討したい。

以上

面談記録（ソムチット投資計画省国際協力局長）

日時：2008年6月4日 10:00-11:00

場所：投資計画省

面談者

先方：ソムチット局長ほか2名

当方：松元 JICA ラオス事務所員、調査団（梅本、末田）

面談概要

梅本団長より、本調査団の訪問目的を伝えた後、現在の LJC の活動に対する評価及び今後の方向性についてス学長の見解について問うたところ、同局長より日頃の LJC 及びその他の JICA の協力に対する謝辞に続き、およそ以下のとおり発言があった。

1. 自分は、LJC へは講師としても訪問したこともあり、同センターの活動はよく知っている。これまでの活動については、うまく運営されていると評価している。また、財務体制も日本側は 50%の負担であるなど、ある程度の自立性は確保されていると聞いている。
2. より質の高い、ラオス社会への裨益効果の高い活動を目指すためには、スタッフの育成、より魅力的な研修カリキュラムの開発（ビジネスコース）、などが必要であると考ええる。
3. フェーズ2後の LJC の方向性については、自分は、情報拠点のようなものではないかと考える。
4. また、より市民に開かれたセンターとなるためには、現在のセンターの設置場所は不便である。市中にも拠点を設けるべきではないかと考える。（当方より、仮に NUOL が場所の提供ができなかった場合、政府もしくは省として市中での場所を確保してもらうことは可能かと問うたところ）非常に難しい問題ではある。まずは大学と相談してもらうことが先決と考える。

以上